

# 世界政治資料

9月 臨時増刊

チエコスロバキア問題と  
国際共産主義運動



No. 292

1968

日本共産党中央委員会発行

# 日本共産党の四十五年

B6・一四〇頁・一〇〇円

日本人民とともに、その先頭にたつてきた日本共産党の歴史は、同時に日本人民の近代、現代史でもあります。党創立四十五周年を記念して出版された本書は、日本のあかるい未来をきりひらく日本共産党の真の姿とその歴史を知るための必読の書。

# 不屈の日本共産党

—党創立四十五周年記念集会から— B6・六〇頁・九〇円

党創立四十五周年記念行事での野坂議長、宮本書記長、米原幹部会員の演説を収録。日本共産党の不屈の革命的伝統、米日二つの敵と対決し、「左」右の日和見主義とたたかいながら前進する今日の党の姿、当面の日本人民の課題などについてあきらかにする。

# 日本共産党と社会主義・共産主義の政治理念

B6・八〇頁・八〇円

日本共産党の終局の目標である社会主義・共産主義とはどういうものか、党と革命の理念とは？ 自民党の悪質なデマ宣伝、「理念攻撃」を粉砕して、日本共産党の政治理念をわかりやすく解説した小冊子。

## 世界政治資料

9月・臨時増刊号

No. 292 1968. 9. 20

## チェコスロバキア問題と 国際共産主義運動

# 社会・公明・民社

—その体質と政策—

B6・二二〇頁・一四〇円

三つの中間政党の政治姿勢、体質、政策、行動をわかりやすく分析、批判。社会、公明、民社党の性格を、具体的に知るための手になる読物です。

# 日本の中間政党

B6・三三〇頁・五〇〇円

本書は、I 参院選挙の争点と各党の政策の特徴 II 民社党 III 公明党 IV 社会党の四つの部分にわけ、日本の安全保障、防衛、沖縄返還、生活問題など、参議院選挙の争点を詳細に説明し、さらに、各党の歴史、性格、組織、綱領政策などの資料を付す。すべての活動家必携の書。

前衛 1月臨時増刊 180円千18

〈特集〉

# 日本の政党

自由民主党 / 民主社会党 / 公明党 / 日本社会党  
—そのイデオロギーと政策・組織の解明—

目次

編集部まえがき

I 日本共産党の主張

- ☆ チェコスロバキアにおける重大事態について 日本共産党中央委員会幹部会 八月二四日……4
- ☆ チェコスロバキア問題についての幹部会声明とわが党の任務 『赤旗』主張 八月二七日……5

II チェコスロバキア、ソ連その他の文献

- ☆ チェコスロバキア共産党中央委員会幹部会声明……………八月二一日 9
- ☆ チェコスロバキア国民議会幹部会の声明……………八月二一日 9
- ☆ チェコスロバキア政府の声明……………八月二一日 9
- ☆ スボボダ大統領のラジオ放送演説……………八月二一日 10
- ☆ チェコスロバキア外務省が五カ国に伝達した覚書……………八月二一日 11
- ☆ チェコスロバキア政府臨時閣議についての報道……………八月二一日 11
- ☆ ソ連タス通信社の声明……………八月二一日 12
- ☆ ソ連タス通信社の発表……………八月二一日 13
- ☆ ドイツ民主共和国の党・議会・政府の共同声明……………八月二一日 13
- ☆ 社会主義をまもることは最高の国際主義的義務である 『プラウダ』……………八月二二日 15
- ☆ 五カ国政府のチェコスロバキア社会主義共和国市民へのアピール……………八月二四日 30
- ☆ ソ連リチェコスロバキア会談にかんするコミュニケ……………八月二七日 31
- ☆ ドゥプチェク第一書記の演説……………八月二七日 32
- ☆ スボボダ大統領の演説……………八月二七日 33
- ☆ 国際主義への忠誠『プラウダ』……………八月二九日 36

III 各国の党の見解

- ☆ アメリカ共産党ガス・ホール書記長の声明……………八月二一日 38

- ☆ イギリス共産党声明(要旨)……………八月二一日 38
- ☆ イタリア共産党政治局コミュニケ(要旨)……………八月二一日 39
- ☆ イタリア共産党指導部のアピール(要旨)……………八月二三日 39
- ☆ オーストラリア共産党全国指導部のアピール……………八月二一日 39
- ☆ フィデル・カストロ首相の発言(要旨)……………八月二一日 40
- ☆ ルーマニア建国記念日のレセプションでの周恩来演説……………八月二三日 41
- ☆ 最近のチェコスロバキアの事態について『朝鮮中央通信』……………八月二二日 42
- ☆ チェコスロバキアの事態の歴史的教訓『労働新聞』……………八月二三日 46
- ☆ ドイツ共産党の声明(要旨)……………八月二一日 52
- ☆ ノルウェー共産党幹部会声明……………八月二一日 53
- ☆ フランス共産党の声明……………八月二二日 53
- ☆ フランス共産党中央委員会のコミュニケ……………八月二三日 52
- ☆ フランス共産党政治局の声明……………八月二五日 54
- ☆ ベトナム民主共和国VNAの報道……………八月二一日 54
- ☆ モロッコ社会主義解放党アリ・ヤタ書記長の声明……………八月二四日 55
- ☆ ルーマニア共産党中央委員会、国家評議会、政府のコミュニケ……………八月二一日 56
- ☆ ルーマニア大国民議会の宣言……………八月二二日 56
- ☆ ルーマニア共産党チャウシエスク書記長の演説……………八月二一日 60

IV ハンガリー反革命事件について(歴史的文献)

- ☆ ハンガリー社会主義労働者党へのメッセージ……………八月二一日 62
- ☆ 一九五七年一月二二日 日本共産党中央委員会……………八月二一日 62
- ☆ ハンガリー人民の勝利とプロレタリア国際主義……………八月二一日 63
- ☆ 一九五六年一月二六日 『アカハタ』……………八月二一日 63
- ☆ 政治情勢と党の任務に関する中央委員会報告……………八月二一日 64
- ☆ (一九五七年六月二七・二九日) ヤノシ・カダル……………八月二一日 64

V その他の研究資料

- ☆ チェコスロバキア共産党規約草案(抜粋)……………八月二一日 73
- ☆ 二千語宣言……………八月二一日 75
- ☆ チェコスロバキア共産党中央委員、閣僚、議員の一部グループのアピール……………八月二一日 78
- ☆ チェコスロバキア共産党第一四回臨時大会の声明……………八月二一日 80

編集部まえがき

ワルシャワ条約加盟国中五カ国軍のチェコスロバキア領進入によって生じた重大事態について、日本共産党は八月二四日の中央委員会幹部会声明でその立場をあきらかにし、さらに二七日付『赤旗』主張で同声明の意義と党の任務を明確にのべています。中央委員会発行の国際情報資料誌としての本誌は、この立場から自主的に究明すべき資料をできるかぎり包括的に収集して、ここに臨時増刊号を緊急に発行します。

わが党の声明と主張からなる第I部につづいて、第II部ではチェコスロバキアの党指導部と政府が八月二一日いろいろ発表したおもな声明、演説と、五カ国側から出された重要声明、論説などを日付順に配列し、事

態の経過と双方の主張を系統的に検討できるようまとめられています。

第III部はこの事態をめぐる各国共産党・労働者党の見解をしめす代表的な文献集です。第IV部には今回の事態を解明するうえで必要な一九五六年のハンガリー反革命事件にかんする歴史的文献を収録しました。第V部にはその他の研究資料として要望の多いものをあつめてあります。

本誌が外国の文献を紹介するさいは、原則としてその国の党によって確認されたものを掲載する態度をきびしくもっています。今回の事態を包括的に研究するためには、チェコスロバキアの党によって認められたもの以外にも若干の資料が必要になってきます。第V部の資料のなかにはその意味での批判的研究に供するものも含まれています。

# 日本共産党の主張

## チェコスロバキアにおける

## 重大事態について

一九六八年八月二四日

日本共産党中央委員会幹部会

チェコスロバキアにおける今回の問題について、関係各国の情報をうることをはじめ、正確な事態をつかむために、あらゆる努力をはらって来た日本共産党中央委員会幹部会は、現在までにあきらかにされた事実にもとづいてこの問題を慎重に検討した結果、八月二四日、つぎの声明を発表しました。

ワルシャワ条約加盟国のなかの五カ国の軍隊は、八月二〇日夜（日本時間八月二一日早朝）突如、チェコスロバキア社会主義共和国の国境をこえて進入し、事実上の占領をおこなった。そして、その後の事態の進展は、きわめて深刻な、憂慮すべき状態をつくりだしている。これらの国は、この行動を、社会主義にたいする脅威をとりのぞく目的でおこなわれたものと説明している。しかし、わが党は、これまでにあきらかになつた事実にもとづき、これらの国の行動は、国際共産主義運動、社会主義陣営、反帝民主勢力の団結にと

つてきわめて重大な影響をもつものであると考える。チェコスロバキアには、五カ国軍隊の進入当時、この五カ国をふくむ世界各国と兄弟党とがみとめていた、社会主義国家機関とそれを指導する共産党が存在し、活動していた。チェコスロバキアの最近の情勢は、わが党の第七回中央委員会総会決定が指摘しているように、従来の路線の再検討と新しい路線の設定をめぐる、対外盲従主義、事大主義を克服して自主独立の立場へむかおうとする努力がよまるとともに、自由主義、分散主義の傾向があらわれるなど複雑な経過をたどっていた。また帝国主義の策謀もつよまっていた。

しかし、他の社会主義国が、かりにチェコスロバキアの一部の指導者たちの要請があつたとしても、チェコスロバキアの党の指導部や政府と協議もせず、同意もえずに、軍隊を出動させ、事実上の占領状態をつく

る。一方的な軍事的行動によって解決しようとするとは、宣言と声明の規定を一片の空語と化するものにはかならない。このような干渉は、ならん問題を解決せず、逆に矛盾と対立を激化させて不団結と混乱を大きくするだけである。

七月一九日付の日本共産党中央委員会のチェコスロバキア共産党中央委員会あての電報のなかでのべたように、チェコスロバキアの問題は、マルクス・レーニン主義の諸原則にもとづいて、チェコスロバキアの党と人民自身によって解決されるべきものであり、いかなる党も他の兄弟党の内部問題に干渉する権利はもっていないとわが党は確信している。

一方的な軍事的行動によって解決しようとするとは、宣言と声明の規定を一片の空語と化するものにはかならない。このような干渉は、ならん問題を解決せず、逆に矛盾と対立を激化させて不団結と混乱を大きくするだけである。

わが党は、チェコスロバキアの党と人民がかたく団結し、現在の重大な事態をのりこえ、この事態にっけこんで策謀を強化しているあらゆる社会主義の敵を粉碎し、両翼の日和見主義とたたかってマルクス・レーニン主義のさしめす道を前進することを心から期待するとともに、なによりもまず五カ国の政府と党が、チェコスロバキアの内部問題にたいする今回の不当な干渉をただちにとりやめ、その軍隊をすみやかに撤退させることをつよく要請するものである。

一九五七年の宣言と一九六〇年の声明が規定しているように、兄弟党間、社会主義国家間の問題は、あくまで自主、平等、相互の内部問題不干渉の基準を厳守し、同志的な協議にもとづいて解決すべきものである。

## チェコスロバキア問題についての

## 幹部会声明の意義とわが党の任務

一九六八年八月二七日

「赤旗」主張

(一)

ワルシャワ条約加盟国のなかの五カ国の軍隊が、八月二〇日夜（日本時間八月二一日早朝）、突如チェコスロバキアに進入した重大事態について、正確な事実をつかむために努力しながら慎重に検討していた日本共産党中央委員会幹部会は、八月二四日、声明「チェ

コスロバキアにおける重大事態について」を発表しました。わが党が、事件後ただちに談話や声明を発表した他の政党と異なり、いそいで態度表明をおこなわなかったことについて、「一般新聞などは、「同党は困惑の模様」とか「頭をかかえている」とか、勝手な論評をくわえていました。また党の内外からも、しきりに党の

り出すというようなことは、独立、平等、相互の内部問題不干渉という社会主義国家間、兄弟党間の関係を律する原則からいって、絶対に同意できないものである。これは、国際共産主義運動、社会主義陣営の団結、アメリカ帝国主義のベトナム侵略に反対するすべての反帝勢力の国際統一行動の強化という今日の切実な課題にもそむく行動であり、社会主義の威信を大きく傷つけるものである。アメリカを先頭とする帝国主義勢力、内外の反動勢力、反共主義者、トロツキストなどは、社会主義体制と国際共産主義運動の中傷と破壊に人民をかりたてようとしてこの事態を利用し、大規模な反社会主義、反共宣伝に狂奔している。

われわれはもちろん、社会主義陣営に属しているいかなる国にたいする侵略をもゆるさず、帝国主義勢力、反革命勢力による社会主義権力の転覆と破壊の策動にたいしては、全力をつくして闘争し、真のプロレタリア国際主義にもとづきその国の党と人民を断固として援助するものである。現にわが党は、ベトナム民主共和国にたいするアメリカ帝国主義の侵略を糾弾し、ベトナム人民への支援を強化するために奮闘している。

一九五六年に、ハンガリーにおいて、帝国主義の援助をうけた反革命分子が、党と国家の機関や指導者にたいするテロと暴動を公然と組織し、社会主義制度を解体しようとする重大な事態をつくりだしたときに、ソ連軍がカダル同志を首班とする労働革命政府の要請に応じて社会主義ハンガリーをまもるために国際的援助をおこなったさい、わが党はその援助に連帯の意思

態度についての問い合わせもありました。一貫した明確な内容と毅然（きぜん）とした態度をもつた今回の中央委員会幹部会声明の発表は、一部の推測や論評が、無責任なものでしかなかったことをあきらかにしました。

チェコスロバキア問題についてのわが党の基本的態度は、すでに七月一九日付の日本共産党中央委員会のチェコスロバキア共産党中央委員会あての電報、および七月三十一日に採択された第七回中央委員会総会決定のなかであきらかにされています。

七中総決定はつぎのようにのべています。

「チェコスロバキアにおける最近の事態は、東ヨーロッパの諸党のあいだに、大國主義とこれに追隨する対外盲従の路線に反対して、自主独立の路線を追求しようとする傾向があらたにつよまってきたことをしめしている。これは、事態の展開のなかで新しく自由主義的・分散主義的動揺分子の問題をともしなうなど、複雑な経過をたどっているが、従来の路線の再検討および新しい路線の探求と設定をめぐる大國主義、対外盲従主義の克服と自主独立の立場への努力が、なお未成熟の諸側面をともしないが、客観的にはこの過程の中心課題のひとつになっていることは重要である。さらに、チェコスロバキアをめぐる情勢は、各国の党と人民の自決の権利をおかそうとする大國主義が、国際共産主義運動の内部に依然として根づく存在しており、その克服が、両翼の日和見主義の潮流の克服とともに、国際共産主義運動の大きな課題であることを、あらためてあきらかにした。わが党中央委員会は、七月一九日、チェコスロバキア共産党中央委員会に電報を送り、現在チェコスロバキアでおきている問題は、チェコスロバキア共産党の積極的指導のもとにチェコスロバキア人民自身によって解決されるべきもの



であり、いかなる党も、他の兄弟党の内部問題に干渉する権限をもっていないというわが党の見解を明確に表明した」

基本的態度は明白であったにもかかわらず、中央委員幹部会が事態を慎重に検討したのは、七月末から今年はじめにおこなわれたチェコスロバキア共産党中央委員幹部会とソ連共産党中央委員会政治局とのチエリナ会談、この二つの党に、ブルガリア、ハンガリー、ドイツ民主共和国、ポーランドをくわえた六ヶ国の党が共同声明を発表したブラチスラバ会談後二〇日もたないうちに、五ヶ国軍隊が一方的に進軍し、チエコスロバキアを事実上占領し、ドプチェク第一書記、チエリニク首相をはじめとする党と政府の指導者数名を連行するなどといった今回の不当な干渉とそれをもたらす結果が、あまりにも重大だったからです。国際共産主義運動、社会主義陣営、反帝民主勢力の団結にとつても、大きな否定的影響をもつこの事態にたいして、わが党の中央委員幹部会が、一般新聞の報道だけでなく、関係各国からの公式の情報をうることをはじめ、正確な事態をつかむためにあらゆる努力をほらひ、あきらかにされた事実にもとづいて慎重に検討をくわえたのは当然のことです。これこそ、日本の革命運動に全責任をもつとともに、国際共産主義運動にたいしてもその一部隊として共同の責任をもつ党が持つべき正しい態度でしょう。

## (一)

日本共産党中央委員幹部会の声明は、きわめて重要な意義をもっています。

中央委員幹部会声明は、第一に、五ヶ国軍隊によるチエコスロバキア進軍と事実上の占領が、きわめて深刻な事態をつくりだしたことに深い憂慮を表明しながら、「社会主義にたいする脅威をとりぞくため」

という五ヶ国側の説明にたいし、進入当時のチエコスロバキア情勢についてのわが党の見解を簡潔にのべています。

わが党は、ことしの一月総会以来のチエコスロバキア共産党の新しい路線をかならずしも全面的に支持する態度をとっているものではありません。七中総決定も指摘していたように、自主独立の立場への努力とともに、自由主義、分散主義の危険な傾向もあらわれていました。たとえば、党中央が批判をくわえるようないわゆる「二千語宣言」に党員が勝手に署名し、しかもそれが共産党の指導する青年同盟の機関紙などに掲載されたというようなことは、前衛党の組織原則に反するものです。

また、八月九日、チエコスロバキアを訪問したユーゴスラビアのチトー大統領は熱烈な歓迎をうけ、チエコスロバキアの新聞は「チトー主義」を公然と謳歌しました。外国の干渉がよまるとともに、チエコスロバキアの党の内外に、干渉への反発ともむすびついて、しだいに右翼日和見主義の傾向がひろがり、マルクス・レーニン主義の諸原則から逸脱するさまざまな傾向があらわれてきたことにも、われわれは注目していました。ユーゴスラビアの現代修正主義者や帝国主義者も、こうした行きすぎた「自由化」現象につけて、その策謀を強化していました。

しかし、わが党は、これらの問題は、マルクス・レーニン主義の諸原則にもとづき、チエコスロバキア共産党の積極的指導のもとに、チエコスロバキア人民自身が自主的に解決すべき問題であり、いかなる党も他の党の内部問題に干渉する権利はもっていないという態度を堅持してきました。わが党は、チエコスロバキア共産党中央委員会の電報のなかで表明したように、これらの問題を正しく解決するためにも、チエコスロバキア共産党が、「チエコスロバキアの具体的な条

一九六〇年の声明は、兄弟党間の関係について、つぎのように規定しています。

「すべてのマルクス・レーニン主義党は、独立した平等な党であり、各国の具体的情勢に応じ、マルクス・レーニン主義の諸原則にしたがってそれぞれの政策をたてており、しかもたがいに支持しあっている」

「もしいづれかの党に他の兄弟党の活動にかんする問題が生じた場合には、その党の指導部は相手の党の指導部に話をもちかける。もし必要があれば会議を開き相談をおこなう」

チエリナ会談とブラチスラバ会談は、この基準をまもって問題を解決しようとする努力のあらわれでした。そのあとで、なんらかの問題が起こったとしても、あくまでこうした同志的な協議にもとづいて解決すべきであつたにもかかわらず、他の党が、チエコスロバキアの国内では反革命勢力の活動が社会主義制度を危うくしているという一方的に認定し、チエコスロバキアの党の指導部や政府の要請も同意もなしに、協議の申し入れさえおこなわずに、しかもチエコスロバキア共産党の臨時党大会の開催を目前にした時期に、圧倒的な軍事力を動員して、党や政府の活動さえ外国の統制下におこうとすることは、すべての社会主義国、すべての兄弟党が一致して確認した宣言や声明のこれらの規定を一片の空語に化することにほかなりません。それは、民族の自決の権利や各党の自主独立の立場をおかして、自己の路線を他の社会主義国や他の兄弟党におしつけようとする大国主義的干渉のあらわれです。

## 日本共産党の主張

わが党は、一九五〇年問題、一九六四年のフルシチョフらの干渉、一九六六年の毛沢東らの干渉と、こうした大国主義的干渉によって、重要な被害をうけたいくつかの痛切な経験をもっています。とくに一九五〇

件にマルクス・レーニン主義を正しく適用し、民主主義的中央集権制の原則にもとづく党の指導的役割を正しく発揮し、チエコスロバキア社会主義共和国の主権を擁護する課題を遂行し、チエコスロバキア人民を導いて社会主義の道をさらに確固として前進することを期待したのです。

そして、チエコスロバキアには、六ヶ国軍隊の進入当時にも、五ヶ国自身をふくむ世界各国と兄弟党とがみとめていた正規の国家機関と共産党とが、国民の支持をうけて存在し、活動していたことは、きわめて明白な事実です。

中央委員幹部会声明は、第二に、このような状態にあったチエコスロバキアにたいする、五ヶ国軍隊の突如とした、まったく一方的な進軍と事実上の軍事占領は、独立、平等、相互の内部問題不干渉という、一九五七年の宣言と一九六〇年の声明に規定された社会主義国家間、兄弟党間の関係の基準にそむいた、不当な干渉であることを指摘し、断固として不同意の態度を表明しています。

一九五七年の社会主義国の共産党・労働者党代表者会議の宣言は、社会主義国家間の関係についてつぎのように規定しています。

「社会主義諸国は、その相互関係を、完全な同権、領土の保全と国家的独立および主権の尊重、相互の内政不干渉という原則にもとづいてうたてている。……兄弟的な相互援助は、社会主義諸国間の相互関係の切りはなせない一部分である。この相互援助にこそ、社会主義的国際主義の原則が力づくよくしめられている」

「社会主義諸国間の相互関係の問題はみな、社会主義的国際主義の原則を無条件にまもりながら、同志的に討議することによって完全に解決することができる」

主義諸国の党の活動にも、一定の困難をつくりだしていません。

中央委員幹部会声明は、第三に、今回の軍事干渉に反対するわが党の態度は、けつして、いかなる場合にも社会主義国や兄弟党の国際的援助を否定する立場からのものではないことをあきらかにしています。わが党は、真のプロレタリア国際主義の立場から、社会主義国にたいするあらゆる侵略や反革命とは断固としてたたかうものであり、現にベトナム人民支援を積極的におしすすめる、朝鮮民主主義人民共和国にたいするアメリカ帝国主義の軍事的挑発にも断固反対してたたくっており、一九五六年のハンガリー事件にさいしては、こうした国際的援助を積極的に支持しました。

五ヶ国の側は、チエコスロバキアの事態を、一九五六年のハンガリーの反革命事件と同一視することによって、その軍事行動を正当化しようとしています。また逆に、たとえば日本では、自民党政府をはじめ、一部の無党派の人びとや社会党もふくめて、今回の問題をハンガリー事件と同一視する立場から、社会主義国の国際的連帯行動一般を否定して、五ヶ国の軍事行動を非難しています。

わが党の立場は一貫しています。中央委員幹部会声明は、真に社会主義をまもる立場から、事実にもとづいて、ハンガリーの反革命とチエコスロバキアの事態とのちがいをあきらかにし、ハンガリーの反革命勢力の粉砕を援助したソ連軍の行動についてはこれを断固として支持し、今回の誤った軍事干渉についてはこれに反対することこそ、真のプロレタリア国際主義の立場であることをあきらかにしています。

第四に、中央委員幹部会声明は、以上のような立場からチエコスロバキアの党と人民にたいして、「かくたく団結し、現在の重大な事態をのりこえ、この事態につけてんで策謀を強化しているあらゆる社会主義の

敵を粉砕し、両翼の日和見主義とたたかかってマルクス・レーニン主義のさしめす道を前進すること」を心から期待するとともに、なによりもまず、五カ国の政府と党にたいして、「チェコスロバキアの内部問題にたいする今回の不当な干渉をただちにとりやめ、その軍隊をすみやかに撤退させること」をつよく要請しています。

五カ国の軍隊の誤った干渉によって、チェコスロバキアには、いっそう複雑な、重大事態がつくり出されています。こうした重大な事態を解決する道は、マルクス・レーニン主義とプロレタリア国際主義の原則にもとづき、社会主義国家間と兄弟党間の関係の基準をまもった同志的な協議による道以外にありません。いまからでもけつしておそくはありません。

わが党中央委員会幹部会は、真の国際連帯と自主独立とを統一した立場から、わが党がうることできた客観的資料をマルクス・レーニン主義の原則にもとづいて自主的に分析、検討した結果、わが党の態度を確信をもって決定し、八月二四日付中央委員会幹部会声明を発表しました。

### (三)

わが党はこれまで、昨年秋以来チェコスロバキアにおきている新しい事態について、正確な自主的認識をうるための努力をつづけてきました。最近の事態についても、チェコスロバキアの党からはもちろん、関係各国の兄弟党からも、情報をうけて検討してきました。

七中総決定でもべているように、わが党は、チェコスロバキア問題に関連して、大国主義的干渉に反対する態度をあきらかにしてきました。どのような社会主義国も、どのよう大きな党も、その路線や行動を、他の兄弟党におしつけることはできず、また、それにはたいする無条件の支持をすべての兄弟党におしつける権利はもっていません。

### (四)

チェコスロバキア問題にかんするわが党の任務は、国際的には、この重大事態の正しい解決のために適切に貢献して、国際共産主義運動、社会主義陣営、反帝民主勢力の団結を強化し、依然として国際的な反帝闘争の中心任務であるアメリカ帝国主義のベトナム侵略に反対し、ベトナム人民を支援する国際統一行動を強化するために奮闘することであり、国内的には、この問題を利用して展開されているアメリカ帝国主義、自民党佐藤内閣、反共右翼社会民主主義者、反党分子、トロツキストなどの反社会主義、反共宣伝と、正面からたたかき、これを粉砕することです。

## II チェコスロバキア、ソ連その他の文献

### チェコスロバキア共産党中央委員会幹部会の声明

『ルデー・プラハ』  
八月二一日付特別号

一、昨日、すなわち一九六八年八月二〇日午後一時（日本時間二一日午前四時）、ソ連、ポーランド、人民共和国、ドイツ民主共和国、ハンガリー人民共和国およびブルガリア人民共和国の軍隊は国境をこえて、チェコスロバキア社会主義共和国領内にはいった。これは、共和国大統領、国民議会議長、首相、チェコスロバキア共産党中央委員会第一書記、ならびにこれらの機関が知らないうちににおきたものである。

一、チェコスロバキア共産党中央委員会幹部会会議開催中で、第一四回党大会の準備について討議していた。

一、チェコスロバキア共産党中央委員会は、共和国の全市民にたいして、平静をもち、前進してくる軍隊に抵抗しないよう呼びかける。したがって、わが軍

隊、保安部隊、民兵隊は国を防衛するよう命令を与えられてはいない。

一、チェコスロバキア共産党中央委員会幹部会は、この行動が社会主義諸国間の関係のすべての原則にそむくだけでなく、国際法の基本的基準を否定するものであると考える。

一、国家、チェコスロバキア共産党および国民戦線のすべての指導的職員は、チェコスロバキア社会主義共和国において効力をもつ法律ならびにその他の基準のもとで、人民の代表として、またその組織の一員として選出されたものであり、その職務にとどまるであらう。  
(プラハ八月二一日チュエテカ)

### 五カ国各政府首相、議会 にあてたチェコスロバキア 国民議会幹部会の声明

プラハ八月二一日チュエテカ

一、国民議会幹部会は、本日、理由なくわが共和国を占領しはじめた同盟国軍の措置にたいして、深刻で根

は、国際共産主義運動の内部問題である今回のチェコスロバキアの事件を、ねがってもない問題としてとりあげ、日本国民のなかにわきおこっているチェコスロバキア人民にたいする同情につけこみ、ソ連その他への非難など反社会主義、反共宣伝に狂奔するとともに、一九七〇年の日米安保条約の延長強化、日米軍事同盟の侵略的強化に利用しようとしています。右翼社会民主主義者や反共主義者、トロツキストなども、ソ連などにたいする大衆的抗議運動を組織することによって、反共の方向をつよめることに一役かおうとしています。チェコスロバキア問題もまた、わが国の階級闘争、革命闘争の諸条件のなかで、反動勢力、反共勢力によって運用されつつあるというこの事態を正確につかんで、かれらの反社会主義、反共宣伝を粉砕すること、このことこそ、わが党と自覚的民主勢力のもっとも重要な任務です。

そのために、全党は、八月二四日の中央委員会幹部会声明をただちに討議し、その内容を、チェコスロバキア問題につよい関心をもっている広範な人びとのなかに知らせ、その疑問にこたえ、わが党の一貫した態度にたいする共感と支持を拡大しなければなりません。そして、この問題を巧妙に利用した反社会主義、反共宣伝と広範な人びととともにたたかき、わが党の方針と社会主義、共産主義の崇高な理念にたいする確信とをさらにつよめつつ、アメリカ帝国主義と日本独占資本に反対する全民主勢力の団結と、日本人民の闘争の前進のために努力しなければなりません。

わが党は、こうした複雑な課題をやりとげる闘争での多くの豊富な経験をもっています。その経験を生かし、教訓をひきつぎ、日本の人民運動の発展と、国際共産主義運動のマルクス・レーニン主義的強化のために、いっそうの勇氣と確信、確固とした展望をもってたたかきぬきましょう。

本的な不同意を表明する。

一、これは、わが国家の主権の侵犯であり、われわれのこんごの相互関係にとつて許すことのできないものである。

一、われわれはあなたがたにたいし、プラハの街頭で銃声の聞かれるこの瞬間において、わが共和国の全領土からすべての軍隊を撤退させるようただちに命令することを断固として求めるものである。

### チェコスロバキア政府 の声明

八月二一日

駐日チェコスロバキア  
大使館発表

チェコスロバキアの全人民諸君、  
チェコスロバキアは今日、チェコスロバキア共産党に指導された政府と人民の意志に反して、ワルシャワ条約五カ国の軍隊に占領された。こうして国際共産主義運動の歴史ではじめて、共産党に指導された国家にたいする社会主義諸国の統一軍による侵略行為がおこ

なされた。危機的な事態が早朝からつづいていっている。共和国の合法的機関は解体され、政府、国民議会のメンバーやチェコスロバキア共産党、国民戦線、その他の組織の指導部が相互に、あるいは連絡をつけることもできず、あるいはさいきん数ヶ月間に心からかれらに信頼を表明してきたこの国の市民と接触する機会をもつこともできずにいる。

政府と党指導部の一連の成員、国民議会幹部が、その他の人びとが抑留されている。国民との最後のつながりは半非法のチェコスロバキア放送であるが、それは、ただ働き手の極度の緊張によってもちこたえており、徐々に沈黙をよぎなくされつつある。

こうした情勢のもとで、チェコスロバキア政府と合憲的諸機関が、党の指導部とともに、合憲的機能をはたし、わが国の正常な生活を保障するよう希望する。われわれは、チェコ人、スロバキア人、少数民族、すべてのチェコスロバキア社会主義共和国国民につきのようによびかける。

一、われわれはワルシャワ条約五ヶ国軍隊の即時撤退、条約の厳守、チェコスロバキアの国家主権の完全な尊重を要求する。

二、われわれは、ソ連、ドイツ民主共和国、ポーランド、ハンガリー、ブルガリア政府が、そのために血が流され、わが国の物質的価値が破壊される軍事行動を停止する命令を出すことをよく要求する。

三、われわれはチェコスロバキアの合憲的政治機関の活動のため正常な条件をつくりだし、これらの機関のメンバーがその任務を再開できるように拘禁をとくことを要求する。

四、われわれは国民議会をただちに招集し、チェコスロバキア政府が現在の情勢を解決するための見解を提示することを要求する。

全国の市民諸君、

われわれは、政府のつぎのような要求を支持するようよびかける。

一、これまで何回も示したように、必要な国家的理性を発揮し、現在の、そしてすでに四月に諸君が信任した正当に選出されたチェコスロバキア政府のまわりに力を結集しよう。

二、われわれの憲法のすべての原則をまもって、自由で民主的な条件下で選出されたもの以外の政府をいかなる方法によっても、わが共和国の政府としてうけいれない。

三、わが工場、農業協同組合および他の職場の労働者の活動を活発にし、チェコスロバキア政府の立場を支持する声明を占領軍司令部とワルシャワ条約五ヶ国に提出させる。

四、秩序をまもるための条件をつくりだし、占領軍兵士にたいするいかなる自然発生的な行為もつしむ。各地で独自の手段で市民に食糧、水、ガス、電気その他の必要な供給を確保し、工場および重要な経営の防衛にたいし経済的損害を未然に阻止する。

親愛なる市民諸君、

われわれはひじょうに困難な瞬間を経験している。この国の幸福な生活を保障することができるのは、そこで生活し、働いている人民だけである。

われわれはこのときにあたって諸君が政府に全面的な支援をあたえ、わが社会主義共和国のために全力をつくすものと信じている。

市民諸君、

われわれは諸君の援助をえて、一月に開始した偉大な再生の事業をなしとげることができる。政府は、諸君の援助があれば、無益な犠牲と流血なしにこれをなしとげることができることを確信している。

チェコスロバキア  
社会主義共和国政府

わたしはふたたび親愛なる同胞市民諸君にたいし、最高の分別を維持し、とりかえしのつかない結果をとまなう遺憾な行動に走らないようよく要請する。よく青年諸君にこのことを心から要請する。

すべての労働者、農民、知識人諸君に、その立場によつて社会主義、自由、民主主義への態度を立証するようよびかける。

われわれには後退の道はない。チェコスロバキア共産党の行動綱領と国民戦線政府の綱領の宣言は、わが祖国の全人民の切実な利益と要求を表現したものであり、したがって、われわれは開始された事業を継続しなければならぬ。不信におちいらす全体が団結し、チェコスロバキア共産党および国民戦線と団結し、統一とわが国民のよりよい生活のための努力を維持しよう。

## チェコスロバキア外務省 が五ヶ国に伝達した覚書

八月二日

駐日チェコスロバキア

大使館発表

一九六八年八月二〇日から二一日にかけての夜間に、チェコスロバキア領土にたいしてソ連、ポーランド人民共和国、ドイツ民主共和国、ハンガリー人民共和国およびブルガリア人民共和国の空軍、陸軍の武力

行動がおこなわれ、多くの方向から同時にチェコスロバキア領内に侵入して重要地点を、ついで短時間のうちにチェコスロバキア全土を占領した。

チェコスロバキアと前記の關係にとつてとりかえしのつかない結果と、国際平和と安全への脅威をふせぐため、チェコスロバキア社会主義共和国政府代表およびチェコスロバキア共産党中央委員会幹部会は共和国市民にたいし、冷静を維持し、はいつてくる軍隊に抵抗しないようよびかけ、保安軍と民警も同様の理由から、国土防衛の命令をうけとらなかつた。

力づくの国土占領に直面したチェコスロバキア政府のこの態度を、歴史は、国際平和維持にたいする小国の貢献と評価するだろう。

チェコスロバキア政府は、チェコスロバキア政府もこの国の他のいかなる合法的機関もけつして、チェコスロバキアにたいする侵略と占領に同意をあたえたことはいないことを宣言する。

チェコスロバキアの力づくの占領は、国連憲章、ワルシャワ条約、国際法の基本原則に反するものである。五ヶ国のこの集団行動によつてチェコスロバキア社会主義共和国の独立が攻撃され、その領土不可侵が前代未聞のやり方で侵害された。

チェコスロバキア社会主義共和国政府は、この行動にもつともだんこととして抗議し、全チェコスロバキア人民、国際平和と協力の名において、チェコスロバキアの不法な占領をただちに打ち切り、すべての軍隊をチェコスロバキア領土からひきあげてを要求する。

チェコスロバキア社会主義共和国政府は、この歴史的瞬間にあたって、諸国政府と人民が、けつして説明がつかず、まして合理化することのできないこの武力行動によつて生じた事態の重大性を理解し、完全な支持をうけたチェコスロバキア人民の正当な代表たちが正常な活動を継続できるようにすることを期待する。

## スボボダ大統領のラジオ 放送演説

八月二日

駐日チェコスロバキア  
大使館発表

親愛なる同胞市民諸君、

今日の運命的な日にあたって、わたしは諸君によびかける。われわれはわが国民の生活できわめて重大な時期に生きている。わが共和国領土にソ連軍隊が、ポーランド人民共和国、ブルガリア人民共和国、ドイツ民主共和国、ハンガリー人民共和国軍隊とともに侵入した。これは合法的な国家機関の同意なしにおこなわれた。国家機関は、祖国人民にたいする責任から出発して、生じた事態をすみやかに解決し、外国軍隊のすみやかな撤退を実現しなければならぬ。

この方向で今日わたしは、いまの条件がわたしにゆるすかぎりの努力をはらった。とりわけ、わたしは今日国民議会全体会議を招集した。夕刻わたしは国の正常な生活を回復し、その不可侵性を保障する若干の緊急な諸問題について政府成員と討議した。討議はあすもつづけられ、わたしの信するところでは、政府首班オールドジヒ・チェルニーク技師とも話しあうだろう。わたしは現在の情勢がひきおこしたすべての問題と困難を認識している。

## チェコスロバキア政府臨 時閣議についての報道

駐日チェコスロバキア  
大使館発表

チェコスロバキア社会主義共和国政府は、チェコスロバキア領土占領即時停止の要求がみたされない場合、必要ないっさいの措置をとる権利を保留する。

政府はいまのところ接触できない首相、副首相たちの欠席のまま二一日午後、マハチヨバトを議長とする臨時閣議でつぎの宣言を採択した。

一、政府は本日昼発表された閣僚グループの見解を承認する。

二、政府は九一日活動できなかった。個々の政府成員は政府幹部会の建物にはいることをゆるされず、チェルニーク首相と副首相たちとはいかなる実務的な接触もゆるされなかつた。

三、同様にスムルコフスキー国民議会議長との政府の接触もまたげられている。

四、政府はチェコスロバキア共和国大統領が、チェコスロバキアの軍事占領の国内政治的、対外政治的および国際的結果の諸問題ならびに合法的な政治機関の正常な機能遂行の保障と関連した諸問題が討議できるよう、ただちに到着することを要請することを決定す

五、外務省がモスクワ、ワルシャワ、ブダペスト、ベルリンおよびソフィア駐在大使をつうじて、これらのワルシャワ条約諸国軍隊のチェコスロバキア領土からの撤退を要求する外交覚書を手交したことを了承した。同時に政府は共和国大統領に、前記の諸国の大使をよびよせて前記の要求の実行をもとめるよう要請する。

六、ワルシャワ条約諸国大使に、その政府が占領軍指導部に、指示を出して、合法的な政治機関とくに党幹部会代表が機能をはたせるようにすることをもとめることを決定する。

七、政府は、第一に占領の政治的結果と、同時に国民経済の正常な運営にたいする責任を自覚し、すべての勤労者、労働者、知識人にたいして、今日のチェコスロバキア共産党中央委員会幹部会の声明にふくまれている方針を一貫してまもり、それと同時に、工業生産、農業、運輸、補給の運営を保障する問題に注意をむけ、こうして国民経済の混乱をふせぐことをよびかける。

八、政府はとくに、わが国民の希望である青年にたいし、立派な自覚的人民として、生じた情勢にたちむかい、けつしてむだな犠牲の口実をあたえないようよびかける。

九、われわれは全人民にたいして、生産の正常な運営を保障し、冷静と分別を維持することによって、外部からの干渉の必要性の口実をふせぐようよびかける。

政府はわが社会主義共和国が今日の苦難のときに向けてとっている全世界すべての国際的進歩勢力の支持を評価する。

## ソ連タス通信社の声明

八月二日

タス通信社は権限を授けられてつぎのとおり声明する。

チェコスロバキア社会主義共和国の党と政府の指導者たちはソ連および他の同盟諸国にたいし、兄弟であるチェコスロバキア人民に、武力による援助を含む緊急援助を与えるよう要請した。

この要請は、チェコスロバキアに存在している社会主義制度、憲法によって確立された国体にたいして生じた脅威、社会主義に敵対する外国勢力と結託した反革命勢力がつくりだした脅威にもなっており、出されたものである。

チェコスロバキアの事態と同国をめぐる事態は、チェコスロバキア指導者を含む兄弟的社会主義諸国の指導者の間で、くりかえし意見交換の対象となった。人民の社会主義的獲得物を支持し、堅固にし、防衛することは、すべての社会主義国にとって共通の国際的義務であるということについて、これら諸国は見解が一致した。この共通の立場はブラチスラバ声明でよく表わしに宣言された。

固、決然として不拔の連帯をもって対抗する。なにものもけつして社会主義諸国共同体からその一環をもぎとることをゆるさねいだらう。

## ソ連タス通信社の発表

八月二日

さきに報じたように、ソ連と他の同盟諸国は、武力援助をふくむ緊急援助を兄弟のチェコスロバキア人民にあたえることについて、チェコスロバキア社会主義共和国の党と政府の指導者たちの要請に応じた。

この決定を遂行して、社会主義同盟諸国の軍隊は八月二日、プラハとブラチスラバをふくむチェコスロバキアのすべての地方と都市にはいった。兄弟諸国の軍隊の移動は支障なくおこなわれた。チェコスロバキア人民軍部隊は配置された地域にとどまっている。住民は冷静である。同盟諸国軍兵士が反革命勢力にたいする闘争を援助するため機を失せずチェコスロバキアに到着したことに、多くのチェコスロバキア市民が感謝を表明している。

同時に、プラハと他の一部の住民地域では、右翼の反社会主義分子が、チェコスロバキア社会主義共和国の健全な勢力とかれらを援助してきた同盟軍にたいし

て敵対的な行動を組織しようとするところをみている。これらの敵対行動は、街頭での挑発の組織、悪意あるうわさやデマの流布、中傷的ビラの配布にあらわれた。ラジオ、テレビ、新聞でも扇動的言説がなされている。これらの破壊活動をおこなっているのは、過去数ヶ月間毎日のように、チェコスロバキアにおける社会主義の基盤に反対し、チェコスロバキア共産党に反対し、ソ連と他の社会主義諸国との友好に反対してきたおなじ反社会主義分子である。これらすべての反革命活動の背後には帝国主義グループの指図の手が感じられる。

挑発と脅迫の方法にうったえて反社会主義分子は住民のあいだに、チェコスロバキアにおける社会主義的獲得物をまもるといふ国際主義的義務をはたしている兄弟諸国のかかげた目的にたいして、不信感をひろめようとするところをみている。

たとえば、同盟諸国軍隊がチェコスロバキアの内政への干渉を意図するものではないというこれら諸国の明確な声明にもかかわらず、A・ノボトニ前チェコスロバキア大統領を国の指導部に復帰させる意図だといううわさがひろめられている。同盟諸国は、チェコスロバキアにおける社会主義、労働者階級とその前衛——共産党の役割の強化と発展をめざしたチェコスロバキア共産党中央委員会一月総会の決定への支持をくりかえし表明してきた。

本日発表されたチェコスロバキア共産党中央委員、チェコスロバキア政府成員と国民議会議員のグループのアピールに示されているように、チェコスロバキアの進歩的勢力は、チェコスロバキア共産党中央委員会一月総会で党が作成しブラチスラバ会議で支持された方針を、断固として継続する意向である。

このアピールは重要な政治的文書であり、社会主義チェコスロバキアの自由、独立、主権の事業を重んず

チェコスロバキア情勢のこれ以上の悪化は、ソ連その他の社会主義諸国の切実な利益、社会主義共同体諸国の安全保障の利益にも影響をおよぼすものである。チェコスロバキア社会主義制度にたいする脅威は、同時にヨーロッパの平和の支柱にたいする脅威でもある。

ソ連政府と同盟諸国——ブルガリア人民共和国、ハンガリー人民共和国、ドイツ民主共和国、ポーランド人民共和国——の政府は、不拔の友好と協力の原則から出発し、現存の協定義務にしたがい、兄弟的チェコスロバキア人民に必要な援助をあたえるようにとの上記の要請に応ずることを決定した。

この決定は兄弟的社会主義諸国間に締結された同盟諸条約に規定された各国の個別のおよび集団的自衛の権利に完全に合致するものである。この決定はまた、ヨーロッパ諸国民を一度ならず戦争にまきこんだ軍国主義、侵略、報復の勢力からヨーロッパの平和を保障するうえでわれわれ諸国の切実な利益にもかなっている。

ソ連軍部隊は前記同盟諸国軍部隊とともに、八月二日チェコスロバキア領土にはいった。これらの部隊は、チェコスロバキアにおける社会主義的獲得物にたいする脅威、社会主義共同体諸国の安全にたいする脅威がとりのぞかれ、合法的当局が、これらの軍隊の駐留継続をもう必要でないこととめしだい、ただちにチェコスロバキア社会主義共和国からひきあげるだろう。

現在とられつつある行動は、いかなる国家にもほつをむけたものでもなく、いかなる国の国家的利益もならん侵害するものではない。これらの行動は平和の目的に奉仕するものであり、平和の強化にたいする配慮にうながされるものである。

兄弟諸国は外部からのいかなる脅威にたいしても断

るすべての人びとによって支持されている。

八月二日のうちに、ルドビク・スボダ・チェコスロバキア大統領の声明が全国に放送されたが、大統領はこの声明で人民にたいし、市民の責任を自覚し、共和国の利益のために、無分別な行動をゆるさぬようよびかけた。

## ドイツ民主共和国の党・議会・政府の共同声明

ドイツ民主共和国のすべての男女市民へ

『ノイエス・ドイッチェラント』八月二日付

ラジオとテレビで知られているように、チェコスロバキア共和国の党と国家の社会主義に忠実な人士は、八月二〇日反革命的な企図にたいする社会主義秩序の防衛のための闘争を公然とおこなうことになった。これは、チェコスロバキア共産党指導部の一部の権力闘争の激化と反社会主義勢力の活動の活発化によって、チェコスロバキア社会主義共和国内部のするどい政治的危機がうまれてから必要になったことである。

チェコスロバキア社会主義共和国の党と国家のこれらの人士は、八月二日、ブルガリア人民共和国、ドイツ民主共和国、ポーランド人民共和国、ハンガリー人民共和国、ソ連などチェコスロバキアと同盟関係にある諸国の政府にたいして、反革命分子の扇動工作と



帝國主義諸國の干渉努力により生じた危険にかんし、チェコスロバキア兄弟人民と兄弟国に即時軍事援助をふくむすべての援助をしめすようにという要請をおこなった。締結されている友好・相互援助・協力条約にもとづいて、各社会主義兄弟国閣僚会議は、この要請に応じた。

ブラチスラバにおける社会主義諸国共産党・労働者党重要会議の結果、チェコスロバキア内部の反社会主義勢力が後退させられ、かれらに当然の敗北が必至になったという展望が示されたとき、ドイツ民主共和国の市民はほっとした。チェルナ・ナド・チソウとブラチスラバの会議で、チェコスロバキア共産党代表団と兄弟諸党の代表たちは、マルクス・レーニン主義と社会主義的国際主義の諸原則にもとづき共同声明の精神をまもって、チェコ民族およびスロバキア民族の社会主義的既得権の擁護を保障するというかたい協定に到達した。チェコスロバキア共産党代表団は、ただちに社会主義的精神にもとづく新聞とラジオ、テレビの政治指導をおこない、遅滞なく反社会主義的な政党、団体、クラブの活動を阻止する法律を發布し、党および国家の指導においてチェコスロバキア共和国の重大利益に奉仕するような措置に必要な保障をうみだすことを約束した。

ブラチスラバ会議の参加者たちは、この約束がただちに実現されることを期待した。だが残念ながら、ドゥプチェクを先頭とするチェコスロバキア共産党中央委員会幹部会内の一グループは、おこなわれた協定の実行に着手しなかつたばかりか、ブラチスラバ以後も自分たちの権力闘争を強化した。そのことによつて反社会主義勢力は勇気づけられた。上記グループは、到達した協定をチェコスロバキア共産党員ならびにチェコスロバキア人民の目からかくした。表面的にはブラチスラバ決議に賛成しながら、同時に、反社会主義勢力

がブラチスラバ会議の成果にたいして陰險な反対カンパニアをおこなうのを許した。ドイツ社会主義統一党の代表団は、カルロビバリの話し合いでは、ブラチスラバ宣言の一貫した表現を主張した。しかしチェコスロバキア共産党代表団は、反社会主義・反革命勢力ならびにいっさいのブルジョア・イデオロギーの表現形態にたいする闘争を指示したブラチスラバ会議の協定を実施することを拒否した。

反社会主義勢力の諸集団とクラブの計画は、チェコスロバキア共産党を分裂させ戦闘能力をうしなわせた。それによつてそのめざす目的——西方帝國主義諸國を志向した国家資本主義政權をチェコスロバキアに樹立して社会主義を転覆すること——を達成するにある。それはすべて「民主社会主義」なる社会民主主義的スローガンのもとにおこなわれなければならないかつた。

結局これはすこしも新しいことではない。十月社会主義大革命以来、各国帝國主義勢力は、革命と社会主義と民主主義を併殺するために、諸国民にとっては貴重なものとなっている社会主義の概念そのものをくりかえし不正に利用してきたのである。

ドイツ民主共和国のすべての市民は、地図を一見しただけで、もしくとくに西ドイツ帝國主義にはげまされる反社会主義勢力が西方から、したがってわが国の側面から、反革命行為をおこなつたとしたら、わが共和国ならびに他の社会主義兄弟諸國にとつておそるべき事態が生ずるのであることを、容易に理解できる。

社会主義兄弟諸國は、自國の安全のため、諸国民の利益と世界平和のために、チェコスロバキア社会主義共和国が社会主義諸國の共同体からもぎはなされるのをだまて見すごすことはできない。われら諸國政府がチェコスロバキアの愛國者や國際主義者の切迫した援助の要請に即座に応じることによつて、社会主義

的國際主義のかがやかしい模範がしめされ、諸國政府はそれぞれのしめしうる全力をあげて、諸国民の社会主義的既得権の支持と強化と擁護をすべての社会主義國家の共通の國際的義務とするブラチスラバ声明の厳肅な義務を実現するのである。

ドイツ民主共和国の勤勞者は、チェコおよびスロバキアの勤勉有能な民族を愛する。われわれは、チェコスロバキア兄弟人民の偉大な革命的伝統ならびに行爲、顕著な科学的文化的業績を知り、これを高く評価している。われわれは、よい時期にも困難な時期にも、われわれと友好同盟關係にあるチェコおよびスロバキアの民族とたく結ばれていることを感ずる。チェコスロバキア諸民族は、無原則的な政治家たちの手でそういう危険にさらされてはならないのである。

右翼反社会主義分子の卑劣な陰謀をみぬいた社会主義に忠実な勢力は、「人びとよ、警戒してください」というユリウス・フーチクの警告を尊重してきた。かれらならびに労働者階級、組合農民、進歩的知識人、隣邦チェコスロバキアのすべての勤勞者にたいして、われわれは兄弟の手をさしのべる！われわれは、社会主義に忠実に行動するチェコスロバキアの党および國家の人士の勇氣あり責任感ある行動を高く評する。なぜならかれらの行爲は、いわゆる新東方政策のたすけをかりてヨーロッパ社会主義諸國に反革命を輸出しようとする帝國主義侵略グループの計画を粉砕しているからである。チェコスロバキアの事態を眼前にみて、わがドイツ民族の社会主義國家の市民は、われわれが目的意識的に自己のすぐれた道を歩んでいるという事実の意義をますますよく感じている。第七回黨大會の指導的諸決議とわれわれの社会主義憲法を武器として、われわれは進んだ社会主義社会制度を形成している。ソ連その他社会主義兄弟國家とのかたい友好のもとにわが社会主義勤勞者農民國家を全面的に

強化することによつて、われわれはドイツの土地に、資本主義的搾取から解放された社会、社会主義的ヒューマンニズムの社会、眞の社会主義的人間共同体の典型を創造しているのである。

われわれはさらに、われわれの偉大な正義の事業のため、社会主義の勝利のため、ヨーロッパの平和と安全のために全力をつくそう！

ドイツ民主共和国とチェコスロバキア社会主義共和國の不滅の連帯と同盟關係万歳！

世界の平和と安全の保障たる社会主義諸國の統一と同盟万歳！

ベルリンにて  
一九六八年八月二一日  
ドイツ社会主義統一党中央委員会  
ドイツ民主共和国 國家評議會  
ドイツ民主共和国 閣僚會議

## 社会主義をまもることは 最高の國際主義的義務である

『ブラウダ』八月二二日付

チェコスロバキア社会主義共和國の党と國家の指導者たちが、ソ連その他の同盟諸國にたいして、チェコスロバキアの兄弟國民に、武力援助をもふくむ援助を

ゆうよなくあたえるように要請してきた。

こういう要請をしてきたのは、チェコスロバキアの現在の社会主義制度と現行の國家憲法にたいして、社会主義に敵意をもつ外國勢力と共謀した反革命勢力の側からの脅威が生まれてきたためである。

ソ連その他の社会主義的兄弟國に援助を求めるといふ歴史的決定をおこなう必要があつたことは、本日の『ブラウダ』にのせてあるチェコスロバキア共産党中央委員、チェコスロバキア社会主義共和國の政府閣僚および國民議會議員の一グループの呼びかけによつて、完全に立証されている。これが必要になつたのは、チェコスロバキア社会主義共和國内に反動派の手で準備された兄弟殺しのたかいかがおこる危険があつたからである。

ブラチスラバの共産党・労働者黨會議であつた誓約にしたがひ、またやぶりえない友好と協力の原則にもとづき、ならびに現行の條約上の義務にしたがつて、ソ連その他の同盟諸國の政府は、チェコスロバキアの兄弟國民に必要な援助をあたえるようにという右の要請にこたえることを決定した。社会主義的兄弟諸國は、その共通の國際主義的義務を果たすものである。

ソ連共産党とソビエト政府の政策のなかでも、またソ連共産黨員と全ソ連國民の頭と心のなかでも、チェコスロバキアと同國の共産黨にたいする關係は、つねに重要な地位をしめてきた。これは偶然のことではない。古来のスラブ人共同体の伝統にわけて、すでに久しい以前から、われわれ兩國國民のあいだには、自由、獨立、社会進歩のための共同闘争のきつてもきれないきつたが結ばれている。われわれ兩黨と兩國國民は、手に手をたずさえて、ヒ

トラ一味の侵略者に反対して、奴隸化の危険とたたかつた。最初の社会主義國の自由と獨立のため、奴隸化された他の諸國民を解放するための、フアンニズムにたいする決死のたたかいのなかで、二〇〇〇万をこえるソ連國民がその生命をささげた。チェコスロバキアの領土内にも、一〇万をこえるソ連戰士の墓が散在している。これらの戰士は、英雄的なチェコスロバキアの愛國者や、ルドビーク・スボボダの光榮ある部隊と協力して、チェコスロバキアをヒトラー・フアンニズムから解放するためにたたかつたのであつた。まさにそのとき、この苦難の時期に、われわれ兩國國民の團結と友好の強固な土台がすえられた。

ヒトラー一派を粉砕したのち、チェコスロバキア國民は社会主義の道をえらんだ。このことは、われわれ兩國國民の友好のきつさをさらにかためた。協力して社会主義と共産主義を建設する道を前進した時期に、われわれの友好は新しい水準にたかまつた。

ソ連とチェコスロバキアの兄弟的友好と戰闘的同盟は、すでに一九四三年に締結され、一九六三年に延長された友好・相互援助・戦後協力條約によつて強化された。われわれ兩國、兩黨および兩國國民は、この條約に忠実に、われわれ兩國の國境の安全がおびやかされ、社会主義の事業がおびやかされるばあひには、たがいに援助にはせむかう義務を負っている。

報復的な西ドイツを参加させたNATO侵略プロックの設立にこたえて、ヨーロッパのいくつかの社会主義國がワルシャワ條約に結束したが、これは、平和をやぶり、われわれ諸國民の社会主義的獲得物を侵害しようとするすべてのものにとつて、こえがたい障壁となつた。

二〇年にわたつて、ソ連とチェコスロバキアの友好關係は、政治、經濟、文化のあらゆる分野で、順調に發展してきた。われわれ兩國の友好に暗い影をおとす

ものはなかった。チェコスロバキア国民のおさめた成果はわが国民の成果であり、ソ連諸民族のおさめた成果を、チェコスロバキアの勤労者は自分たち自身の成果とうけとった。

ソ連国民がソビエト権力成立の五〇周年を祝い、共産党——レーニン党の指導のもとに歩んできた道の総括をおこなったとき、チェコスロバキア共産党とチェコスロバキア国民は、十月革命の勝利の行進のかがやかしい成果をわれわれといっしょによろこんだ。われわれ両国民は、心からの、誠実な友好、尊敬、愛情のきずなに結ばれている。「チェコ人」、「スロバキア人」ということばは、ソ連国民の一人ひとりにとって、「友人」、「兄弟」という概念の同義語となつた。ソ連、チェコスロバキア両国の共産党員は、おなじ一つの人生行路——共産主義の道を行って、おなじ一つの旗のもとにすすむ戦友、同志としての責務感で結ばれている。ソ連共産党員は、チェコスロバキア共産党にたいして、マルクス・レーニン主義思想とプロレタリア国際主義のけだかい旗にたいして不動の忠誠を守っている世界共産主義運動のたのしい、堅固な戦闘部隊として、つねにふかい尊敬をはらつてきた。

チェコスロバキアの労働者階級、農民、および誠実なインテリゲンチヤは、いまでもわれわれの共同の事業——新しい社会を建設する事業——にたいする態度を変えてはおらず、わが国民にたいする友情、チェコスロバキアにおける社会主義の事業にたいする愛情を忠実にたもっている、わが党とソ連国民は確信している。共産主義社会の建設にたずさわる二億四〇〇〇万のソ連国民もまた、チェコスロバキアとチェコスロバキア国民にたいする態度を変えてはいない。われわれもまた、戦後の全時期をつうじてわが党がつよめたきた友好を忠実に守っている。

をたすけて、あつかましくなつた反社会主義分子に反撃をくわえ、チェコスロバキアにおける社会主義の地位を強めることにほかならないと声明した。

それにつづく時期の事態の経過は、兄弟諸党の結論の正しかったことを裏書きし、チェコスロバキア共産党の指導者たちの樂觀論は、残念なことにはずれた。

チェコスロバキア共産党中央委員会の三、四月総会は、情勢を安定させることができなかつた。それはかりではない。生活が示したところによれば、この総会で採択されたチェコスロバキア共産党の行動綱領のいくつかの命題は、事実上、右翼分子によつて、共産党、社会主義の基礎、チェコスロバキア国民とソ連国民の友好にたいしてさらに攻撃をくわえるための、一種の足場として利用されはじめた。

あきらかに右翼分子のはたらきかけのもとに、チェコスロバキア共産党の従来の全活動を誹謗するキャンペーンが同国内におおがかりになりひろげられたとき、党や国家の幹部の大量更迭の過程が大規模にすすめられて、社会制度の安定性がぐらつかせられ、新聞、ラジオ、テレビで、あきらかに背後からあやつられた反ソ宣伝の波がたかまってきたとき、またチェコスロバキア国内に共産主義者の党に對立する各種の団体が生まれてきて、その活動を合法化しはじめたとき、われわれの憂慮はますますつよまつた。このような情勢のもとにあつて、ソ連共産党中央委員会は、チェコスロバキアにおける社会主義の運命についての懸念をかさねて強調するために、新しい措置をとる必要があると考へた。そのさい、われわれが情勢の客観的な複雑性や、チェコスロバキア共産党指導部そのものの立場の複雑性を理解してはいたことは、いままでもない。このため、ソ連共産党中央委員会は、ひきつづき公開の批評や声明をいっさいしひかえながら、いま一度二党間の会談をひらくことをあらためて

わが党は、チェコスロバキア共産党中央委員会の（一九六八年）一月総会の諸決定を理解を示した。それと同時に、あらたに生じた事態がチェコスロバキア共産主義者の党を弱め、チェコスロバキア社会内の、ブルジョアの見解や帝国主義的宣伝の影響をうけた一定の層のなかに、社会主義にとって危険な気分を増大させるおそれがあることが、すでにその当時からあきらかにみえてきた。

一月にモスクワで、二月にプラハでひらかれたソ連共産党指導者とチェコスロバキアの指導者との会談のさいに、これらの憂慮が率直に、党的な仕方でも表明された。そのさい、どういふ社会主義建設の道を行き、社会的過程にたいする党指導のどういふ形態や方法をえらぶかは、完全に、もつぱらチェコスロバキア共産党中央委員会の権限に属することであり、わが党はこれらの問題についてチェコスロバキア共産党にどんな勧告もおしつける意図をもたないし、もつぱらでもないということが、まったく明確に言明された。それと同時に、当時すでに活発化していた右翼修正主義分子の活動にたいして、チェコスロバキア共産党中央委員会の指導部の注意がうながされた。これらの分子は、同国内に生じた事態を、社会主義の利益と無縁な目的に利用しようとしていたのであつた。

当時、チェコスロバキア共産党の指導者たちは、同国内の政治情勢が緊張をくわえていることは自分たちも承知しており、情勢を安定させるために必要な措置をとるつもりだと言明した。しかし、時がたつにつれ、現実の事態の経過がチェコスロバキアの指導者たちの示した予測とますますことなつたものとなりはじめたことを知って、われわれの憂慮はますます強まっ

提案した。五月四日にモスクワでおこなわれたこの会談で、チェコスロバキア共産党の指導者たち自身も、国内情勢の重大性について語つた。そればかりではない。かれらは、チェコスロバキア国内の政治的發展の否定的な諸要因は、「わが国の純然たる内政問題の範囲をこえて、兄弟諸国、たとえばソ連やポーランドにもかわるものにならうとしている」と言明した。そして、これにはわれわれもまったく同意見であつた。チェコスロバキアの指導者たちは、また、事態を掌握するために必要な措置をとる用意があるとも述べた。当時かれらは、文字どおりつぎのようにいふ。「敵は行動している。敵は、事態を反革命の利益となる方向にむけたがつている」。

敵がなによりもまず共産党の信用を傷つけ、大衆にたいする党の影響を弱めようとならつていふこと、チェコスロバキア共産党にたいする合法的な政治的反対派をつくれという要求がたかまつているが、このような反対派はその本性上反社会主義的の反対派とならざるをえないこと、「だんごたる措置をとらなければ、反革命的な情勢にかわつてゆくおそれがある」こと、これらのことをチェコスロバキアの指導者たちはみとめた。かれらは、このことについて具体的に責任がある連中を知つていふといふ、その連中が帝国主義的グループと結びつていふといふ証拠をかれらはもちあわせており、こんなことはやめさせる、と確言したのであつた。

チェコスロバキア共産党中央委員会の五月総会で、チェコスロバキアにおける社会主義の事業にたいする主要な危険が右からの危険であることが承認された。このことは、チェコスロバキア共産党中央委員会の指導者たちが言葉から行為にうつることを期待してよい根拠をあたるものだと思われ得るであろう。党委員会の書記たちの会議や、労働者民兵積極分子の全国集

た。チェコスロバキア共産党そのものの内部に無秩序、動揺、不決断の状況が生じはじめたことを、事態は示してゐた。同国内に、世界帝国主義の支持にたよる反動的な反社会主義勢力が台頭してきた。

こうした事態に憂慮をいだいたのは、わが党だけではなかつた。われわれと同様に、ブルガリア、ハンガリー、ドイツ民主共和国、ポーランドの各兄弟党も、チェコスロバキアにおける事態の経過に深い憂慮をいだいた。チェコスロバキア共産党およびチェコスロバキア社会主義共和国の指導者たちとの集団的な会談をひらいて、意見を交換する必要があるとこつた。三月二三日、このような会談が、共同の合意にもとづいてドレスデンでひらかれた。

ドレスデンの会談で、チェコスロバキアの同志たちは、同国内に若干の否定的な過程が進行して、いふこと、ラジオ、テレビ、新聞が党の統制から脱却して、事実上反社会主義分子の手中におちいふたこと、右翼勢力が地歩を固めていることを否定しなかつた。同時に、チェコスロバキア代表は、党が全体として情勢を支配しているから、重大な懸念をいだく根拠はないと言明した。

ソ連の代表と他の各兄弟党の代表団とは、かれらの考えでは状況はそれとはちがつたふうに見えるということ、もつぱら率直に言明して、生じてきた情勢のうちにはひそんでいる現実の危険を指摘した。さまざまな事実を総合して、かれらは、反革命的クーデタにみちびくおそれのある事態の發展がみとめられるという結論をくだした。ソ連共産党代表団と、さらにブルガリア共産党、ハンガリー社会主義労働者党、ポーランド統一労働者党、ドイツ社会主義統一党の代表団は、かれらがチェコスロバキア共産党の指導部を支持し、一月総会の諸決定の積極的な内容を支持することを言明し、かれらの立場は、チェコスロバキアの同志たち

会や、多数の工場内党組織の会議で、社会主義的獲得物をだんごとく守るといふ決意が表明された。

残念なことに、党および同国の健全分子の期待、チェコスロバキア国民のすべての友人たちの期待はみだされなかつた。五月総会の諸決定は遂行されずにおつた。反社会主義勢力は、チェコスロバキア共産党中央委員会五月総会の方針にたいして攻勢をくりひろげた。反ソ分子の言動はますますはげしいものになつた。六月末には反社会主義勢力の攻勢の波はいつそうたかまつて、反革命的グループによつて「二千語宣言」が新聞に発表された。この宣言には「チェコスロバキア共産党に反対し、合憲的権力に反対する闘争への公然たる呼びかけがふくまれていた」。

わが党の指導部は、反革命的行動をいっそう活発化させるための政綱であるこの文書の危険性にたいして、ア・ドゥップチェクに注意をうながした。かれはこうこたえてきた。中央委員会幹部会は目下この問題を討議しており、宣言にたいしてはきわめてきびしい評価がくだされるであろうし、もつともだんごたる措置がとられるであろうと。しかし、口先きでの非難がふんだんにあびせられた以外には、現実的な措置は事実上なにひとつつづかなかつた。

こうした事態のもとで、ソ連共産党と他の兄弟諸党は、チェコスロバキア共産党の指導者たちとの会談をいま一度ひらくという問題を提起しないわけにはいかなかつた。ソ連共産党と他の兄弟諸党は、チェコスロバキア共産党中央委員会にたいして右の提案をおこなつた。だが、残念なことに、同中央委員会の指導者たちは、ワルシャワ会議への参加を拒否した。

このように、ソ連とチェコスロバキアの指導者たちおよび他の兄弟諸党の指導者たちのあいだでは、過去七ヶ月にわたつてさまざまな形態の接触が数多くおこなわれたのであつて、それらをつうじてソ連共産党

中央委員会は、一貫した、明瞭な立場をしっかりとってきた。  
簡単にいって、この立場の要点はどういうものであったか。

第一に、ソ連共産党中央委員会は、そもそも最初から、誤りと欠陥を是正し、社会生活の各面にたいする党指導を改善し、社会主義的民主主義を発展させることをめざすチェコスロバキア共産党中央委員会の諸決定にたいして、完全な理解を示してきた。われわれはこれらの決定を、もっぱらチェコスロバキアの共産黨員、チェコスロバキア共和国の全勤労者の内政問題とみなしてきたし、またいまもみなしている。

第二に、ソ連共産党中央委員会は、採択された決定が首尾よく実現されるという保障になりうるものは、党の指導的役割を実現し、事態の発展にたいする完全な統制権を党の手に確保することだけであると、たえず強調してきた。この点に関連して、党指導が弱まることは右翼勢力、それどころか公然たる反革命勢力が活発化するのに好個な条件をつくりだすものだということに、たびたび注意がうながされた。この反革命勢力は、チェコスロバキア共産党の信用を傷つけ、党を権力から排除し、チェコスロバキア社会主義共和国を社会主義的共同体から離脱させ、結局はチェコスロバキアの社会制度を変更することを、その任務とするものである。

第三に、ソ連共産党中央委員会は、チェコスロバキア国民の社会主義的獲得物の運命、同盟の誓約によってわが国や他の兄弟諸国と結びついた社会主義国家としてのチェコスロバキアの運命は、チェコスロバキア共産党の内政問題にとどまらないという立場をとってきたし、いまもとっている。これは、社会主義諸国の共同体全体の、共産主義運動全体の共通の問題である。こういう理由で、ソ連共産党中央委員会は、あら

ゆる手段でチェコスロバキア共産党の強化をたすけ、チェコスロバキアにおける社会主義を守り強化し、帝国主義の陰謀からチェコスロバキアを守るのをたすけることが自己の国際的責務だと考えるのである。これは、われわれの国際的責務であり、すべての兄弟諸党の国際的責務である。もしわれわれがこの責務の履行をこぼさなければ、われわれは共産主義者ではなくなるだろう。

ソ連共産党の原則的な立場——マルクス・レーニン主義、プロレタリア国際主義の原則に立脚する立場は、以上のとおりである。

## 二

重大な憂慮と危惧をよびおこす第一の、主要な事情は、チェコスロバキア共産党がおかれている立場である。というのは、なによりもまず、共産党を強化せずには、社会生活のすべての面における党の指導的役割を確実に確保せずには、社会主義を「改善する」というおしゃべりは、不可避的に欺瞞となるからである。

この数ヶ月間、チェコスロバキアの反革命勢力は、共産党の信用を傷つけるキャンペーンをたえまなくおこなってきた。その結果、共産党が社会におけるその指導的立場を失ってしまう現実のおそれが生じた。反共勢力の活発化をたすけたものは、チェコスロバキア共産党指導部の一部がとった誤った立場であり、一連の問題でかれらがマルクス・レーニン主義の原則にそむいたことであった。「共産主義者の権力独占をやめよ」とか、「党を権力から分離させよ」とか、チェコスロバキア共産党と他の諸政党との「同権」をうちたてよとことごとく、チェコスロバキア共産党の一部指導者がくりかえしおこなってきたよびかけ、国家、経

済、文化等々にたいする党の指導をやめよというよびかけ、まさにこれこそ、チェコスロバキア共産党を破壊し、党から社会における指導的役割を奪いとうとねらっている勢力が、チェコスロバキア共産党にたいしておこなってきたのほうずなキャンペーンに最初の刺激をあたえたのであった。

よく知られているように、党にたいする攻勢は、「古くさくなくなった」活動方法をやめ、活動方法を今日の要求に適合させる必要があるというおしゃべり——チェコスロバキア共産党の一部指導者も仲間入りしたおしゃべり——のかけではじまった。もちろん、党は、全社会の発展にともなつて発展してゆくべき有機体であつて、党活動や、党指導の形態や方法が、社会の内部におこってくる変化におうじて変更されうるし、また変更されなければならないということはいうまでもないことである。しかし、現在のばあいには問題になつていないのは、そのことではない。ここで問題になつてきているのは、このおしゃべりが、これらの指導者が指導すべき使命、強化すべき使命をおびている当の政治組織の活動の根本原則の破壊に事実上みちびいたということである。

すべての党にとって必要な自己批判が、あれこれの措置の批判的な評価が、チェコスロバキアでは、党の全活動の信用を傷つけるための、のほうずな、危険なキャンペーンに急速にかわつたという事実は、このことによつてしか説明できない。チェコスロバキア共産党中央委員会の不決断で動搖的な立場を利用して、修正主義者や右翼勢力は、過去二〇年にわたるチェコスロバキア共産党の全活動を十把ひとからげに非難し、そのことによつて社会と国家にたいする党の指導権を否認したのである。

事態がどんなところまですすんだかは、つぎの事実が示している。

本年六月一三日付の週刊紙『リテラルニー・リストイ』にのつたリム某の論文は、こういっている。「チェコスロバキア共産党は、一九四八年二月以後の二〇年間におかされたあらゆる誤りにたいして、社会のあらゆる疾患と犯罪にたいして責任がある……」。さらにつづけてこういっている。「チェコスロバキア共産党は、そうするだけの道徳的権利も、政治的権利もまったくもたないにもかかわらず、指導的役割をふるっている」。

また、反党勢力の積極的な代表者のひとりであるガンゼルカは、六月九日の『ムラダ・フロンタ』紙でこう主張している。チェコスロバキア共産党の一五〇万の黨員は狂信者になつてしまい、若干の党「専制者」によつてかれらの個人的権力のために利用されてきた、と。

セミリにおける「青年クラブ」の一集会で、テミチエクとかいう男はヒステリックにこう叫んだ。「チェコスロバキア共産党は犯罪団体だとみなされなければならない。共産党は実際に犯罪団体だった。党を社会生活から追いださなければならぬ」。そして、このわめきたては、すぐさま『リテラルニー・リストイ』紙に掲載されたのである。

これと同様の内容をもつた発言は、何百といわぬまでも、何十となく引用することができる。共産主義と社会主義にたいしてあからさまな敵意を示したというヒステリックなわめきたてが、毎日毎日勤労者の頭上に雨あられとあびせかけられたのだ。

残念なことに、チェコスロバキア共産党中央委員会の一部の指導者は、反革命勢力によつて組織され、あきらかに帝国主義的宣伝機関に糸をひかれたはげしい反共キャンペーンが同国をおおうにいたつたという事実から、必要な教訓をひきださなかつた。だんごとく党破壊の試みを阻止しようとはしないで、かれら

は、あいかわらずチェコスロバキア共産党を無定形の、行動能力のない団体に、一種の討論クラブに変えてしまふ仕事をつづけたのであつた。

チェコスロバキア共産党では、党生活の主要なレーニンの組織原則——民主集中制、党の思想的、組織的統一の原則が、事実上やぶられはじめた。党は、分派を合法化して、たがいに弱いつきをもつ「自治的な」諸組織へと分解してしまふ寸前にあつた。

共産主義運動の歴史を研究したことのあるもの、レーニンの理論的遺産を知っているものはだれでも、その全組織と全黨員が一貫して民主集中制の原則にしたがうマルクス主義党だけが生命力をもちうるということをよく知っている。この原則のいづれの面——民主主義の面にせよ、集中制の面にせよ——を無視しても、かならず党とその指導的役割を弱め、党を官僚主義的組織か、あるいはある種の教育団体に転化する結果となつてしまふ。

新聞の報道からわかるように、党内の修正主義分子は、レーニンの党規範もなく、党的規律と責任もない、もろい、無定形な組織へと党を変えようとする状況で、チェコスロバキア共産党内につくりだす計画をねらつてきた。

党機関や党組織の一種の自治制の原則をとりいれるという提案、つまり、党のあたらしい状況のもとで党機関と党組織が上級機関の決定にたいして独自の立場をとる権利を確認するという提案がだされはじめた。それどころか、党の各構成部分は共通の規律によつて拘束されないという提案や、党の各構成部分は、「下から形成され……、協同組合式に連繋した諸組織として」「連合的なつながり」によつて、自由意思にもとづいて結ばれるという提案もだされた。これは、党を、各成員が思い通りに行動する自由をもつる種の「連合体」に変えてしまふことを意味するであろう。

この命題は、党の解体への呼びかけという以外に評価することはできない。

党の隊列の統一にたいする攻撃は、別の面からもすめられてきた。右翼勢力の代表は、「少数派の権利とグループ的見解をもつ権利」、すなわち党決定が採択されたあとでも党決定に反対して行動する権利を規約で確認させようと、執拗に努力してきた。

こうした努力はすべて、党のレーニンの組織原則とはなはだしく矛盾するものである。ロシア共産党(ボ)第一〇回大会にレーニンが提案し、大会によつて採択された決議にあたられた党の統一についてのレーニンの問題提起を思いおこそう。そこにはつぎのようにならされている。「すべての自覚した労働者は、どんなものでも分派は有害であり、許しえないということとを、はつきりとする必要がある。分派は、……実際には協力一致した活動をかならず弱め、政府党内にしのびこんだ党の敵が、分裂をふかめ、それを反革命の目的のために利用するところをさかんにくりかえす結果となる」(ロシア共産党(ボ)第十回大会)全集②、二五二ページ)。

残念なことに、チェコスロバキア共産党中央委員会の幹部会員のなかにさえ、実質上、党建設のレーニンの原則に公然と反対するものがあらわれた。ここでいっているのは、とりわけ、チェコスロバキア共産党中央委員会幹部会員J・シュパチエクのこの問題についての公式の発言である。

だれでも知っているように、世界の反動勢力は、共産党の隊列の統一がすこしも弱まれば、それを共産主義者と社会主義を攻撃するために利用するくわだてをやめてはいない。こういう条件のもとで党の統一を破壊することは、われわれの階級敵をたすけることにほかならない。

チェコスロバキアでおこなわれている党幹部撃滅の大衆的キャンペーンもまた、チェコスロバキア共産党の指導的役割をほりくずす結果になった。あれこれの誤りをおかした個々の指導者にたいする批判は、党の指導的活動家を大量的に排除せよという、みさかいなしの要求に変わった。中央でも地方でも、党と労働者階級の事業に献身的な、経験にとんだ多くの人びと、ヒトラー占領の時代にファシズムと勇敢にたたかいた、チェコスロバキアにおける社会主義の建設に積極的に参加してきた人びとが排除されてしまった。本式のボグロム、幹部の「精神的銃殺」の雰囲気がかもしだされた。

一定の政治方針がはつきりとかびあがってきた。すなわち、だんごとして右翼反対派とたたかっている、思想的、政治的にもっとも鍛練された共産主義者たちを積極的な政治生活から排除するという方針である。たとえば、チェコスロバキア共産党中央委員会書記C・ツイーサシュのつぎの発言は、それ以外には評価することができない。かれは、「老衰した」——かれのことばでいうと——党に「注射」するために、二〇万人ないし三〇万人の青年をチェコスロバキア共産党の党員に採用せよと呼びかけ、そのさい、この重要な問題の階級的側面を無視した。

指導的幹部の大量撃滅をめざす方針は、党機構だけに関係したものでなかった。この方針は、国家機構の重要な諸環や、労働組合や、青年同盟にまでおよばされた。政府の大部分の閣僚が更迭された。排除された人のなかには、一月総会のあとでさえチェコスロバキア共産党の指導者たちによって信頼すべき、堅固な共産党員だとよばれた活動家たちが、多数まじっていた。

指導的な党機関や国家機関から追われた共産党員は、過去の活動において誤りをおかした人びとだという、公の声明がなされた。しかし、こういう根拠にもとづいて、数千の活動家にたいする政治的不信の問題を提起し、事実上、一月総会以前に党生活や国の生活に積極的に参加したというだけの理由で、人びとを政治生活から排除するということは、どの程度まで正当であろうか。

チェコスロバキア共産党中央委員会幹部会が、九月九日に予定された第一回臨時党大会の準備を利用して、幹部の公権剥奪をやめさせるだろうと、当然に期待された。ところが、そういうことはおこななかった。その反対に、大会の準備は、右翼勢力によって、党内の健全な勢力にたいする打撃を強め、地区や州の党組織に自派の人間をおくりこみ、党に自分たちの政策をおしつけるために利用された。

右翼分子に支配されている新聞は、党会議や党大会への代議員の選挙に公然と干渉し、あきらかにきたるべき大会の代議員にたいして許しえない圧力をくわえようとする。だれをチェコスロバキア共産党のつぎの中央委員に選ぶべきか、だれを選んではならないかという「勧告」を発表することまでやった。事態はこのようになっていた。党とは抽象的な概念ではない。党とは人間であり、共産主義者の行動の統一を保障する原則である。党生活の原則がすてられたとき、党幹部の公権が剥奪されたとき、チェコスロバキア共産党が危険にさらされているという結論をくだしてよい根拠があった。

チェコスロバキアにおける社会主義の事業にとつて、前述のことにおとらざる危険なことは、組織的、政治的活動がいちじるしく弱まった一方で、チェコスロバキア共産党指導部が、大衆にたいする思想的はたら

きかけの手段の支配権を、事実上、右翼・反社会主義勢力の手にひきわたしたことであった。チェコスロバキアの多数の新聞、ラジオ、テレビは、実質上、あきらかに反社会主義的な目的を追求する特定のグループの手に託せられてしまった。これらのグループがはつきりした目的にむかって行動し、チェコスロバキア共産党と社会主義の信用を傷つけようとしてきたことは、事実が争う余地のないまでに立証している。

『リテラルニー・リストイ』、『ムラダ・フロンタ』、『ブラーツェ』、『リドワ・デモクラツィエ』、『スボボドネ・スロボ』、『ゼメデリスケ・ノビニ』、『ストゥデント』、『レポルトール』のような出版物は、とうとうない反社会主義的宣伝をおこなってきた。

大衆の宣伝手段が、チェコスロバキア国民に利益でなしに、損害をもたらすために利用されたことについては、チェコスロバキアの労働者が公然と語っている。たとえば、チェコスロバキア労働者民兵積極分子の全国集会で、集会の参加者たちは、党指導部と宣伝機関が反動分子の行動をおさえる措置をとっていないと指摘した。労働者たちは周知の決議を採択した。そしてかれらがこの決議をたずさえてソ連大使館におもむき、それをモスクワに伝達するように依頼する必要があると考えたのは、偶然ではない。しかし、このような労働者代表の重要な集会が、チェコスロバキアの新聞では正当に紹介されなかった。また、この集会が採択したソ連国民へのアピールは、長いあいだチェコスロバキアの労働者からかくされていた。

チェコスロバキアの多数の同志は、新聞でこの問題について発言しようとしたところをみたが、発言をゆるされなかった。非合法時代からの古共産党員であるヨダス同志は、マスコミ機関をその手に独占しようとしたらんだ右翼・反社会主義勢力の行動にたいする抗議を發表することが、かるうじてできた。つきにかか

のは、かれのことばである。「現在、よく組織された、党内の特定の反動的グループは、すべてのマスコミ機関をその手におさめて、テレビ、ラジオ、新聞によって党にたいして乱暴きわまる攻撃をくわえている。さまざまな反動分子が活発に参加しているこのグループは、五ヶ月にわたってこういうキャンペーンをつづけてきた。この結果は、かならずや党の統一の破壊とならざるをえない。このグループの特徴を示し、そのたくらみを公衆の面前で暴露して、だんごとして、公然とかれらとたたかわなければならぬ」。

マスコミ機関内に生じた情勢は、当然に、チェコスロバキアの労働者を不安におとしめている。「アウト・プラハ」工場の労働者たちは、六月一八日付の手紙にこう書いている。「われわれは、ラジオ、新聞、テレビによってソ連、社会主義諸国およびその党にたいする悪意ある雰囲気がかきたてられていることに、だんごとして反対する。……われわれは、わが共和国の将来についての心配でいたたまれない思いである」。

一言でいえば、チェコスロバキアには、右翼分子は新聞で公然と反社会主義的な声明をおこなったり、革命的なスローガンをかけてデモや集会をおこなったりすることができ、マルクス・レーニン主義の立場から情勢を評価した発言は黙殺され、その発言者は迫害されるといった状況が生まれているのである。誠実な共産党員にたいする迫害、党の信用の毀損、マルクス・レーニン主義や、プロレタリア国際主義や、ソ連国民とチェコスロバキア国民との兄弟的な友好にたいする攻撃は、いわばチェコスロバキア共産党中央委員会の眼前でおこなわれた。

共産党にたいする、とくに過去二〇年間の党の活動にたいする誹謗、幹部の大量迫害、マスコミ機関が党を攻撃する分子の手にゆだねられたこと、レーニンの民主集中制の原則の蹂躪——これらすべては、広範

な党員大衆の士気を沮喪させ、かれらから見通しと確信をうばい、党機関内に呆然自失の状態をひきおこす一方で、右翼分子の影響の強化をたすけ、反革命勢力の活動の活発化をうながした。

四

共産党を破壊し、チェコスロバキアにおける社会主義の地位を弱める反動勢力のたくらみにともなって、マルクス・レーニン主義のイデオロギーにたいして全面的な攻撃がくわえられた。社会主義の敵の言動が系統的で、はつきりした目的にむけられていることが、明瞭にみとめられる。かれらは、さまざまな立場から行動したが、その追求する目的は一つであった。すなわち、共産主義者の思想的、理論的基礎をくつがえし、科学的な社会主義をべつのイデオロギーの見解ととりかえること、これである。

チェコスロバキアの出版物の紙面は、マルクス・レーニン主義の露骨な敵の書きものを發表する場として、よろこんで提供された。著名なトロツキスト、アイザック・ドイッチャーの論文やかれの著書からの抜粋が、チェコスロバキアの多くの新聞雑誌に掲載されたことを思いおこすだけで十分である。

しかし、チェコスロバキアの反社会主義勢力は、これだけにとどまりはしなかった。

「チェコスロバキア正義派社会主義者党」組織委員会と称するものが作成したいわゆる『チェコスロバキア国民の備忘録』をあげてもよいであろう。この委員会のことは、『ムラダ・フロンタ』の六月一四日号に載っている。この誹謗文の筆者たちは、あつかましくもあからさまにこう宣言した。「われわれが採用する法律は、チェコスロバキアにおけるいっさいの共産主義活動を禁止しなければならない。われわれは、チェコ

スロバキア共産党の活動を禁止し、同党を解散する」。この筆者たちは、マルクス・レーニン主義の古典著作家の著作を破壊せよとよびかけた。

このような要求には、ヒトラー一派もよるこんで署名することであろう。かれらは、ドイツの各都市の広場でマルクス主義の書物を焼きすてたものだった。国民議会で、議員トウロシエクは、当然な危惧の念をもつてこの問題について質問した。「わが国では、共産党と共産主義者を誹謗するこの種の現象とのたた

かいは、いつ、どんなふうにはじめられるのか」。チェコスロバキアですすめられているマルクス・レーニン主義にたいする攻勢には、チェコスロバキア共産党の一部の活動家も参加している。

プラハでカール・マルクスの生誕一五〇周年を記念してひらかれた集会でチェコスロバキア共産党中央委員会書記C・ツイーサジがおこなった露骨な修正主義的演説が、全国にひろく宣伝された。この演説の核心をあげれば、レーニン主義の放棄、レーニン主義の国際的意義の否認、レーニン主義が現代の諸条件のもとでも行動の指針であることの否認に帰着する。残念なことに、チェコスロバキア共産党の一部の指導者は、この報告を批判し、チェコスロバキアにおける共産主義運動の思想的基礎を擁護するだけの勇気をふるいおこすことができなかった。そればかりではない。チェコスロバキアでは、ソ連の新聞がかけだしのマルクス・レーニン主義打倒者どもにたいする抗議の声をあげたという理由で、ソ連の新聞にたいするお

おがかりな攻撃キャンペーンがくりひろげられた。ついでにいっておけば、レーニン主義にたいする攻撃は、けつしてC・ツイーサシュの演説だけにかぎられない。おなじような主張は、最近チェコスロバキアで発行された他の出版物にもみいだされる。

これはなにも不思議なことではない。というのは、



チェコスロバキアでは、マルクス・レーニン主義を攻撃することが時流に投じた有利な処世方法となり、これに反して、共産主義学説の原則的諸命題を主張するのは危険をまねくような露骨な気が、かもしだされてい

たからである。 どうしてこんなことになったのか。一部の指導者が理論にこだわらなかつたためだろうか、それとも、党からその理論的武器をうばおうと望んでいる人間、チェコスロバキア共産党と共産主義運動の他の諸部隊との思想的団結の基礎を破壊したいと望んでいる人間を、わざとみのがしたからだろうか。

マルクス・レーニン主義理論をたえず発展させ、新しい過程や生活現象を概括し分析することがどんなに必要かという問題は、われわれも十分に理解している。もしマルクス・レーニン主義が、それぞれの歴史の時代にその理論家や信奉者によって発展させられないならば、それは死物となってしまうであろう。だが、前述したような発言が、マルクス主義の発展を目的とするものではなく、それを修正し打倒することを目的としていることは、まったく明白である。

しかし、チェコスロバキア共産党の指導者たちは、共産党の思想的立場を守るために、なにもしなかつた。

この思想的立場をほろくすず仕事をたすけたものは、チェコスロバキアにますますひろまっています。同国の歴史のいくつかの時期についての無批判的、超階級的な態度である。

つねに共産主義運動の頑強な敵で、ソビエト・ロシアにたいする武力干渉の教唆者のひとりであったマサリックの崇拜が最近復活されたことは、事実ではなからうか。かつてチェコスロバキア共産党の迫害を命令し、ゴットワルト同志をもふくむ党の指導者たちを逮捕した功績に勲章をさすけたこのブルジョア指導者

に、チェコスロバキアの一部の共産党員が賛美をささげたのは、奇妙なことではなからうか。同国をミュンヘン協定にみちびいたベネシュが、ふたたびほめそやされた。社会主義国の新聞が、人民の自由と祖国の独立のための闘争における英雄精神、剛毅、勇気の記録をみだされた光栄ある革命的歴史をもつ党の新聞が、右のような歴史、右のような指導者を持ちあげるために、骨をやらなければならないのか。最近のチェコスロバキアの新聞では、共産党の卓越した指導者や組織者たち、ヒトラー一派の占領者にたいするたたかいや、社会主義のため、われわれ両国民の友好の強化のためのたたかいに生命をささげた国際主義者たち、労働運動や共産主義運動の英雄たちについての言及がほとんど見られないのは、まったく理解にくるしむことである。

そのかわりに、『リテラルニー・リスティ』の八月一日号にのったムリニレクとかいう男の論文のような、政治的鉄面皮にかけて比類ない発言があらわれた。この論文では、チェコスロバキア共産党の全歴史、とくにチェコスロバキア社会主義革命以後の歴史や、クレメント・ゴットワルトをはじめ、数世代にわたるチェコスロバキア共産党の英雄的な闘士たちを誹謗するところみながされた。

さらにもう一つの事情がある。最近のチェコスロバキアでは、民族主義としかいいようのない気分を国民のあいだにかきたてる努力が数多くなされた。七月末に、ソ連共産党中央委員会政治局との話し合いをまえにして、チェコスロバキア共産党中央委員会幹部会の立場を支持して人為的に組織されたヒステリックな宣伝キャンペーンは、まさにそういう目的を追求するものであった。そのさい、会談にもむくチェコスロバキア共産党代表団へのアピールがチェコスロバキアの新聞に発表されたが、それは、まさにこうした昔ながらの民

## 五

ソ連とチェコスロバキアの友好の敵がこれらの議論のなかでひろく利用したテーマがもう一つあり、それにもふれないわけにはいかない。多くの新聞論説や、ラジオ、テレビの解説は、チェコスロバキアの「苦難」のすべては、最近まで同国の発展がだれかにおしつけられた「ソビエト型社会主義」にしたがっておこなわれてきた結果だという思想を、執拗に説いている。

この主張がまっかな作りごとだということは、ほとんど説明を要しないことである。

ソ連とチェコスロバキアとは国家制度がたがいにことなっていること、民族問題の解決の形態が多岐な点でちがっていること、国民経済の管理方式が一律でないことは、よく知られている。われわれ両国民の政治・経済・文化生活の多くの問題も、ちがった仕方

で解決されている。

社会主義国としてのチェコスロバキアの発展、その国家制度の発展、その共産党の発展は、あらゆる面で、同国の特殊性、その伝統、その特質を反映した形態でおこなわれてきたし、いまもおこなわれている。チェコ人やスロバキア人にたいしてなんらかの「ソビエト型社会主義」が「おしつけられた」といふおしゃべりは、われわれ両国民、両党、両国民を結ぶ兄弟的友情をそこなう目的で、敵意ある分子がひろめた悪意ある、挑発的なうそである。

チェコスロバキア共産党の地位をほろくすずとこころみてきた勢力は、ソ連とチェコスロバキアの経済協力を極力誹謗することにとめていた。かれらは、われわれ両国民のあいだに成立している経済的結びつきがチェコスロバキアにとって不利で、おまけに重い負担であるかのように説明するために、あらゆる努力をこらした。こういう主張がなすべく、あらゆる努力をこらした。これらはすべて一つの目的に奉仕していた。すなわち、チェコスロバキアの経済発展の方向を西歐にむけかえる地盤を準備するという目的である。だが、このためには、チェコスロバキアはソ連その他の社会主義諸国との協力を発展させることによつては、その課題を解決できないし、この協力はチェコスロバキアの民族的利益にかなっていないといふふに、チェコスロバキアの公衆に信じこませる必要があつた。

実際には、社会主義建設の経験がしめすところでは、社会主義諸国の経済関係は新しい型の関係であつて、この関係の発展は、それぞれの国の経済的および社会的進歩を促進するとともに、全体としての社会主義世界体制の強化を促進しているのである。

社会主義諸国は、プロレタリア国際主義の原則にもとづいて、歴史上はじめて全面的な協力と相互援助への移行を実現し、完全に主権ある、同権の国家として

族主義的激情をかきたてる役をした。

チェコスロバキア共産党中央委員会の一部の指導者は、極力この文書の普及をはかった。テレビの解説はこのアピールについて語り、その筆者たちはとくべつ熱烈な歓迎をうけ、アピールへの署名を集めた街路には、指導者たちが示威的に姿をみせた。こういうことを、友好的な兄弟党との話し合いを準備する正常な方法とみなすことができるであろうか。

もつとも重大なことは、チェコスロバキアでこのような人為的な方法でかきたてられた大衆的キャンペーンの鮮先が、チェコスロバキアの勤労人民の階級敵に、真に共和国の安全をおびやかしているものに、帝国主義者にむけられていなかったことである。まことに奇怪なことであるが、その鮮先は、社会主義的チェコスロバキアのもつとも親しい友人たち、ソ連その他の社会主義的兄弟諸国にむけられていた。

このことに関連して、こういう疑問が生まれてくる。もしチェコスロバキアの指導者たちがその友人の考えを尊重するつもりがなく、友人の声に耳をかすつもりがなく、友人といつしよに共通の道をすすむつもりがないなら、かれらはいったいだれにたよろうと考えているのか、だれといつしよに進むつもりなのか、という疑問である。かれらは安全保障を、チェコスロバキア国民の主権や、その社会主義的獲得物を帝国主義者の襲撃から守るための保障を、どこに求めるつもりなのか。

ついでにいっておけば、さわがしいキャンペーンがくりひろげられるきっかけとなつた右のアピールでは、もう一つの事情、おおいに重視しないわけにはいかない事情が、われわれの注意をひく。それは、このアピールが、チェコスロバキアの歴史的発展の諸段階を列挙しながら、チェコスロバキア社会主義への転換を実現した一九四八年二月の革命をまったく黙殺し

この過程に参加している。いまではなんびとも、もはやこの国々に帝国主義的搾取のくびきをになわせることはけつしてできない。これは、われわれの社会主義的共同体の巨大な達成であると同時に、まさに社会主義諸国の急速な発展を可能にした基礎であつた。

一九五〇年から一九六七年までの一七年間に、経済相互援助会議加盟諸国の鉱工業総生産額は五・四倍に増大し、世界鉱工業総生産額の約三分の一をしめるにいたつた。すぐる七年間だけで、経済相互援助会議加盟諸国の鉱工業生産額の伸び率は七六％にのぼつたが、他方、発展した資本主義諸国では、伸び率は四五％をこえなかつた。

経済協力を広範に発展させ、社会主義世界体制の枠内で国際分業を深めていくことは、個々の社会主義国の経済的必要性におうじるものであるだけでなく、国際情勢の性格、二つの世界体制の闘争の諸条件によつて必要とされていることである。

ところが、最近副首相O・シクその他をふくむチェコスロバキアの多くの国家指導者が、チェコスロバキアの経済発展や、同国と他の社会主義諸国との協力を批判する発言をおこなつた。もちろん、批判は必要である。しかし、批判はつぎの二つの基準をみだすものでなければならぬ。すなわち、科学的で客観的なものであること、勤労大衆の利益、社会主義の利益にそつたものであること、これである。ところが、O・シクのおこなつた批判は、チェコスロバキアの経済をおくれた、危機に達した経済のようにみせかけるものであつた。社会主義の時期にチェコスロバキアがおこなつた経済発展の道全体が、黒一色に塗りかえられ、塗りつぶされたのである。

同時に、チェコスロバキアの新聞は、チェコスロバキア共産党のとつている誤つた経済政策のために国民

の福祉の向上が不可能にされたとか、資本主義諸国ではもっとよい生活をしているとかいうことを、チェコスロバキアの労働者階級と全住民に信じこませようところをみた。

しかし、電力、鉄鋼、セメント、織物、靴、食肉、肉加工品の生産で、チェコスロバキアが、イギリス、西ドイツその他をふくめてヨーロッパの発展した資本主義諸国をうまわっていることは、周知の事実である。チェコスロバキアは、発展した機械製作工業をもっており、人口一人あたりの機械生産高で世界の先頭をきっている国のひとつである。

誇大にいふられたチェコスロバキアの経済発展の欠陥は、新聞で、間接に、ときには直接にもチェコスロバキアとソ連との経済関係のせいにはされた。チェコスロバキアとソ連との貿易があまりに描かれた。

一九五六年から一九六八年まで、つまり一二年間にわたるソ連とチェコスロバキア貿易にかんする若干の資料をとりあげてみよう。この期間に、ソ連は穀物一七〇万トン、綿花約七〇万トン、羊毛約七万トン、石油五一〇万トン、鉱石八〇〇万トン、銑鉄約二〇〇万トン、鋼材約二五〇万トン、銅二八万五〇〇トン、アルミニウム二〇万トン余、鉛二〇万トン余、濃化燐灰石約三五〇万トン、亜鉛一七万トン、アスベスト二〇万トン余、木材約五〇〇万立方メートル、機械設備約一二億ルーブルをチェコスロバキアに供給した。もしチェコスロバキアがこれらすべての商品を自由通貨で買ひいれなければならなかったとすれば、約三五億ドルも余分に支出するはめになったであろう。

同時に、チェコスロバキアはソ連にたいする機械や、靴、織物、既製服、小間物その他のような日常消費物資の大供給国である。いままでもなく、ソ連とチェコスロバキアとの貿易が純商業ベースにきりかえられるなら、そしてこれが

そのシクが事実上めざしていたことであるが、チェコスロバキア経済の利益にはならないで、国民経済に多くの困難がくりだされるであろう。

チェコスロバキアでは、半世紀にわたるソ連の実践や、さらに社会主義諸国の長期の実践が示した社会主義建設の国際的経験全体にたいして、さかんに批判がくわえられた。この経験にたいして、議論のなかにしか存在しない新しい「社会主義のモデル」を対置するところみながされた。そのうえ、一部の指導者は、主権とか不介入とかについてさんざんさわぎたてておきながら、このモデルを普遍的に模倣されるべき模範のようにならせようとした。

わが党は、チェコスロバキアの新聞がソ連の社会主義的国民経済の信用を傷つけるためにおこなってきたキャンペーンを黙過することはできない。

社会主義経済の発展は、わが党があつても、さらに他の兄弟諸国にあつても、つねに注意の焦点におかれているもつとも主要な任務の一つである。他の社会主義諸国の経済と密接に結びついているソ連は、ソ連の経済的発展が同時にわれわれの友人たちや同盟諸国の国民経済上の必要をもみだすようにするため、また、これらの国が、資本主義諸国にできるだけ依存せず、帝国主義のわがわがの各種の危険にできるだけにさらされず、経済発展をおこなうことができるようにするために、必要な措置をとっている。

歴史的な状況によつて、ソ連は社会主義陣営の安全にたいして重大な責任をになつてきている。このため、当然のこととして、われわれは、わが国の経済を発展させるかたわら、ソ連一國にとつただけでなく、社会主義諸国全体にとつて必要な国防工業に、つねに莫大な資金を投じてきた。現在この工業が、ベトナムにたいする、またアラブ諸国にたいする帝国主義的侵略を撃退する可能性を保障しているのである。

を確実に保障する強固な基礎である。

条約加盟諸国は、社会主義の獲得物、各国の国境、ヨーロッパの平和をしっかりと守るといっておこなう義務をたがいに負った。

ソ連は、すべての条約加盟国がこの義務を神聖なものとして履行するように主張してきたし、いままも主張している。そうすることによつてはじめて、それぞれの加盟国の安全を保障することができ、今日まで、ソ連は、現行の諸条約にもとづく自国の義務について、チェコスロバキアも同様な態度を示すものと考へてきた。

ところが、最近チェコスロバキアの対外政策、ことにヨーロッパ問題についての同国の政策の分野には、重大な憂慮をよびおこす一定の傾向があらわれてきた。こういう傾向は、チェコスロバキアの新聞論説や、ラジオ、テレビ放送だけでなく、一部の政府要人の演説にもあらわれている。とくに、外相J・ハーエクの発言に、そういう傾向がかなりはつきりと示されていた。ここにいつているのは、チェコスロバキアの対外政策を改訂せよという呼びかけにくわつた人たちのことである。

ワルシャワ条約に打撃をくわえて、この条約をぐらつかせようというはつきりしたくわだてがおこなわれた。チェコスロバキア共産党中央委員会の責任ある代表者V・プルブリクは、プラハで新聞記者たちに公式の発表をおこなったさいに、ワルシャワ条約を攻撃し、その構成を変える必要があるとのべた。それだけにとどまらないで、かれはワルシャワ条約加盟諸国の政治諮問委員会の活動を誹謗した。周知のように、この委員会は、党と政府の指導者のレベルで構成されているのである。このような行動は、当然にチェコスロバキア中央委員会の指導部によつて非難されることを期待してよかつた。だが、そういうことはなされな

つた。これは、われわれの共同の問題、ワルシャワ条約機構の加盟諸国の問題である。この機構に割目がうがたれるのを、ゆるすわけにはいかない。このような方針は、ワルシャワ条約機構のすべての加盟国の死活的な利益に反しており、わけてもソ連の死活的な利益に反している。

相互間の条約にもとづいて負つた社会主義諸国の義務は、条約加盟諸国が自国国境の積極的な防衛を保障することを要求している。この点で、チェコスロバキアの西部国境はどうなっているだろうか。この国境は、チェコスロバキア側では事実上開放されてしまつている。

帝国主義的諜報機関からおくられてくる謀略工作者やスパイが、西側諸国からチェコスロバキアにどしどし流れこむという事態が生じた。帝国主義者の手先どもは、チェコスロバキア領内へひそかに武器をはこびこむことができた。

最近の諸事件のあいだにチェコスロバキアの一部の指導者が同国の対西ドイツ関係についておこなつた発言は、重大な憂慮をよびおこすものであつた。

西ドイツが、ドイツ民主共和国と西ドイツとの国境をもふくめて、ヨーロッパの現行の国境を承認しておらず、また承認する意図ももたないこと、西ドイツが「全ドイツ人の代表」権をもつことをみよとめよといふかわらぬ要求していること、西ベルリン領有の主張をいまなおかかげており、同地で各種の挑発を組織していること、西ドイツ政府が核兵器の保有を完全に放棄するといふ声明を今日までおこなつておらず、またミュンヘン協定は最初から無効であつたといふ声明をおこなつていないこと、これらのことはチェコスロバキアの指導者もよく承知していた。それにもかかわらず、チェコスロバキアでは、西

他の兄弟諸国も、諸国民の社会主義的獲得物を守る事業にそれぞれに貢献していることを、われわれは知っている。われわれはみな、このことを自己の国際的な責務と考へている。

わが党は、党建設と国家建設の方式、形態、方法をたえず改善している。これとおなじ活動は、他の社会主義諸国でもおこなわれている。これは、社会主義制度の基礎から生まれてくるものであつて、おだやかにすすめられている。残念なことに、チェコスロバキアにおける経済改革の諸問題についての討論は、それとはちがった基礎のうえでおこなわれた。この討論の中心におしだされたのは、一方では社会主義経済の従来の発展にたいする十把ひとからの批判であり、他方では、計画原則をやめて、自然発生的な市場関係をとりいれ、私的資本の活動に広範な活動の場をあたえようという提案であつた。チェコスロバキアにおける経済的討論は、修正主義分子や反革命分子によつて、同国の経済を資本主義的な道の方へ転換させようとするあきらかな目的に利用された。

### 六

チェコスロバキアの一部の指導者は、対外政策の分野で、チェコスロバキアがワルシャワ条約や、ソ連との二カ国間条約にもとづいて負つてはいる義務にかんして、一連の重要な命題に修正をくわえはじめた。

ソ連、チェコスロバキア間の条約によつて、われわれ両国は、自国の安全と、さらに社会主義的共同体に属する他の国々への安全とを保障するために、力をあわせ、緊密に協力する義務を負つた。この義務は、二カ国間条約およびワルシャワ条約にもとづく他の社会主義諸国の義務とあわせて、同条約の各加盟国の安全

イツへの接近、西ドイツとの結びつきの強化をめざす発言があらわれてきた。ついに、チェコスロバキアのヨーロッパ政策は、多くの点で、チェコスロバキアがソ連と西ドイツとの中間にあるという事実によつて規定されなければならないという公式の声明が、チェコスロバキア政府の名前でおこなわれるまでになつた。

しかし、このような態度は、階級的内容をまったく欠いたものであり、歴史的経験全体に矛盾しており、社会主義諸国とチェコスロバキアそのものとの安全の利益にかんがっていない。

チェコスロバキアの一部の指導者は、同国の対外政策の方向を西側にむけかえるよう、この政策をソ連その他の社会主義諸国の政策から「もつと独立的な」ものにするようによびかけた。かれらがこの「独立」ということばのかけに、チェコスロバキアの対外政策を社会主義的共同体の国々への統一的政策から、きりはずす努力をかくそうとしたのだといふことは、看取するに困難でない。

残念なことに、チェコスロバキアでは、このような発言はしかるべき反撃をうけなかつた。

ヨーロッパの安全保障の問題、一般に国際政策の問題で、ワルシャワ条約加盟諸国との協力を弱めるのではなく、強めることが、兄弟国チェコスロバキアの利益をもふくめて、われわれの共通の利益にかんがつたやり方である。このことは、ワルシャワ条約加盟諸国にたいし、ワルシャワ条約の放棄の要求をもちだそうとするあらゆる種類の挑発的なくわだてにだんこたる反撃をくわえる義務を負わせている。

最近チェコスロバキア領内でおこなわれたワルシャワ条約加盟諸国の軍司令部の演習に関連して、ワルシャワ条約にもとづくチェコスロバキアの義務についての許しえない態度を示した諸事実が、われわれの注意

をひく。軍司令部の演習期間に派遣された社会主義諸国の軍部隊がチェコスロバキア領土内に駐留することに反対して、非友好的なキャンペーンが展開された。ソ連軍部隊の駐留は、反社会主義分子や右翼分子によって、チェコスロバキア領土の占領のように描きだされた。これが、ワルシャワ条約にもとづく同盟国の義務を尊重するというものであろうか。いや、むしろ、ワルシャワ条約機構の軍事機構の運用を實際上困難にする努力といったほうがよい。自己の負っている同盟国としての義務を尊重するのは、こんなふうには行動しない。こんなふうの行動をとることができず、は、これらの義務を軽視する人間である。ワルシャワ条約加盟諸国は、このことからしかるべき結論をひきださないわけにはいかなかった。

最近の時期の諸事実が示すところでは、チェコスロバキアでは反ソ宣伝や、反ソ的な発言があきらかに増大した。五月二日にスタロムニェスク広場でおこなわれた挑発的な集会をあげることができよう。この集会では、数人の演説者が反ソ的な演説をした。またプロハスカ、ハンゼルカ、その他数人の同様な活動家がおこなった侮辱的な発言をあげることができよう。さらに、多数の新聞論説や、ラジオ、テレビの解説をあげることができよう。それらの筆者や発言者たちは、ソ連とチェコスロバキアの友好関係を誹謗するために、あらんかぎりのことをやった。チェコスロバキアからわれわれがうけたようなはげしい攻撃や侮辱は、近年においては資本主義諸国からさえめつたに聞かれないものであった。敵は、シェイナ事件であろうと、ヤン・マサリクの死の事情についてのとりざたであろうと、またワルシャワ条約軍の演習であろうと、反ソ気分を火に油をそそぐために、あらゆる口実を利用して、反ソ的な内容をもりこんだビラが各都市にまかれ、この事件や、ソ連国旗の侮辱事件がおこった。こ

積極的に援助したのであって、ブルジョア制度の信頼すべき支柱であった。

一九四八年に、社会民主党の誠実な革命的分子が共産党と合同したとき、社会民主党は存在することをやめた。しかし、今年になって、国民戦線とチェコスロバキア共産党中央委員会とが社会民主党の結成を禁止する決定を採択したにもかかわらず、社会民主党は事実上再建された。

六月二日、プラハで、「現在の政治情勢にかんするチェコスロバキア社会民主党準備委員会の立場」という表題をもった文書が配布された。この文書は、社会民主党が二二年間の中断のち政治生活に復帰することを確認し、法律的な見地からみても、「一定の具体的な政治的見解の表現」としても、党は存在をやめはしなかった、と主張していた。また、一九四八年六月における共産党との合同は「無効」と宣言していた。

六月二日、プラハで、チェコスロバキア社会民主党準備委員会の会議がひらかれ、チェコスロバキアとモラヴィアの各州からきた社会民主主義者の代表が出席した。ついで、州委員会、地区委員会および数百にのぼる社会民主党の初級組織が設立された。党は活動を開始し、しかもチェコスロバキア共産党に反対する活動を開始した。

過去七ヶ月のあいだに、チェコスロバキアでは、反社会主義的な傾向をもったさまざまなグループや団体が数多くつくられた。これらの団体は、反対派の中心の役割をはたすものと主張して、かれらの目的が社会主義制度を一掃することであることを、ますますかくそうとしなくなった。

「クラブ二三一」は、あからさまな反革命団体であった。このクラブの先頭にたったのは、古いファシストのプロツキ、元ブルジョアの將軍パレチェク、かつて帝国主義的諜報機関のスパイのかどで有罪判決をうけたランボウセクとチェヒ、その他のような連中であつた。かれらはすべて経験をつんだ社会主義の凶

のような行為がわれわれ両国の関係の改善をたすけるものでないことは、いうまでもない。

ソ連にたいする敵意の種をまくことは、だれの利益になるのか。ヒトラー主義に反対するわれわれの共同の闘争をチェコスロバキア国民の記憶からぬぐいさううとのぞんでいる連中、チェコ人とスロバキア人の社会主義的獲得物をたいせつに思わない連中、世界社会主義の獲得物を掃いたとねがっている連中、この連中の利益になるだけである。反ソ主義と反共主義は、これまでつねにそうであつたように、たがいに結びつき、補足しあうのである。

チェコスロバキアの指導者たちは、チェコスロバキアとソ連とのやぶりえない友情について、なんどとなく声明をおこなつた。チェコスロバキア共産党中央委員会の五月総会では、われわれ両国の関係の現状について、心からの憂慮の声があげられた。しかし、ブルジョア民族主義の波とたたかひ、チェコスロバキアにおける反ソ的言動をとりしめる有効な措置はとられなかった。もちろん、友情や連帯について、同盟国の責務についての美しい言葉を語ることもよからう。しかし、重要なのは、言葉ではなく、言葉のかけにあるものである。重要なのは、宣言のあとにどういふ具体的な行為がつづくかである。

非友好的な反ソ・キャンペーンの教唆者たちが、チェコスロバキアは社会主義国としてのみ、社会主義的共同体の一員としてのみ、その独立と主権を維持することができるといふ真理を忘れさせることに成功しないであろうことは、疑いをいれない。

チェコスロバキアとソ連その他の社会主義諸国との関係の破壊をもくろんだ反動勢力は、それによって、チェコスロバキア国民にたいして、帝国主義のくびきのもとでの奴隷制の運命を準備したのである。

悪な敵である。

もう一つの、あきらかに反社会主義的な団体で、とくべつ積極的に活動し、インテリゲンチヤ、労働者、兵士をその隊列にひきこもる狂奔したのは、「無党派活動家クラブ」である。このクラブの思想的指導者となつたのは、以前に共産党から除名されたイワン・スピタクである。この男は、この団体の戦略戦術をつくりあげた。雑誌「レポルテール」に発表したその膨大な声明のなかで、スピタクは、段階的に共産主義者を権力から排除し、特別の議会選挙を手段として反共主義者を権力につける計画の完全な見取図を作成した。

反社会主義的な傾向の団体は、けつして「クラブ二三一」と「無党派クラブ」とにかざられるものではないが、なかでも積極的に活動してきたのはこの二つである。

チェコスロバキアの反社会主義的諸団体は、在外の反革命的亡命者の中央部や、外国のブルジョア政党やグループとさまざまに連絡をもつていた。チェコスロバキアの指導者たちは、反対派の諸団体にたいしては法律による措置をとると言明した。しかし、なにもなされなかった。

国内に生じた情勢が重大なものであり、敵意ある勢力の活動を阻止するために緊急の措置をとる必要があることをとくにはっきりと立証したのは、公然たる反革命的政綱——「二千語宣言」が公表されて、ひろく宣伝されたという事実である。チェコスロバキア共産党に直接鉾先をむけたこの文書には、合憲的権力に反対する闘争への公然たる呼びかけがふくまれている。宣言は、社会主義制度に不満をもつすべての分子を結集する目的にひろく利用され、かれらの行動綱領としてやくだつたこの敵意ある政綱の筆者たちが、自分たちの立場を守るために、武器をもちいるといつて威嚇していたことに、注意をうながさないわけにはいかない。これらの勢力の公然たる進出——「二千語」宣言——は、党と労働者階級の勢力を支柱として、こ

最近チェコスロバキアでは、一定の社会的基礎をもち、外国からの支持にたよつて、積極的な活動を開始し、権力にたいする野望をますます露骨にしめすようになった。同国には、実質上、チェコスロバキアに資本主義制度の復活を実現する使命をおびた政治的反対派が結成された。

チェコスロバキアには、二〇年にわたつて非共産主義的な諸政党が存在して、国民戦線に参加してきた。これらの党の指導部は、社会主義建設をめざす方針をとつて、その活動によつて、国内の一定の非共産主義勢力を創造的な活動にひきこまれるたすけをしてきた。ところが、最近七ヶ月間に、これらの政党の方針に根本的な転換がおこつた。人民党と社会党の指導部は、その方針をおおきくかえて、国民戦線の枠内でチェコスロバキア共産党と協力するというスローガンにいまなおかくなれながらも、事実上、合法的な反対派を結成するにいたつた。この二つの非共産主義政党の指導部は、その暫定綱領文書のなかで、共産党と平等の立場で国家権力に参加するという要求を表明した。しかし、これはこの春のことであつた。七月には、問題はそれとちがつたものだということ、すなわち、共産党を権力からしめだして、この国にたいする新しい非共産主義的な指導部を設立することが問題なのだということ、もはやだれひとりかくさないようになつた。

チェコスロバキア社会民主党が過去にはたした役割は、かなりによく知られている。社会民主党の右翼指導部は、労働者階級の隊列を分裂させることによつて、共産主義者とのたたかひで、反動勢力をもつともれらの勢力にたいして断固たる行動をとる完全な根拠をあたえていた。ところが、反革命勢力にたいする反撃とよぶことのできるようなことは、なにもおこらなかつた。

このことは、他の同様な言動にたいして屏をひらくものであつた。そして、そういう言動は、待つまもなくきびすを接してあらわれた。この一、二週の間、いかに反動勢力、反社会主義的諸団体が共産党と人民権力にたいする破壊活動を強化したことは、事実が示している。社会主義の事業に献身的な誠実な共産党員にたいする迫害は、いつそ露骨な、無法な性格をおびてきた。

「保守派を国家権力機関から排除せよ」というスローガンのもとに、国民議会の期限前改選をおこなえという要求が、ますます活発に提出されるようになった。右翼諸団体の代表者たちは、選挙で、共産党を敗北させるといふ目標をたてた。いいかえれば、ここでは反革命的クーデタをおこなう公然たる企図が問題となつていたのである。

反革命勢力は、武力衝突をさけて、おだやかに権力をにぎることにとつとめた。だが、それとはちがつたなりゆきになる可能性をも、かれらはみこしていた。隠匿された武器が発見された周知の事実、反動勢力が社会主義の支持者との武力衝突の場合も除外してはいなかつたことをもがたつて、旧ベネシュ軍の将校の団体——「在外戦士連合」——が設立された。チェコスロバキアの国外では、国境のすぐまぢかに反革命派の大集団がよびよせられて、集結した。かれらのうちのいく人かは、武器をたすさえてチェコスロバキア国内に潜入した。プラハ大学での夜の集まりで、スピタクは、民主化の原則を「絶対的自由」の達成までおしすすめるには、内乱の道もありうると、率直に言明した。

右翼・反社会主義・反革命勢力の活動の結果、チェコスロバキアには、反革命的クーデタがおこつて、社会主義の獲得物が失われるという現実の脅威が生じ



た。チェコスロバキアでおこっている政治過程とその発展の傾向について、ソ連共産党と他の兄弟諸党とがいたいた憂慮のおもな原因は、まさにこの点にあった。ブルガリア共産党、ハンガリー社会主義労働者党、ドイツ社会主義統一党、ポーランド統一労働者党およびソ連共産党の各中央委員会が、友人の権利にもついでチェコスロバキア共産党とチェコスロバキア共産党の指導者との新しい二党間会談をひらくという提案を、いくどもおこなった。しかし、チェコスロバキア共産党中央委員会の指導者は、そのつど、さまざまな理由をいいたてて、この会談を回避したのである。ワルシャワ条約に加盟したいいくつかの兄弟国の指導者たちは、国際主義の原則に忠実に、兄弟国チェコスロバキアとの連帯感と、わが大陸における社会主義の運命にたいする責任感とにうながされて、チェコスロバキアの指導者といっしょに会談をもつて、情勢を同志的に討議し、そこからぬけだす道をうちだし、チェコスロバキアの指導者に援助の手をさしよべようという決定をおこなった。残念なことに、チェコスロバキア共産党中央委員会の指導者は、この提案を拒否し、ワルシャワ会談に出席することをのぞまなかった。しかし、当時の情勢のもとでは、兄弟諸党がこのような会談をひらく十分な政治的および道徳的な根拠があったのである。

ワルシャワ会談は、五つの共産党・労働者党の完全な一致、その不動の団結、反革命勢力の策謀にたいする反撃を保障するというその決意を示した。チェコスロバキアでおこなわれた反革命的、反社会主義的な言動の分析は、それらが自然発生的なもので

はなく、きわめて組織的な性格をもっていることを、だれにもわがらうようにしめしていた。それらの言動には、反社会主義勢力の進出の諸契機、その攻撃の方向と目標がはっきりとあらわられていたし、その言動には一定の順序がみられ、またすべての勢力——チェコスロバキア共産党内部の右翼修正主義勢力、国内の反社会主義的な、あからさまな反革命勢力、外部からのこれらにたいする支持——の行動はたがいに結合調整されていた。

これらすべてのことは、国内に広範な連絡をもち、マスコミ機関内の反社会主義勢力の行動を指揮し、さまざまなクラブや、その他の政党と連絡をたもっている組織的な反革命勢力が、諸事件をみちびいていることをもがたつていた。反革命勢力は、もつとも重要な国家保安機関にも打撃をあたえていた。反革命的な目的の実現にあつては、外国の諜報機関や、外国の帝国主義グループと結びついていた。このばあい、反革命勢力の組織者のうちの一部の人間は、最後まで蔭に身をかくしておくようにつとめた。右翼勢力は、チェコスロバキア共産党の指導諸機関内に一味をもつていて、それらの機関の行動について十分な情報をつけていた。このことは、事態の危険性をたかめるものであつて、全党、なによりもまずチェコスロバキア共産党中央委員会幹部会と各幹部会員、チェコスロバキア共産党中央委員会各幹部会、だんことして反革命勢力とたたかうことを要求していた。ところが、党中央委員会幹部会の個々のメンバーや個々の政府指導者が、原則的な諸問題について幹部会決定された方針に背反する方向をとるばあいが、しばしばみられた。こうして、党中央委員会幹部会員F・クリゲルは、反社会主義分子にたいして反撃をくわえなかつただけでなく、実質上、露骨な反革命的言動の張本人たちとの連帯をしめした。たとえば、かれと「二千語宣言」の筆者たちとのテレビ座談会が、それである。ソ連共産党と他の社会主義諸国の兄弟党とは、たび

た。チェルナ・ナド・チソウ会談のあいだに、チェコスロバキア共産党中央委員会幹部会内の勢力の区分がはっきりあらわられてきた。A・ドゥプチェクを先頭とする幹部会員の少数派は、露骨な右翼日和見主義的立場から発言したのに対し、多数派は原則的な方針をとり、反動的な反社会主義勢力にたいし、また反動派を大目にみるやり方にたいして、だんことしてたたかう必要があると表明した。

これら目的が実現されることは、完全に帝国主義者の利益にそむくものである。チェコスロバキアにおける事態の憂慮すべき発展を、帝国主義者とその宣伝機関がどのように積極的に支持したかは、まさにこのためであつて、なにかほかの理由によるものではない。まして、社会主義と民主主義にたいし、チェコスロバキアの勤労者にたいして、かれらが突然に愛情を感じたためではない。

チェルナ会談とブラチスラバ会談のあとで、右翼・反革命勢力はその活動をさらに活発化した。反社会主義分子は、労働者民兵解散の要求への署名キャンペーンを組織した。このキャンペーンにもなつて、反社会主義的な性格をもつ集会やデモンストレーションがおこなわれた。これらの集会で発言した共産党員は、乱暴なやり方で沈黙をしいられ、肉体的な暴力さえくわえられた。新聞では、狂暴な反社会主義的ヒステリイがまたもやくりひろげられた。「アウト・プラハ」工場の九人の労働者にたいして、かれらが大胆に労働者階級社会主義的獲得物を擁護し、チェコスロバキア国民とソ連国民との友好を擁護したというだけの理由で、どんなに凶暴な迫害がくわえられたかは、だれもが知るところである。この数日間、組織的な破壊活動は最高潮にたつし、プラハの共産党中央委員会書記局の建物にたいして、公然たる襲撃がかけられ

た。チェルナ・ナド・チソウ会談のあいだに、チェコスロバキア共産党中央委員会幹部会内の勢力の区分がはっきりあらわられてきた。A・ドゥプチェクを先頭とする幹部会員の少数派は、露骨な右翼日和見主義的立場から発言したのに対し、多数派は原則的な方針をとり、反動的な反社会主義勢力にたいし、また反動派を大目にみるやり方にたいして、だんことしてたたかう必要があると表明した。しかし、チェコスロバキア共産党および政府の指導部内の右翼修正主義分子は、チェルナ・ナド・チソウとブラチスラバで達成された協定、チェコスロバキアにおける社会主義的地位を守り、反社会主義勢力とたたかい、帝国主義の策謀に反撃をくわえるという協定の履行をぶちこわした。この人びとは、うわべをこまかすために、社会主義を守るために努力しているといながら、実際には、反革命勢力を大目にみて、時をかせこうとしていただけであつた。かれらの背信的な裏切的行動の結果、チェコスロバキア社会主義的獲得物にたいする現実の脅威が生まれた。札つきの反動派が、チェコスロバキアの政治的生活の活動場面に登場して来た。

チェコスロバキア共産党中央委員、チェコスロバキア社会主義共和国の政府関係および国民議会議員の一グループのアピールは、こう強調している。「つまり、極端主義勢力は、党の呼びかけに耳をかたむけるどころか、その破壊活動をいかにと積極化し、なにがなんでも国内に衝突をひきおこそうとかがかかっている」。チェコスロバキアの勤労者が過去二〇年のあいだにつくりだしたすべてのもの、社会主義のすべての獲得物があやうくされてきた。チェコスロバキア国民が一月にふみだした社会主義的民主主義の道だけでなく、社会主義の基礎そのもの、共和国そのものが、脅威にさらされてきた。

たびこのことについてチェコスロバキア共産党の指導者の注意をうながした。わが国の経験と他の兄弟諸党および社会主義諸国の政治闘争の経験とは、反革命的危険に背をむけてはならないこと、それに目をこざしてはならないことを教えている。調停的な態度、危険の意識的な過小評価、まして反革命勢力とのいちゃつきは、反動勢力のために、社会主義の破壊にむかつて事をはこぶ可能性をつくりだす。チェコスロバキア国内におこっている事実と現象の分析にもついで、兄弟諸党は、チェコスロバキアでは社会主義にたいする大規模な攻撃がおこなわれているのであり、そのなかでは反革命勢力がもつとも積極的な役割を演じているということを強調した。この反社会主義的攻勢を實行するために、外国の帝国主義勢力、反革命勢力、そしてチェコスロバキア共産党内の右翼修正主義分子が、客観的に相提携していた。

社会主義諸国の共産党・労働者党は、チェコスロバキアの兄弟党の党員や、すべての勤労者を支持し、チェコスロバキアにおける事態の危険な転回を予防しようとして、できるかぎりの努力をほらした。チェルナ・ナド・チソウでおこなわれたソ連共産党中央委員会政治局とチェコスロバキア共産党中央委員会幹部会の会談、ついでブラチスラバでひらかれた六社会主義国の共産党・労働者党代表者会議は、この目的に奉仕するものであつた。これらの会談では、チェコスロバキア共産党中央委員会の代表は、国内の情勢を安定させる、社会主義的獲得物を強化し擁護するための具体的措置を緊急にとり確約した。しかし、チェルナ会談とブラチスラバ会談のあとでも、チェコスロバキアの指導的諸機関は反革命勢力に反撃をくわえる措置をなにもとらず、右翼・反社会主義勢力は、さらにその活動を活発化した。これら勢力は、まったく明確な目的をたてていた。すなわち、チェコスロバキア共産党から社会主義社会を發展させるうえでの指導的役割をうばいよることである。このために、かれらは、党の権威にたいするおおがかりな攻勢をくりひろ



# チェコスロバキア社会主義共和国市民へのアピール

『プラウダ』八月二四日付

われわれの兄弟、チェコ人、スロバキア人の諸君！ブルガリア人民共和国、ハンガリー人民共和国、ドイツ民主共和国、ポーランド人民共和国、ソビエト社会主義共和国連邦の五ヶ国政府は、諸君に呼びかける。

社会主義の事業に忠実なチェコスロバキアの指導的な党活動家、国家活動家たちがわれわれに援助をもとめたアピールにこたえて、われわれは、チェコスロバキアの労働者階級、全国民がその社会主義的獲得物をまもるのに必要な援助をあたえるよう、それぞれ自国の兵力に命じた。そして国内、国際反動のますますしつこい侵害のたくらみは、この社会主義的獲得物をおびやかすつある。

このような行動こそは、兄弟諸国の共産党・労働者党は協力して、それぞれの国民の社会主義的獲得物をまもり、帝国主義の陰謀に反撃をくわえるべきだという、プラチスラバで集団的にひきうけた義務にもとづくものである。

帝国主義者の激励と支持をうけている反革命派は、しきりに権力をにぎりたがっている。出版物、ラジオ、テレビの内部で主導的な地歩をせしめた反社会主義勢力は、社会主義のための闘争の二〇年間に勤勉な

チェコ人、スロバキア人の手づくりされたすべてのものに、難くせをつけ、泥をぬって来た。

敵どもは、社会主義に忠実な基幹要員を迫害し、合法性や法秩序の基礎をゆさぶり、自覚した労働者、農民を国の政治生活から乱暴に締めだし、反人民的行動に参加したがいらない誠実な知識人を迫害してきた。反革命勢力は、社会主義的法律に違反して、その諸組織をつくり、権力奪取の準備をすすめてきた。そして、これらみな、民主化というデマゴギー的な空文句で偽装されていた！社会主義的民主主義の理想に忠実なチェコスロバキア国民は、こんなことにごまかされるものではないと、われわれは確信する。真の自由と民主主義は、労働者階級とその前衛——栄光にかがやくチェコスロバキア共産党——の指導的役割を強化することによってのみ保障される。

この目標こそは、過去におかした誤りを是正する端緒となつたチェコスロバキア共産党中央委員会一月総会が呼びかけたものである。われわれ五ヶ国の党と国民は、社会主義的民主主義の強化、そのいっそうの充実をめざす正当な意欲を支持した。

しかしながら最近数ヶ月間、反社会主義勢力はたゞみに正体をごまかしながら、社会主義の基礎をゆさぶりだした。チェコスロバキアの国家指導部、党指導部のなかにもぐりこんだ一連の人物は、事実上これらの破壊活動を援護し、それによって反革命派が権力奪取闘争の完成段階のためにその勢力を結集するのをたすけた。

ソ連はチェコスロバキア・チエルナ会談と共産党・労働者党プラチスラバ会議の席上、チェコスロバキアの代表たちは、勤労者の利益をまもり、社会主義の破壊をめざす反動派の行動をたちきる意図を声明した。かれらは、チェコスロバキアと兄弟的社会主義諸国との統一を強化することを約束した。

しかしながら、これらの約束や誓約は、あいかわらず実行されなかつた。このことは、反社会主義勢力とその外国の後援者連中が敵対活動を強化するのを、い

ちだんとはげました。敵どもは、国を混乱におとし、祖国の自由と独立をわれらの利己的で自己中心的な目的の犠牲にする準備をととのえた。

アメリカ帝国主義の侵略行為によって、とりわけドイツの報復主義勢力の積極化によってひきおこされた、複雑な、しかも陰悪な国際情勢のもとで、チェコスロバキアを社会主義諸国の共同体からきりはなすことができるものと、反革命派はあてこんでいた。だが、そんな期待はむなし。社会主義諸国は、兄弟のチェコスロバキアが侮辱されるのをゆるさず、社会主義の事業をまもるだけの威力を十分にそなえている。

親愛な友人諸君！本日、階級の兄弟が諸君をたすけにいった。これらの兄弟が諸君のところへいったのは、諸君の内政に干渉するためではなくて、諸君と協力して反革命に反撃をくわえ、社会主義の事業をまもりぬき、諸君の祖国の主権、独立、安全にたいする脅威をとりぞくためである。

兄弟の同盟諸国の軍隊が諸君のところへいったのは、われわれの反ファシズム共同闘争をつうじてかちとつた諸君の自由が、だれからもうばわれないようにするためであり、社会主義のあかるい道をすすむ諸君の前進が、だれからもさまたげられないようにするためである。チェコスロバキアの自由と独立への脅威がのぞかれさえすれば、これらの軍隊は諸君の国土から撤退する。

われわれは信じて疑わない——社会主義共同体諸国民の統一と団結は、敵の陰謀にうちかつたろう。

- 社会主義者チェコスロバキア万歳！
- 社会主義諸国民の友好と友愛万歳！
- ブルガリア人民共和国関係会議
- ハンガリー人民共和国関係会議
- ドイツ民主共和国関係会議
- ポーランド人民共和国関係会議
- ソビエト社会主義共和国連邦関係会議

# ソ連はチェコスロバキア会談にかんするコミニケ

モスクワ八月二七日タス

ソ連・チェコスロバキア会談は八月二三日から二六日までモスクワでおこなわれた。出席者はつぎのとおり。

ソ連側は、ブレジネフ書記長、コスイギン首相・党政治局員、ボドゴルヌイ最高会議幹部会議長・党政治局員、ボロフ党政治局員・ロシア連邦首相、キリレンコ党政治局員・書記、ポリヤンスキー党政治局員・第一副首相、スースロフ党政治局員・書記、シエラ、ピン党政治局員・全ソ労働組合中央評議会議長、シエラ、ソ連党政治局員・ウクライナ党第一書記、カトゥシエフ党書記、ポノマリョフ党書記、グレレコ国防相、グロムイコ外相。

チェコスロバキア側は、ボダ大統領、ドゥプチェク党第一書記、スマルコフスキー国民議会議長・党幹部部員、チェルニク首相・党幹部部員、ビリヤク党幹部部員・スロバキア民族評議会議長、ピレル党幹部部員、リゴ党幹部部員、シユパチェク党幹部部員、シユベスタカ党幹部部員、ヤケシュ中央統制監査委員会議長、レナルト党幹部部員候補・書記、シモン党幹部部員候補、フサク副首相、インドラ党書記、マリナル党書記、ズール国防相、クテラ法相、コウツキー駐ソ大使。

自由で同志的な討議のなかで、双方は現在の国際情勢の発展、社会主義諸国にたいする帝国主義的策動の活発化、最近のチェコスロバキアにおける情勢、社会主義五ヶ国軍隊のチェコスロバキア領内への一時的進入にかんする諸問題について討議した。

双方は現情勢における主要なことがら、チエルナ・ナド・チソウで採択された相互の決定とプラチスラバ会議で達成された決定と原則を履行することであり、同時に、これらの会談で到達した協定にもとづく実践的な措置を一貫して実施することであるという確固とした信念を相互に表明した。

ソ連側は、社会にたいする指導方法の改善、社会主義的民主主義の発展、マルクス・レーニン主義にもとづく社会主義制度の強化のためにチェコスロバキア共産党中央委員会が一月と五月の総会で可決した諸決定を推進しようとするチェコスロバキア共産党とチェコスロバキア社会主義共和国の指導部の立場にたいする理解と支援を表明した。

チェコスロバキア社会主義共和国における情勢のこともすみやかな正常化のためにとるべき措置について協定に達した。チェコスロバキア側指導者たちは、このような目的のために、いまだだちにとらうとしている措置についてソ連側に通告した。

チェコスロバキア側はあらゆる手段を通じて党と国家機関のすべての活動が社会主義権力の強化、労働者階級と共産党の指導的役割、ソ連ならびに全社会主義共同体各国の人民との友好関係の強化のための効果的措置を保障することにむけられるであろうとのべた。ソ連側指導者は社会主義者チェコスロバキア人民との友好と兄弟愛のためにソ連の人民が一致して努力することを表明し、相互尊重、平等、領土保全、独立、社会主義的連帯にもとづいてもっとも広範で誠実な協力の用意があることを確認した。

するにつれて、これらの軍隊がチェコスロバキア領から撤退する条件について協定が達成された。

チェコスロバキア側は、チェコスロバキア軍最高司令官が、平和と公共の秩序をやぶるおそれのある事件や紛争を防止するためにチェコスロバキア社会主義共和国軍隊にたいして適切な命令を発したことをソ連側に通告した。司令官はまたチェコスロバキア社会主義共和国軍司令部にたいし、同盟軍司令部と接触することを指令した。

国連安保理事会におけるいわゆるチェコスロバキア情勢にかんする問題の討議に関連して、チェコスロバキア社会主義共和国側代表は、チェコスロバキア側が国連安保理事会の審議のためにこの問題を提起することを要請せず、またこれを議題からとりのぞくよう要求したとのべた。

ソ連指導者とチェコスロバキア指導者は、社会主義共同体の連帯を強化することに役立つ政策を断固としておしすすめ、平和と国際安全保障の事業を高くかかげていく決意を確認した。

ソ連とチェコスロバキアは、従来どおり、第二次世界大戦の結果を改訂し、ヨーロッパにおける現存の国境の不可侵性をおかそうとのぞんでいる軍国主義的、報復主義的ネオ・ナチ勢力にたいし断固とした反撃をくわえるであろう。

双方は、社会主義共同体の防衛力を強化し、防衛的なワルシャワ条約機構の有効性を高めるために社会主義諸国家間で、多角的、双務的におこなつたすべての誓約をたゆみなく遂行するであろうという決意をかきねて確認した。

討議は卒直で同志的で友好的な空気のもとでおこなわれた。

# ドゥプチェク第一書記

## の演説

八月二七日

親愛なる市民諸君、同志諸君、

一、諸君が待ちうけていたわたしと他の同志を包みこむ、諸君の限らない信頼の表現にたいして感謝の気持ちをあらわす言葉を探すのはわたしにはむずかしい。諸君の高い士気、慎重な方針、行動と、党および中央機関の最終的に選出された全活動家がそれぞれの任務に復帰するであろうという確信の断固とした表明は、たんなる空しい信念とはならなかった。われわれは諸君のあいだでふたたびそれぞれの仕事についている。われわれは諸君に感謝する。われわれは、わが共和国の中央機関である国民議会および政府の活動と国民戦線の活動を再開することができる。この活動は同時にわが人民の生命でもあるのだが、われわれの意志にのみよるのでない事態のなかを進むであろう。われわれはこの事実を、諸君が感じ、諸君全部がたしかに気付いているまことにその通りに、全時期をつうじてすみずみまで意識していた。わが共和国人民諸君の熱意の大きな功績はチェコスロバキア共産党中央委員会幹部部会、チェコスロバキア社会主義共和国大統領ルドビク

・スボダ同志および共和国政府のよびかけに留意したこと、その結果公然としたより大規模な衝突とより悲劇的な流血にいたらなかったことである。どうしてこれ以上の苦痛と損失をふせぐ必要がある。なぜならこのことによって現実の事態は少しも変らないであろうし、わが祖国の異常な状態はながくつづくであろうから。

二、われわれが流血の防止を決定したとしても、それは、われわれが、発生した事態をひたすら甘受しようとしているということを意味するものではない。逆である。

われわれは全力をつくしており、諸関係の最後の正常化に導くような政策を提示し、諸君とともにそれを実現するための余地、道および手段を見出すであろうことを確信している。わが国の党と国民戦線の代表者とソ連の代表者が到達し、昨日モスクワにおいて終了した会談の結果もまたこの確信においてわれわれを力づけるものである。ソビエトの代表者もまた、われわれの諸関係の正常化に助力を与えようとしている。これにちわれわれは、チェコスロバキアにおける現状の打開策を発見するという課題に直面している。

まず第一に、わが共和国の領土からの五ヶ国軍隊の段階的撤退についての了解がある。したがって表明された不信の念はこの点で十分根拠のあるものとはいえず、しかも有害である。この了解、この見解のなかにわれわれの今後の進路全体の基本的な前提がある。われわれは、軍隊が都市や地方から指定された地域へひとまず移動するという同意にたっした。これは当然、有能なわがチェコスロバキアの機関が各都市で秩序と正常な生活を保障するであろうことと関連している。

三、共和国政府はすでに今日、この点でわれわれ自身の機関が市民生活の規制のための措置を実施するよう付帯的措置を講じはじめた。したがって、わが国か

らの五ヶ国軍隊の移動と最終的には撤退を、いかなる手段であれ遅らせることはひじょうに筋の通らない、危険なことであるだろう。なぜなら、われわれの行動の最終目標は、これら軍隊の早期完全撤退を実現することだからである。モスクワでの協議にもついで政府はすでにこの点で実際の処置をとっている。今晚、軍隊は数ヶ所の地点から引揚げ、プラハのいくつかの地域、建物が解放された。この点でさらに諸君の措置がとられつつある。市民同志諸君、社会主義に反対する少数の人びとがめざしている緊張状態の先鋭化に関心を持つ勢力のいかなる挑発にも対抗するようわれわれに助力を与えてほしい。

四、まさにこの時期にわれわれは秩序を必要としている。わが市民、わがチェコスロバキア社会主義祖国の全住民がこれまで示してきたような自制と規律をわれわれは必要としている。つぎの時期には、われわれはこの自覚をさらに多く必要とするだろう。なぜなら問題はたくさんあり、これらはまた、われわれのやり方、われわれの仕事、また諸君らすべてがこのわれわれの仕事を支援してくれるであろうことにかかっているからである。わたしはまた、個人個人の行動や具体的行為が事実を知らないことから激情や群衆心理にもついで判断されるのを防ぐのは、ひとえに諸関係を正常化することであるという点に注意を喚起したい。

この複雑な時期に、激情と群衆心理に埋没することは許されない。このような状況のもとでわれわれが事態を收拾し、わが国における生活を規律あるものにするのは困難であろう。どうか、われわれがそうしたいと欲し、またこの点でわれわれに期待されているすべてをかならずやり遂げるであろうことを信じてもらいたい。諸関係の正常化は基本的、現実的前提であり、重大な誤りや本質的遅滞なしに、諸君がわれわれとともにかく信じた道を前進するように、われわれはふた

たびその努力を集中するであろう。そしてわたしは、諸君がこのことをたえず信じてくれていると思う。

五、しかしながらわれわれは現在複雑な条件のもとで働いていることを知っている。われわれはここ数日、チェコスロバキア共産党中央委員会一月総会以来、また臨時党大会の準備のなかでわれわれが定式化しようとしたように、わが国の社会主義を成功裏に発展させるという構想にめざされた支持と同様に、諸君の支持を確保していた。この支持がわれわれを強めれば強めるほどそれだけ、人道的社会主義の原理の明確な表現についてのわれわれ独自の努力を放棄しないということが、この複雑な時期にもわれわれを拘束している。わたしがこのことについて、まさにこの時期に語るということがいかに逆説的に思われようと、このようなわれわれの力に、われわれの人民に、われわれは信頼を持たなければならぬのである。なぜなら、統一と一糸乱れぬ前進、つまりわれわれの行動の統一のなかでのみ、われわれはわれわれのつぎの政策の成功を保障することができるからである。ほんの小さな誤りもできるかぎりなくしてこの政策の継続のための諸条件を作りだすという決定の末、われわれもまた自身の仕事にもどっている。これは容易なことではないだろうし、またそれ故にこそ全力をつくす必要があるだろう。現実はこのようであり、このことからわれわれは自身の仕事を出発させなければならない。

チェコスロバキア、ソ連その他の文献

六、若干の場合にみられた現状無視は、冒険と無政府状態にみちびきうるだけである。またこれは、われわれが目前にしている重要課題の実現にとって好ましくないものである。わが国におこった新事態が、われわれを新しい問題に直面させていることは諸君も知っている。ここにいくつかの新しい展望がある。われわれが必要としている第一のものは、できるかぎり早急な地固め、国内情勢の正常化である。これがひじょう

知恵と経験に頼り、意見を聞く必要があるという経験をふたたび確認した。

八、さきに進もう。諸君がどういう理想に味方しているのか、社会主義、ヒューマニズム、民族独立、わがチェコスロバキアの主権という思考から諸君がけつして逸脱しないことをわたしは知っている。諸君にわたしが話していること、わたしが生涯をかけて、人民のこの理想を実現するために働く以外には、ほかのこととはできないし、したくもないということを信じてほしい。こう考えてわたしは他の諸同志とともに過去数日間行動してきたし、これからも行動し、祖国につきすつもりである。探求し、解答すべき問題が山積している。先週中に新しい運命的な問題がどれほどおこったかは、諸君自身が一番よく知っている。秩序の回復や軍隊の撤退という問題から、われわれ一人ひとりの多くの生活問題の解決にいたるまで。これらすべてにたいする解答は実際によく考えぬかれ、またできるだけ早くなくてはならない。われわれは諸君とともに新しい情勢のもとでの前進をできるだけはやくおこなう、切迫した種々の問題を一つひとつ解決することに着手するつもりであることを明言して、いまここですべての共産主義者、わが党の党员および役員にたいして一言話すことをお許しねがいたい。

九、同志諸君、われわれはみな、基礎組織で活動しているものであれ、最高の職責にあるものであれ、全党がわれわれを信頼し、全人民がわれわれと党を信頼する時はじめてわれわれは強力である。われわれには現在のかつてない困難な条件のもとでも、人民のためになるすべてのことを、実際政治のなかで実現するというこの大きな責任がある。党にとって最大の不幸事があるとするれば、それは党の健全な中核、チェコスロバキア共産党の一月の政策にそった道をかちとってきた勢力が、今粉砕されており、党の健全な勢力内に不

信がもちこまれていたことである。これはとりもなおさず、こんちの複雑な情勢からわが人民を救い出すことができる唯一の勢力の崩壊を意味する。かかる時に国内にあって活動していた党員および役員諸君が、国外にあって行動していたわれわれを理解するよう希望する。かつてない特殊な状況のもとに生じたあらゆる問題についてできるだけ早く話し合おう。

地方および地区委員会、さらには基礎組織のすべての役員、第一回臨時党大会の代議員たちが、この特殊な状況下の数日間、党中央委員会第一書記がその権限であつた指示を党の活動のなかで全面的に尊重するよう要請する。

一〇、地区および地方さらにはこの中央委員会で働いているその他の同志たちとともに、すべての段階で仕事をしていくすべての共産主義者、またわが党の政策の今後の実現のために国内で活動した共産主義者たちをわが党の政策を実現する方向に統一する今後の方針をなせ協議しなければならぬかについて話しあおう。わたしが委任をうけ、全権を任されている民兵指揮官の機能を果たすことについては、わたしが責任を負っている。今後の数日間に、チェコスロバキア共産党中央委員会総会で、第一回党大会の代表と代議員の参加のもとに、あらゆる必要問題を解決しよう。われわれはわたしをはじめ他の同志たちが、党活動に参加できなかった時に活動していたこれらの党員や、党の指導的役員と徹底的に話し合わなければならぬ。卒直にいつて、われわれの政策はあくまでも堅持しなければならぬということ、高価な代償をはらってわれわれは教えられたのである。われわれはつねに、社会主義とは縁のない勢力や趨勢に、今の複雑な状況が利用されないように注意しなければならない。これからもチェコスロバキアのわれわれの社会主義政策をあくまでも貫こう。

## スボボダ大統領の演説

八月二七日

### 親愛なる市民諸君

モスクワにおける四日間にわたる会談のすえ、われわれはふたたび諸君のいるわが祖国に帰ってきた。われわれはドゥプチェク、チェルニーク、スムルコフスキー同志や他の同志たちと一緒に帰ってきた。これは諸君にとつても、われわれにとつてもなまやさしいものではなかった。

われわれは一瞬たりとも諸君のことを忘れたことはなく、諸君とともにあり、諸君がこの困難な日々をどのように過してきたかと考えていた。われわれはふたたび祖国で諸君に会うことができたのを心からうれしく思う。われわれは尊い人命、とりわけ若い生命が失われたというニュースを深い悲しみをもって聞いた。生命を失った人たちの肉親や友人たちに深く哀悼の意を表す。会談において諸君の声なき信頼の示威がわれわれを力づけた。われわれは諸君のそのような行為にたいして心から感謝する。われわれは諸君の信頼を裏切らなかつたと確信している。諸君のすべて、チェコスロバキア人、労働者、軍人が示してくれた配慮と高い規律がわれわれを助けたのである。

一一、親愛なる聴取者諸君、ときどきわたしの即興演説が中断したことをお許しねがいたい。それがなによつて起きたかは、おわかりのことと思う。

一二、過去数日間モスクワで会談していたわれわれ全員は、あなた方の思慮ある真の共産主義的活動にたいして深く感謝するものである。当時、状況の先鋭化を防止し、思慮とわが人民の正しい道義的、政治的団結を維持することは不可能であつた。同時にわたしはまた軍人諸君、国家保安部、民兵の諸君が、高いモラルをもつて、大きな紛争がおこらないように努力したことについて感謝する。たしかに、これからも大統領の命令にしたがつて行動しなければならぬ。すべての国民にたいし心から感謝の意を表明する。あなた方の信頼はわれわれ全員を結びつけるものとなり、その連帯感を生みわれわれは決して忘れず、われわれの行動において、いつも諸君にたいする責任を感じるであらうことを信じてほしい。

一三、われわれの活動はただ、チェコスロバキア人民とわが社会主義祖国に奉仕することである。これからの道ははげしく、おそらく行動綱領の実践の見地から今日までわれわれが想像してきたよりもはるかに困難で長いものであらう。今日の生活がどのようであれ、われわれはわが党の一月以降の政策の結論をどのように実現し、チェコスロバキア共産党綱領を新しく発生した情勢と条件下でどのように実現するかということは今後もよく考えなければならない。この綱領についてはわれわれはチェコスロバキア共産党中央委員会の一月総会、四月総会、さらには他の政策のなかで宣言したものである。それ以外の方法では今後それは不可能である。われわれはこの態度でぞんできたし、今日もそうであるし、将来もこの政策からはずれることがないであらう。新しく発生した状況によってわれわれは、われわれの根本的態度をこの見地からは

すぐる数日間に発生したわが国の事態は、時間がたつにつれて悲劇の結果がつるばかりであつた。わたしは軍人として、市民と近代的に武装された軍隊との紛争がどのような流血を呼びおこすかよく知っているし、むしろ諸君の大統領として、そのような事態がおきないように、つねに友好的に過してきた民族の血が無意味に流されないように、また同時にわが祖国と人民の本質的利益を確保するようにするのがわたしの義務であると考えたのである。わたしは、そのことによつて、長いこと放置されてきた患部がこの数日間のできごとによつて再発したという現実をかくそうとは思わない。

しかしわれわれは、共通の道によつて運命的に結びつけられている諸国間の信頼の回復と協力の強化に真の利害をもっている。今日の世界におけるわが国の地位は社会主義共同体のなかにいる以外にない。すでにわたしは前の演説で強調したように、わたしは共和国政府との合意のもとにモスクワ会談にかけた。モスクワでの会談によつて、わが社会主義国家と社会の組織および他の合法機関、それからそれらの指導的代表的者の行動のすみやかな正常化をもつて複雑な状況の解決への出発点と考えたのである。

すでにわたしがモスクワから伝えたように、また諸君自身が確信しているように、わたしは、自己の職務をすぐにも果たすことのできるこれらすべての同志たちとともに帰ってきたのであるが、かれらはその職務に民主的につかせられたのであり、諸君は自己の全幅の信頼をもつてかれらをサポートしたのである。これが第一のことであるが、われわれにとつて重要なことは祖国における生活の正常化への道である。

またソ連軍と他の社会主義諸国の軍隊がわが共和国から撤退することも明らかにこれに関連している。われわれは完全な撤兵の段階的実現について基本的な意

ずれないようにするであらう。われわれは、われわれのかかる政策の実現がこの状況のもとで可能であるという希望をもつて生活し、それぞれの努力によつて生活すべきである。

一四、われわれは今日の世界でそれに所属し、離脱することのできない社会主義諸国民の共同体のなかにある。だからわが民族、わが国民は、他の社会主義諸国の人民との共同体に属しているのである。いままでもおこつたことや、わが民族と他の社会主義国民との関係は、われわれが生きてきたことにかかわらず、この現実と一致するように修正されなければならない。それ以外にわたしはいうことができない。だからこそわが国民、チェコ人とスロバキア人は、国際主義的感覚をもつたひょうに人道的な民族なのである。だから他の社会主義諸国民や、ソ連その他の諸国の国民や労働者にたいする関係が国際主義的なのである。それをわれわれが放棄することができないのは、われわれは今日も明日も、この方向にむかつて進み、これら諸国民とこんども交り、わが民族と他の民族は、社会主義的な民族であるという現実にあらうように関係を調整しなければならぬからである。どうか挑発をしないようにしてほしい。秩序のなかに狂気をもたらさないでほしい。

この困難な時にわれわれに残されたものは、今後の活動のなかで実際に確保すべき力や理性をすべて集約することだけである。理性と認識にたつて行動する民族は滅びないであらう。

親切なるチェコスロバキアの市民諸君、共産党員、国民戦線の他の政党の党員諸君、労働者、農民諸君、知識人、国民諸君、どうか、団結して、冷静に、よくに思慮深くあつてほしい。こうすること、社会主義を信じ、名譽とわれわれの努力と特性によつてのみ、未来への道が保障されることを理解してほしい。

見の一致に到達した。そのときまでは政治的現実によつてそれらの軍隊は駐留する。いままでも諸君が示してくれた配慮と規律は、これらの諸問題を完全に解決するための前提条件である。わたしはこれを大統領として、愛国者として、軍人として全面的に責任をもつて諸君に言うのである。

### 親愛なる友人諸君

過去数日間、諸君は社会主義の利益への信頼と正当性の表明によつて、われわれの国家の行政上の指導者とチェコスロバキア共産党の指導的活動家を勇気づけた。これは偉大なる資本であり、偉大なる力であり、われわれはそれをよりどころに、わが祖国の今後の完全な社会主義的發展の保障について努力するつもりである。チェコスロバキア共産党の一月、四月、五月の中央委員会総会の思想のもとにわれわれは、今後とも、社会主義的社会秩序を發展させ、チェコスロバキア共産党行動綱領と政府の綱領的宣言に示された人道的、民主的性格を強化するつもりである。さらにわれわれは、全国国民戦線とともに、わが国を働らく人びとの真の祖国として建設するつもりである。

われわれはこの計画から一歩たりとも踏みはずさない。もちろん、この目的を社会主義の利益に反する者どもに悪用されないようにしよう。

そのために、現在われわれは、みんなが断固として目的を明確にして、自己の労働を組織しなければならぬ。

### 親愛なる市民諸君、労働者、農民、知識人諸君。

#### 親愛なる若き友人諸君！

この困難な時期にあつたつて、諸君に団結をよびかける。そして今後とも、聡明さと思慮を示すことをおねがひする。すべての社会主義的、愛国的創造力をわがチェコスロバキア社会主義共和国人民の幸福のための活動に結集しよう。

# 国際主義への忠誠

八月二十九日『プラウダ』

全世界は、チェコスロバキアの政治情勢の発展をじつと見まもっている。その社会主義的獲得物をまもる兄弟のチェコスロバキア国民を援助するために、ソ連その他の社会主義諸国は、時宜をえた、根拠のある措置をとったが、この措置は、国際共産主義運動、労働運動のなかでも、全世界の進歩的世論のあいだでも、ますますひろく理解され、支持され、歓迎されつつある。社会主義諸国の味方は、この措置こそ、社会主義の立場、平和、諸国民の安全を強化しようとのぞむ真の配慮のあらわれだともみている。これに反して、敵どもは、チェコスロバキア社会主義共和国に資本主義を復活させ、同共和国を社会主義共同体から分離せよという例の帝国主義的冒険が、壊滅的な反撃をうけるとともに暴露されてしまったので、激怒し、かつ狂乱しつつある。

帝国主義反動の支持をうけているチェコスロバキア国内の反革命勢力へのあらたな打撃は、スボボダ大統領

するために進駐したのである。チェコスロバキアの複雑な現状のもとで、ソ連軍将兵とその他の同盟軍の戦友たちは、その愛国主義的、国際主義的責務をりっぱに、忠実にはたしている。かれらの堅忍不拔ぶりは、チェコスロバキア人民軍の誠実な軍務遂行とあいまって、流血の惨事をまねくような衝突の回避を可能にした。ソ連軍その他の兄弟諸国軍の将兵は、チェコスロバキア社会主義共和国の内政に干渉しなかつたし、これからも干渉することはない。かれらは、チェコスロバキアの国内情勢が正常化するにつれて帰国するだろう。

モスクワ会談の席上、ソ連側は、チェコスロバキア共産党および共和国指導部の立場を理解し、かつ支持するむねを声明した。党および共和国指導部は、チェコスロバキア共産党中央委員会一月、五月両総会で採択された諸決定から出発して、社会指導の方法を改善し、社会主義的民主主義を発展させ、マルクス・レーニン主義にもとづいて社会主義体制を強化していく意向である。周知のように、一月総会は、過去におかした誤りを是正する端緒となり、発展した社会主義社会建設の方針を確認した。五月総会では、右翼勢力、反社会主義勢力の行動が、チェコスロバキア社会主義発展をおびやかす主要な危険であると強調された。

モスクワ会談の席上、チェコスロバキアの国内情勢を一刻もはやく正常化する措置について合意が成立した。チェコスロバキア側は、あらゆる工作面での党機関、国家機関の活動全体が、社会主義の権力や、労働者階級と共産党の指導的役割や、ソ連および全社会主義共同体の諸国民との友好関係の発展強化などに役立つ有効な措置を確保することに、むけられていくだろうと声明した。

を長とするチェコスロバキア代表団とソ連共産党および政府指導者たちとの話合いの結果であり、またチェコスロバキアの国内情勢に関連する諸問題についてのブルガリア、ハンガリー、ドイツ民主共和国、ポーランド、ソ連五カ国の党・政府代表団の会談や協議の結果でもある。これらの会談や話合いは、社会主義諸国は国際情勢の複雑な諸問題、それぞれの相互関係の諸問題をマルクス・レーニン主義、プロレタリア国際主義の原則にもとづいて解決する、というもうひとつの証拠である。合意の核心は、統一戦線によって社会主義をまもることにある。

きのう発表されたソ連チェコスロバキア共同コミュニケは、大きな政治的意義をもつ文書である。率直さ、同志愛、友情という空気のなかでおこなわれたソ連チェコスロバキア会談のあいだ、率直で同志的な討議をつうじて、現在の国際情勢の発展、社会主義諸国にたいする帝国主義陰謀の活発化、最近のチェコスロバキアにおける情勢、社会主義五カ国軍のチェコスロバキア領内への一時的進駐などに関連する諸問題が審議された。

コミュニケはこうのべている。「双方は、現情勢における主要なことがらに、チエリナで採択された相互の決定とプラチスラバ会議で達成された決定と原則を実行することであり、同時に、これらの会談で到達した協定にもとづく実際の措置を一貫して実施することであるという確固とした信念を相互に表明した」。

共産党・労働者階級は、プラチスラバ声明のなかで、それぞれの国民の英雄的努力と献身的労働によって勝ちとった社会主義的獲得物を、協力して支持し、強固にし、発展させる義務をひきうけた。そうすることは、社会主義諸国の共同の国際主義的責務である。こ

われわれのチェコスロバキアの兄弟たちは、これらの複雑で責任ある課題をはたしていくうえで、ソ連共産党と全ソ連国民の全面的な支持があたえられることを確信してよろしい。ソ連の指導者たちは、社会主義チェコスロバキア諸民族との友好関係、兄弟関係をねがうソ連諸民族の一致した熱意を表明するとともに、相互尊重、平等、領土保全、独立、社会主義的連帯を基礎として、きわめて広範かつ誠実な協力をおこなう用意があるむねを確認した。

帝国主義反動にあやつられるチェコスロバキア国内の反革命勢力は、あいかわらず国内情勢を悪化させ、ソ連チェコスロバキア会談で成立した協定にけちをつけ、その実施を妨害しようとかかっている。そうすることが、チェコスロバキア人民の利益、チェコスロバキアにおける社会主義の利益にも、また社会主義共同体の団結の利益にも一致せず、もっぱら帝国主義者——社会主義の最大の敵——の利益に一致するものだということは、だれの目にも明らかだろう。そういう反動的宣伝や敵対的活動をやる連中が、ソ連チェコスロバキア友好の支持者ではなく、その反対者であり、帝国主義の先手——だ——ということは、だれの目にも明らかだろう。

チェコスロバキアにおける反革命とのかたがちは、住民のまどわされた一部が反動的宣伝の影響から急速にぬけだせばぬけだすほど、それだけ成功のおこなわれるだろう。ソ連国民は、すなわちチェコスロバキアの勤労者の忠実かつ信頼できる味方は、チェコスロバキア国民がその共産党の指導のもとに、チェコスロバキア反革命の破壊活動と帝国主義の侵略的陰謀によってつくりだされた困難をすべて克服し、かれらがその悪事をなしとげることゆるさず、社会主義世界共

の崇高な原則にみちびかれ、現行条約の義務にしたがって、ソ連その他の社会主義諸国は、その社会主義的獲得物を国内、国際反動の侵害からまもる労働者階級、兄弟国民全体に必要な支援をあたえるために、それぞれ自国の軍隊をチェコスロバキアへ派遣した。

帝国主義者の激励と支持をうけているチェコスロバキア国内の反革命勢力は、共産党と、労働者階級に狂暴な攻撃をくわえ、権力を奪取してチェコスロバキアにブルジョア制度を復活させる準備を、公然と、臆面もなくすすめた。チェコスロバキア社会主義国家をおびやかす重大な脅威だけでなく、社会主義共同体の他の国々におびやかす危険も生じたのである。内外の反動勢力とたたかうチェコスロバキア国民に援助をあたえた結果、情勢は一変した。軍隊の進駐により、反革命はその陰險な計画を露呈せざるをえなかった。反革命は、そのあからさまな行動によって、チェコスロバキア国民と世界世論のまえに自分の正体をさらけ出した。ソ連その他の社会主義諸国の国際主義的措置は、帝国主義勢力とその手先の陰謀に打撃をくわえ、チェコスロバキアの労働者階級、その共産党が、国内情勢を正常化し、すべての愛国勢力を結集し、反革命分子を決定的に撃退し、こんども確信にみちて社会主義建設の道を前進していけるようにする確実な条件をつくりだした。

ソ連および同盟諸国の軍隊は、チェコスロバキア国民の敵どもが中傷的にそう見せかけようとしているのとはちがって、占領軍として、なにか利己的な理由から、チェコスロバキアに進駐したのではなくて、階級の兄弟として、チェコスロバキアの共産党員、労働者、農民、誠実な知識人の信頼できる友人として、勤労者が社会主義をまもりぬき、うちかためるのを援助

同体の不可分の一環としてのチェコスロバキアの国内的、国際的立場をいっそう強化するにちがいない、との確信を表明する。

ソ連とチェコスロバキアは、これまでどおり、第二次世界大戦の結果を變更し、ヨーロッパの現存国境の不可侵をおかそうと野望する軍国主義的、報復主義的、ネオ・ナチ的勢力に決定的な反撃をくわねるだろう。社会主義諸国のあいだにむすばれた多国間および二国間条約によってひきうけた義務をすべて遅滞なく履行し、社会主義共同体の防衛力を強化し、防衛的なワルシャワ条約の効果をたかめる決意が再確認された。

わが国民は、現実の情勢を根本的に考慮し、社会主義諸国の負うべき責任を十分に自覚するソ連共産党、ソ連政府の賢明で、原則的で、柔軟な政策を全面的に支持している。この政策は、ソ連国民の切実な利益にも、全社会主義共同体の利益にも、そっくり一致する。この政策は、兄弟の社会主義諸国とともにチェコスロバキア社会主義、平和、諸国民の安全を防衛するための措置をとることに、一貫して反映された。

ソ連共産党中央委員会四月、七月両総会の諸決定で強調されたように、わが党は今後も、帝国主義に決定的な反撃をくわえ、世界戦争を未然にふせぐ政策、社会主義諸国の共同体を強固にし、共産主義運動、すべての反帝勢力の団結をかためていく政策をとるだろう。

いまソ連国民は、みずからの共産党、その中央委員会を中心とするきなく団結し、マルクス・レーニン主義の思想をあくまでも忠実にまもり、自己の国際主義的責務を根本的に自覚していることを、かさねて力づくよく確証しつつある。



# 用各国の党の見解

## アメリカ共産党ガス・ ホール書記長の声明

一九六八年八月二日

五つの社会主義国の軍隊のチェコスロバキア領への進入は、社会主義の未来と社会主義世界の団結に重大な影響をあたえる行動である。事態が、軍事行動が必要とされるほどにまでなつたのは遺憾である。軍事的解決はいかなる問題にとつてもけつして最善の解決策ではない。

わが党の指導諸機関はまだこれら諸事件を完全に研究する機会にめぐまれていない。しかし、われわれはこの瞬間に沈黙していることはできない。だからわたしは、つぎのようなわたし自身の予備的な声明を発表する。

チェコスロバキアにおける中心問題は、反革命の脅威にたいする社会主義の防衛である。かんじんの民主改革の過程において、アメリカおよび西ドイツ帝国主義の破壊勢力に支持される反社会主義分子が台頭したのは、あきらかなことに思われる。同時に、チェコス

ロバキア共産党指導部内部の分裂と弱点が原因となつて、反社会主義者による政權奪取の危険をいちじるしく増大させる麻痺状態が進行した。

そのとられた行動にかわる他のなんらかの方法があつたのかどうかを明確にするのに必要なすべての事実を、われわれはまだ入手していない。しかし、世界の帝国主義の中心に存在している党という好都合な立場からみて、社会主義世界全体が、チェコスロバキアにおける帝国主義の破壊力や反社会主義的政權奪取の危険を過小評価するのはもつとも重大な誤りであろうと、われわれには思われる。

われわれは社会主義の擁護に賛成する。われわれは社会主義の前進と調和した民主的機構の発展に賛成する。われわれは自由と賛成である。しかしわれわれは社会主義を危うくする者の自由には賛成しない。

帝国主義は支配のための闘争をけつしてあきらめなない。帝国主義は、直接的軍事的対決の準備のとのつていないところではどこでも、自分の掌のうちのあらゆる手段によつて、後日の軍事干渉の地ならしをするために、攻撃対象の諸国に浸透し、土台をくずし、弱める策動をする。

以上が基本的前提のいくつかであり、われわれはそれにもとづいて、すでに知られた事実とすべての出来事とを判断しなければならぬ。

【デイリー・ワールド】八月二日

## イギリス共産党の声明

(要旨)

一九六八年八月二日

イギリス共産党は、八月二日、つぎのような声明を発表した。

「わたしたちは、これまでの声明で、各国共産党間の相違は、相互信頼にもとづき、社会主義諸国については、その主権を尊重して討議によつて解決されるべきであるとほつきりのべてきた。

「チェコスロバキアにおける推移について、社会主義諸国の間で、どのような見解の相違があつたとしても、わたしたちの意見では、軍事介入は、まったく不当である」。

「わたしたちは、社会主義を守り、帝国主義に反撃する手段は、社会主義諸国と共産党との間で、各党と各国政府の国民主権と自主性にもとづいて、自発的な相互協力を確立することであると考える」。

「わたしたちは、チェコスロバキアからの五カ国軍隊の即時撤退についての協定ができることを期待する」。

【ユマニテ】八月二日

## イタリア共産党政治局 コミュニケ (要旨)

一九六八年八月二日

イタリア共産党政治局は、八月二日、「チェコスロバキアへのソ連その他ワルシャワ条約加盟国の介入によつて予想されない形で生じた重大情勢」についてコミュニケを発表した。

「チエルナとブラチスラバの会談と協定は、イタリア共産党の指導者によつてひじょうな満足をもつて歓迎されたが、これは、チェコスロバキアに生じ、この国と他の社会主義諸国との間に生じた諸問題に政治的解決を見出すという必要に完全にそむくものであつた。これは、各党と各国の自主性を尊重し、社会主義的民主主義の発展にもとづき、国際労働運動の強化のために実現されるべき解決策であつた」。

「現状のもとでは、軍事介入という重大な決定をどうしてとりえたか理解できない。イタリア共産党政治局は、したがつて、このような措置を不当であり、あらゆる共産党と社会主義諸国の自主独立の原則と両立しないものと考えられる」。

「プロレタリア国際主義の断固たる精神をもつて、またイタリア共産党員とソ連およびソ連共産党とを團結させている兄弟的結びつきを再確認しつつ、イタリア共産党政治局は、党の指導部に、情勢をいっそう深

## イタリア共産党指導部の のアピール (要旨)

一九六八年八月二三日

イタリア共産党指導部は、二三日に会議をひらき、チェコスロバキアに介入した五カ国の政府と共産党にアピールを発し、チェコスロバキア政府と共産党の要求にもとづいて、その軍隊の撤退にとりかかることを受諾するようよびかけた。

会議のあとで発表されたコミュニケのなかで、イタリア共産党指導部は、「チェコスロバキアの党および政府の民主的に選出された合法機関」が、アレクサンデル・ドゥプチェクの指導のもとにその活動を再開できるようにすることが不可欠であるとみなした。

「チェコスロバキアにおいて、政治的解決を急速におこない、情勢の急激な悪化をさげ、国際共産主義運動内のより重大な分裂をさけるようにするのは、これあるのみである。いかなる場合でも、イタリア共産党は、各国家の独立の侵害を認めることはできない」。

【ユマニテ】八月二四日

## オーストラリア共産党 全国指導部のアピール

一九六八年八月二日

八月二日夕ひらかれたオーストラリア共産党全国指導部の特別会議は、満場一致でつぎのことを採択した。

オーストラリア共産党全国指導部は、社会主義国数カ国軍隊のチェコスロバキア占領につよく抗議する。われわれは、これを民族自決および社会主義国間、共産党間の関係の社会主義的原則のあきらかな蹂躪と考える。

軍事介入はブラチスラバ会議のわずか一八日後におこつた。同会議が採択した声明は、つぎのようになっているのである。「会議参加者は、主権と民族独立の尊重、領土保全、兄弟的相互援助と連帯の原則を基礎に、各国の全面的協力を強めるために全力をあげるべきことを決意を表明した」。

それはまた、党の方針を審議し、その諸決議の実行にあたる指導部を選出するためのチェコスロバキア共産党大会の開催のわずか一九日前におこつた。さらに、この大会は党内外での全国的な討論によつて準備されており、そのなかで、社会主義と共産党の方針がひろく民衆の支持を得ていたのである。

われわれは、占領軍の撤退、ブラチスラバ協定の尊

重、チェコスロバキアの政府と党の選出された指導部の承認およびこれらの自由と生命の尊重を要求する。われわれの見解では、ソ連および他の社会主義国の行為は、これら諸国の国際的地位と全世界の社会主義の事業をそこない、これら諸国の平和、民族独立のための行動、とりわけベトナム人民の闘争への支援のための行動の功績をきつづけるものである。

われわれは、われわれの社会主義的諸原則にもついでこのことを声明するものである。これは、ベトナムで侵略と大量虐殺の重罪をおかしながら、今、民族自決権の擁護者としてのポーズをとろうとしているゴートン政府、その指導者アメリカその他の偽善的な企図とは正反対である。

しかし、オーストラリア共産党は、明確で一貫した立場をとっている。五月に、オーストラリア共産党全国指導部は、チェコスロバキア共産党の行動綱領と民主化の諸政策を支持した。七月二四日に、オーストラリア共産党指導部は、当時、チェコスロバキア共産党と、ソ連、ポーランド、ハンガリー、ブルガリア、ドイツ民主共和国の共産党との間に存在していた深刻な不一致についての声明をだした。

オーストラリア共産党全国指導部は、その時すべての社会主義国の安全保障をめざしありうる反革命のころみに反対しているこれら諸党の懸念についての理解と同時に、チェコスロバキア共産党の綱領と諸方針をひきつづき支持する旨をはっきりと声明した。

共産主義運動の国際的に承認された諸原則になつてオーストラリア共産党の立場は、つぎの言葉に示されている。すなわち、「まさにチェコスロバキア労働者階級と人民がひとり民族的、国家的政策を決定しようとすると同時に、ひとりチェコスロバキア共産党員だけがわれらの党の政策を決定することができる。外部から政策をおしつける試みがあつてはならない。これは、八一

カ国共産党・労働者党の一九六〇年の会議で明確に再確認された、マルクス・レーニン主義の原則である。

「チェコスロバキア共産党は、おおいに自制しなければならぬ。外部からの圧力は言うまでもなく、外部からの圧力にみえるようなことをも避ける必要がある。」

全国指導部の見解についての声明全文は、ただちにソ連およびチェコスロバキア両共産党に伝えられた。今月おこなわれたチエルナ、ブラチスラバ両会議のあと、事態は安定したように見え、オーストラリア共産党は、両会議が到達した協定を歓迎した。以来、チェコスロバキアの事態の重大な悪化をしめす何らの重要な報道はなかった。

われわれの見解では、重大な責任は、チェコスロバキアに力を入れて決定、社会主義の全事業に言語に絶する損害をもたらす決定を主張したものである。

以上から、われわれはつぎのことを決定する。

——八月二四日土曜日、全国委員会を招集する。

——われわれの見解をただちにひろく知らせる。

——われわれの見解をオーストラリア駐在のソ連政府、ポーランド、ハンガリー、ブルガリア、チェコスロバキア諸政府代表につたえ、われわれの見解をこれら諸国共産党につたえるよう要請する。

——他の共産諸党と協議し、各党の見解をたしかめ、さらに、当該共産党への代表派遣を考慮する。

すでに、オーストラリア共産党議長R・ディクソン氏、副議長の一人J・センディ氏が、明日(木曜日)党代表団をひきいてキャンベラのソ連大使館にむかうこと、週刊紙「トリビューン」特別号が金曜日に発行されること、日曜午後三時からのシドニー公会堂での大衆集会開催が計画されていることが発表されている。

〔トリビューン〕八月二八日)

## フィデル・カストロ首 相の発言(要旨)

一九六八年八月

〔ハバナ、八月二四日、タス電〕  
「ブレンサ・ラティナ」通信の報道によると、キューバ共産党第一書記、革命政府首相フィデル・カストロは、ラジオ、テレビをつうじて、チェコスロバキアの事態に関連してつぎのように語った。

われわれは、チェコスロバキア社会体制が大きな変化を帯びておることを疑わないと、カストロは強調した。チェコスロバキアは、反革命にむかって、資本主義にむかって、帝国主義のふところにむかつてすんで来た。だから、われわれは、あらゆる手段でこれを防ぐことが絶対に必要であつたし、社会主義陣営はそうする十分な権利をもっていると考えられる。

チェコスロバキアには、ブルジョア報道の自由の好条件がつくられた。つまり、反革命分子と搾取者には社会主義に反対して自由に活動し、書きだせる機会があたえられた。チェコスロバキアでは、社会主義社会で党が指導的役割をはたすことに反対する反マルクス主義的、反レーニン主義的見解が公然と宣伝された。自由化にかくれて、反対党の結成を奨励する政策がおしすすめられた。

キューバ首相は、その声明のなかで、チェコスロバキアの事態の発展で帝国主義のはたした役割について

つぎのように指摘した。

ワシントンでは社会主義にたいする不満と敵意をあおらたためたにわゆる自由化傾向を支持している。チェコスロバキアに軍隊を送った諸国が発表した諸声明および諸説明は、アメリカ帝国主義にたいするいかなる直接的非難もふくんでいない。ユーゴスラビア共産主義者同盟はチェコスロバキアにおけるマルクス主義からの離脱の主要な鼓吹者、擁護者、促進者である、とカストロはのべた。

編注——なお、フランス共産党機関紙「ユマニテ」八月二六日付はカストロの発言をつぎのように報道しています。

「われわれはソ連軍その他のワルシャワ条約軍のチェコスロバキアへの介入がおこなわれたことは必要なことであつたと考える。フィデル・カストロはこのべたあと、つぎのようにつけ加えた。「しかし、これはこの国(チェコスロバキア)の主権の明白な侵犯にかかわっている。いちじくの葉を用いてもむだである。」

またフィデル・カストロはキューバ共産党中央委員会の名でつぎのようにのべている。「チェコスロバキアの体制が危険なかたちで「社会」制度の本質的变化をこぼつてあり、冷戦な事実として帝国主義へ歩み寄っていることはうたがいない。」

## ルーマニア建国記念日の レセプションでの周恩来 演説

一九六八年八月二三日

尊敬するドゥマ大使

同志のみなさん、友人のみなさん。

きょうはルーマニア人民がファシストのくびきから解放を勝ちとった二四周年にあたります。わたしは中国人人民と中国政府を代表し、ルーマニア人民とルーマニア政府に心からの祝いを表明します!

二四年前、ルーマニア共産党は人民を指導して武装蜂起をおこない、アントネスク反動政権をくつがえし、ルーマニアの歴史に新しい一ページを開きました。二四年来、ルーマニア人民とその指導者は、自国の資源を利用し、自力更生によって、祖国を建設する事業で大きな成果を勝ちとってきました。われわれはルーマニア人民がみずからの祖国を守り、建設するたにかいのなかで、勤勉で勇敢な精神を発揮し、新しい勝利をかちとることを祝福するものであります。

同志のみなさん、友人のみなさん! 最近ソ連修正主義指導部とその追随者は、突然大量の軍隊を出動させて、チェコスロバキアに奇襲攻撃をかけ、チェコスロバキア修正主義指導部が人民にたいして抵抗しないように公然と呼びかける状況のもとで、急速にチェコスロバキアを占領し、チェコスロバキア人民にたいして許すべからざる罪を犯しました。

これはソ連修正主義裏切者、労働者の敵一味が、そのいわゆる同盟国にたいしておこなった、ファシシヨ的強権政治のもつとも露骨な、もつとも典型的なあらわれであります。これはソ連現代修正主義の全面的破産を示すものです。

中国政府と中国人民は、ソ連修正主義指導部とその追随者がチェコスロバキアを武力占領した侵略的犯罪行為を強く非難するとともに、チェコスロバキア人民の、ソ連軍の占領に反抗する勇敢な闘争を断固として支持します。

ソ連修正主義指導部を中心とする現代修正主義の内部分では、これまで長い間矛盾がつみ重なり、危機があらちこちに潜在的に存在していました。ソ連修正主義指導部が今度あえてチェコスロバキアを侵入しこれを占領したのは、チェコスロバキア修正主義指導部が直接

アメリカ帝国主義をかしらとする西側諸国のふところに身を投げるのを防ぐためであり、そのような情勢の発展が収拾できない連鎖反応を生むのを防ぐためです。これはソ連修正主義指導部が大國シヨールニズムと民族的利己主義をおしすすめていることの必然的な結果であり、ソ連修正主義裏切者一味が長い期間にわたってフルシチョフ修正主義を実行してきたことの必然的な結果であります。

ソ連修正主義指導部はこれらのいわゆる「マルクス・レーニン主義」、「国際主義」なるいちじくの葉をいっさい投げ捨てて、公然と直接的武力侵略と干渉に訴え、鉄砲によってかいらいをつくりだしました。これは往年のヒトラーのチェコスロバキア侵略や、今日のアメリカ帝国主義のベトナム侵略とついでです。ソ連修正主義裏切者一味は、すでに社会帝国主義と社会ファシストになり下がっています。

ソ連修正主義指導部は、米ソ協力によって世界を支配するという反革命政策を、一貫しておこなっています。以前のことはさておくとして、グラスボロ会議以後だけをとり、アメリカ帝国主義とソ連修正主義はベトナム、中東、および核拡散防止などの重要問題で、一連のきかない取り引きをやってきました。このチェコスロバキアの事件も例外ではありません。この事件は、アメリカ帝国主義とソ連修正主義の東ヨーロッパの争奪と勢力範囲分割の矛盾が先鋭化した結果であり、同時にまた米ソが結託して世界の再分割をはかっていることがひき起した結果であります。ソ連修正主義の侵略は、アメリカ帝国主義の暗黙の承認のもとにおこなわれたものであります。アメリカ帝国主義がソ連修正主義のチェコスロバキア侵略に暗黙の承認をあたえている以上、ソ連修正主義はどうしてアメリカ帝国主義の南ベトナム占領に反対できません。ソ連修正主義は事実上とついでにアメリカ帝国主義のベトナム侵略、世界侵略の第一の共犯者になっています。一つの大国がこのように意のままに一つの小国を支配することがまかり通っていますが、このことは

アメリカ帝国主義とソ連修正主義に幻想をいだいて  
る人びとにとつて、きわめて深刻な教訓であります。

ソ連修正主義の武力侵略は、チェコスロバキア人民  
に災いをもたらしたと同時に、チェコスロバキア人民  
を教育し、かれらが修正主義こそこんどの災いの根源  
であることをしだいに認識させています。このことは  
ソ連人民、東ヨーロッパ各国の人民と、全世界の人民  
にとつてもまた、きわめてよい教育になります。われ  
われの偉大な指導者毛主席は、すでに以前からつぎの  
ように指摘しています。「一部の人が、ある期間認識  
がはつきりしないことも、だまされることも、いくつ  
かの誤りを犯すこともありうる。しかし、かれらが革  
命をしたいと望むかぎり、かれらが事実の真相を知り、  
修正主義の正体を認識したならば、革命の実践の過程  
で、最後にはかならず修正主義と決裂し、マルクス・  
レーニン主義の側に立つようになるものである」。わ  
れわれは、光栄ある革命的伝統をもつチェコスロバキ  
ア人民がソ連修正主義の軍事占領にけつして屈服する  
ことはありえない、かならずひきつづき立ち上つて、  
ソ連修正主義指導部と自国の修正主義指導部に反対す  
る革命闘争を最後までおこなうであろうことを信じる  
とともに、ソ連修正主義指導部とその追隨者の横暴な  
行為が、かれら自身の徹底的な失脚をはやめるだけ  
であり、現代修正主義一味全体の徹底的な崩壊をはや  
めるだけである、と確信しています。

同志のみなさん！友人のみなさん！ルーマニア  
は現在外部からの干渉と侵略の危険にさらされていま  
す。いまルーマニア政府は、人民を動員して、みずか  
らの独立と主権を守るためにたたかいつつあります。  
プロレタリア文化大革命のなかでたたかえられ、いっ  
そう強固になった中国人民は、あなた方を支持します。  
真に人民に依拠し、長期にわたつて闘争を堅持してい  
くならば、いかなる外部からの干渉と侵略も撃破され  
るのであろうし、またかならず撃破することができる、  
とわれわれは確信しています。  
アメリカ帝国主義はかならず敗北する！

作家同盟の機関紙として二つの新聞をふたたび発行す  
ることが許された。

一九六八年二月二八日、プラハで記者座談会がおこ  
なわれたが、ここでは一九六六年の国民議会で採択さ  
れた出版法が誤つたものであると攻撃され、これを修  
正する要求がだされた。

一九六八年二月二九日付「プラハツェ」紙は反ファ  
シスト同盟委員長との記者会見の内容をのせたが、そ  
こでかれは以前に処分された反革命分子にたいする  
いわゆる「名誉回復」をいっそう積極的に進めることを  
要求しながら、「名誉回復」さるべきものはまだ四  
五万人も残っていると主張した。

一九六八年三月五日、チェコスロバキア共産党中央  
委員会幹部会が出版法を改定することを決定し、文化  
省と作家同盟が協力してその案を作成し提示するよう  
にさせた。党と政府が過去にとつた措置にたいする非  
難攻撃が流行するようになった。

一九六八年三月七日付「ルデー・プラハ」による  
と、プラハ市の大学の党委員会は一九六七年一〇月に  
おこなつた一部のプラハ大学生の反政府デモにたいし  
てとつた内務機関の措置が不当であるとして、その公  
然たる是正を要求した。

これにたいして、チェコスロバキア政府は、当時大  
学生のデモを押しとめた七人の内務機関員を処罰し、  
デモで負傷した一四名の学生には損害賠償までおこな  
う措置をとつた。

これと時を同じくして、プラハの映画館では当時の  
大学生のデモを正当なものにみせかけ、デモ隊にたい  
する内務機関の措置を「分別のない暴行」にみせかけ  
る記録映画をいっせいに上映しはじめた。

こうした措置にいっそう励まされた三〇〇〇名以上  
のプラハの大学生は、一九六八年三月一〇日、ブルジ  
ョア共和国初期の初代大統領である反動分子マサリク

ソ連修正主義はかならず敗北する！  
人民はかならず勝利する！  
中国、ルーマニア両国人民の友好万歳！  
（人民日報）八月二四日

## 最近のチェコスロバキアの事態について

一九六八年八月二二日  
朝鮮中央通信

最近チェコスロバキアでは複雑で重大な事態がうま  
れている。  
今年に入つてチェコスロバキアでは、共産党中央委  
員会総会および中央委員会幹部会、チェコスロバキア  
国民議会などがつづげさまに開かれた。

これらの会議では「高度に発達した民主的な社会主  
義社会」を創設するという問題が提起され、新しい  
「民主化」路線が採択された。

一九六八年一月三日から五日にかけて、チェコスロ  
バキア共産党中央委員会一月総会がひらかれた。

チェテカ通信が伝えた一月総会の公報によると、総  
会は「……すでに始まつた民主化過程に應じて活動体  
系を改革」するといひながら、アントニン・ノボトニ  
ーを「本人の要請によつて」第一書記から解任し、ア  
レクサンドル・ドゥプチェクをチェコスロバキア共産  
党中央委員会第一書記に選んだ。

一月総会ののち、チェコスロバキア共産党中央委員  
会機関紙「ルデー・プラハ」は一月一〇日付論説で  
一月総会の活動を評価しながら、「チェコ社会では階  
級闘争はすでに典型的なものでない」といひ、党が国

の息子で、解放後外相を勤めながら反革命分子として  
振舞つたヤン・マサリクの墓に花輪をおくり、追悼式  
をおこない、「かれのような人が国を支配しなければ  
ならない」と騒いだ。

三月はじめ、雑誌「ストゥデント」第一〇号は社説  
で「青年同盟が大学生全体を代表することは不法」で  
あるとのべ、党中央委員会青年指導部を解体すること  
を要求した。

三月二二日、チェテカ通信は、チェコスロバキア共  
産党中央委員会幹部会がアントニン・ノボトニー大統  
領に辞任を勧告し、同じ日チェコスロバキア国民議会  
幹部会がアントニン・ノボトニーの辞任を受け入れた  
と発表した。

チェコスロバキアでは日があつたにつれ、社会主義制  
度を誹謗、中傷し、社会主義・共産主義建設における  
指導的勢力ですべての勝利の組織者である共産党をけ  
なし、公然と資本主義制度への復帰を叫ぶ現象がいっ  
そう表面化し、ついにはこうした現象が国の政治生活  
全般をまきこむにいたつた。

三月二二日付「ルデー・プラハ」にはつぎのよう  
な内容の論説が掲載された。

「現在、積極的な中立、オーストリアの実例、  
ユーゴの道」などのように似かよつた思想があらわ  
れている。党はこうした思想を無視することはできな  
いし、こうしたことにたいする肯定的な解決策を示す  
ことによつてのみ大多数の住民を獲得することができ  
る」。

ついで三月二七日、チェコスロバキア共産党中央委  
員会幹部会が以前反革命分子として処罰されたものに  
たいする「徹底した名誉回復のための法案」の準備を  
国民議会に要求することを決定した。

三月三〇日、チェコスロバキア国民議会は、共産党  
中央委員会が提案したルドビク・スボボダを大統領

家経済行政機関にたいして指導的役割を果たすことを  
「厳禁しなければならない」と強調した。

そして、「総会は全般的党活動の改善案を作成し提  
出することを当該の党機関に委任し、当面の政治的課  
題を保障する行動綱領を作成することを決定した」と  
のべた。

その後チェコスロバキアの出版物には共産党の指導  
的役割を非難する文章が掲載されはじめた。

一九六八年一月一八日付「ルデー・プラハ」には  
チェコスロバキア共産党中央委員会書記コルデルの論  
説が掲載されたが、それにはこれまで党が国家経済機  
関と大衆団体との活動に「直接的な指導」にあたえた  
ことを批判し、「大衆団体は党の同僚的役割を果たさ  
なければならぬ」ことを強調した。そして、「党内  
で見解の自由な論争」を保障するよう主張した。

二月八日付の「ルデー・プラハ」は「一月総会後  
なから始めるべきか」と題した社説で、共産党の指  
導的役割と民主主義的中央集権制をますますあからさ  
まに否定した。

社説は「新しい经济管理制度の導入」によつて「中  
央集権の根をしだいに抜き去らねばならず、新しい管  
理制度の原則が徹底的につらぬかれるよう有利な条件  
を準備すべき」であるといひながら、現在提起されて  
いるのは「政治指導体制の改造」であるといひ、「直  
接的な党的指導の実践は指導過程に破壊的に作用」す  
ると主張した。

こうした成行きにしたがつてチェコスロバキアでは  
いわゆる自由化、「民主化」の風がしだいにつるよう  
になつた。

一九六八年二月二〇日と二二日付「ルデー・プラ  
ハ」の報道によると、反動的ブルジョア思想と腐敗墮  
落した西方の生活様式を極力宣伝しながら、党の指導  
と社会主義制度に乱暴な中傷をくわえ攻撃したため、  
一九六七年九月の党中央委員会決定で解散させられた  
チェコスロバキア作家同盟の機関紙「リテラルニー・  
ノビニ」編集部のメンバー全員がそのまま復職し、

に選んだ。

四月にはいつてからはチェコスロバキア共産党と国  
家機関の指導幹部の構成が急速に改められた。

三月二九日から四月五日までもたれた党中央委員会  
総会では党中央委員会幹部会と書記局員をドゥプチェ  
ク支持者といひかえた。

これとともに政府首相にはチェルニークが選ばれ  
た。そして国民議会の議長としては通信が伝えるところ  
でも、反革命分子として一五年の刑をいひ渡されて  
いたのにいひゆる「名誉回復」で出獄したスミュルコフ  
スキーが選ばれた。

通信報道によると、チェコスロバキア人民軍では過  
去に反革命的な罪悪行為によつて処罰された将校ら八  
〇〇余名が「権利」を回復し、補償までされたといひ、

四月総会ではまた、長い間準備されてきた党の「行  
動綱領」なるものが採択された。

この「行動綱領」は「生活の根本的な変革」を実施  
し、「全ての社会的集団と個人の各種さまざまな利害  
関係を実現させる……新たな政治制度を樹立」するこ  
とを、党と労働者階級の指導的役割を拒み、プロレタ  
リア独裁を抹殺し、国家機関と大衆団体の機能をまひ  
させ、公民にブルジョアの「自由」を保障する方針を  
打ちだした。

「綱領」は党と労働者階級の指導的役割については  
ひとこともふれず、労働者階級の歴史的な地位を他の  
階級と同じ地位にひき下げている。

すなわち「綱領」は、共産党が労働者階級をはじめ  
全勤労人民の利益を代表するものではなく、その党員  
の利益のみを代表し、国家機関ならびに大衆団体に  
「その路線を指示として下すことはできず、ただその  
機関と団体で活動している党員を」励ましてもつとも  
重要な問題の解決に影響を与えろ」と規定している。  
「綱領」は「階級的差異がなくなりつつあることに

ちの社会では、人びとの地位を評価する主な尺度は：「かれらがどの階級や階層に属しているかということではない」とのべている。

「綱領」は「国民戦線に所属する諸政党は互いに協同者であり」「いかなる党も、またいかなる政党連合も社会主義的国家権力を独占することはできない。国家権力は、人民のあらゆる政治組織にたいして直接に解放されていなければならない」といって、共産党の指導的な役割とプロレタリア独裁を否定している。

「綱領」はまた、勤労団体にたいしても党の「同僚組織」であると規定して、党と大衆を結びつけるベルトとしての役割を消滅しようとしている。

「綱領」は「民主主義」の看板のもとに無政府主義的ないわゆる「自由」と「人権」を許している。こうしたいわゆる「自由」にもとづいて出版報道についての国家の予備検閲をなくし、党機関紙をはじめすべての出版報道手段が「国家の公式的な立場と完全に一致しない見解」をのべることもあるといった。

「綱領」は、過去に反革命的な犯罪を犯し、処罰された者を大々的にいわゆる「名誉回復」させることにきめ、これを遅滞させるならば、罷免させると規定している。

つきに「行動綱領」は「企業や企業グループの自主性と国家機関からの相対的な独立が実現」されるべきであるとのべて、企業上では機関は国家的、行政的権力をもつことはできないとのべている。

これは「企業の自主性」を前面に打ちだし、国民経済にたいする党と国家の中央集権的な指導を否認し、社会主義経済そのものを完全に拒んでいるということを示している。

以上に示されているように、「行動綱領」は、国家生活のすべての分野で資本主義を復活させるための反動的な路線と政策で一貫している。

四月総会にたいして「自由化」方針は「行動綱領」に示されたとおり全面的に実践に移されはじめた。

チェコスロバキアの出版物によると、なによりも革命的なスパイとして処断されたスランスキー一味にたいする公判をはじめ一九四九年以後におこなわれた公判で有罪判決を受けた者を釈放したり、「完全に名誉回復」させる大幅な措置を講じた。

今年のメーデーにさいして一九五二年反党反革命スパイ罪で死刑になったクレメンツス(当時の外相)に英雄称号があたえられ、「名誉回復」したスムルコフスキー(国民議会議長)、フサク(副首相)、コルドシュケル(作家同盟委員長)、ノボメスキー(作家)には、「クレメント・ゴトワルド勳章」が授与された。

また、この五月八日、建国記念日を契機に千余人の犯罪者たちに「大赦令」が実施された。

こうして今年のメーデーと五月九日の建国記念日のデモの時は少なからぬ者がアメリカ帝国主義の国旗を掲げ、「アメリカ万歳」を叫び、第二次世界大戦当時のアメリカ帝国主義の「解放」的な役割についてうんぬんしつつ、いわゆる「英雄塔」を立てるべきであるとして騒ぎだした。

通信報道によると、この四月二三日、「ミンコビチ」教化所では約九〇〇人の罪人が暴動を起こしたが、この時にテレビは以前の罪人を出演させて内務員の「官僚主義的活動スタイル」を非難した。

この六月二五日、国民議会は「名誉回復に関する法令」を採択した。

七月二〇日、クチュラ法相の発表によると、一九四九～五〇年に六十七万七千名の政治犯が拘禁されたが、現在では政治犯がわずか八人にすぎないという。

この五月、反革命分子であったブルジョア共和国時代の初代大統領マサリクの追悼式が挙行された時、ころから中部チェコ州のラコブニクに集って「大会」をもち、革命的労働組合運動機関紙「プラーツェ」はこれについて「ひょろろにりっばな構想をもつ一つの運動の平和的で哲学的な意思表示の形態となる」とたまたえた。

チェコスロバキアの反動らは社会主義制度の転覆を目的に社会主義のいち陣地を占領していらいつぎの陣地を占領するためのスローガンと要求をつぎつぎに提起した。

かれらは労働者階級の中核からなる民兵隊も党の統制下におくべきではなく、スムルコフスキーが握っている国民議会の統制下におき、国民戦線に属するすべての政党は自身の青年組織をもつべきであると主張し、民兵と青年組織をはじめ各大衆団体を共産党の指導から切り離そうとところみだ。

これと時を同じくして五月の末頃、党書記のツイーサジが参加した集会で「チェコおよびモラバ大学生同盟」が結成され、六月二日にはプラハで「軍事大学生同盟」が結成された。

その後にはいたっては民兵をなくせとまで要求した。八月一四日、プラハの中央に集まった一〇〇〇余人の反革命分子は「民兵を廃止せよ」と叫びつつ、署名運動をくりひろげた。

チェコスロバキアにおける反革命勢力の主張と要求は時間がつたにつれ、いっそうあくどくなり、それは「二千語」の宣言で頂点にいたった。

「チェコスロバキア活動家グループ」という名のもとに六月二六日、「リテラルニー・リストイ」(作家同盟機関紙)、「プラーツェ」(労働機関紙)、「ゼムニエゼルスケ・ノビニ」(農業省機関紙)、「ムラダー・フロンタ」(共産主義青年同盟機関紙)など四つのチェコスロバキアの新聞にいわゆる「二千語」の宣言が発表された。

これは労働者階級に満ちた言葉で冒とくし、「共産党はいかなる監視も受けるだけの資格がない」と騒ぎだして、共産党を一種のクラブのような「団体」に、たんなる「思想的な同盟」に転落させることを要求し、その役割と機能を全面的に拒否した。

「二千語」の筆者たちは、社会主義に反対する気がいじみた騒ぎをおこして、社会主義の勝利をめざす労働者階級と人民のすべてのたたいの組織者である共産党にむけて攻撃のほこ先を集中した。

かれらは共産党を悪意に満ちた言葉で冒とくし、「共産党はいかなる監視も受けるだけの資格がない」と騒ぎだして、共産党を一種のクラブのような「団体」に、たんなる「思想的な同盟」に転落させることを要求し、その役割と機能を全面的に拒否した。

「二千語」の筆者たちは、社会主義に反対する気がいじみた騒ぎをおこして、社会主義の勝利をめざす労働者階級と人民のすべてのたたいの組織者である共産党にむけて攻撃のほこ先を集中した。

かれらは共産党を悪意に満ちた言葉で冒とくし、「共産党はいかなる監視も受けるだけの資格がない」と騒ぎだして、共産党を一種のクラブのような「団体」に、たんなる「思想的な同盟」に転落させることを要求し、その役割と機能を全面的に拒否した。

「二千語」の筆者たちは、社会主義に反対する気がいじみた騒ぎをおこして、社会主義の勝利をめざす労働者階級と人民のすべてのたたいの組織者である共産党にむけて攻撃のほこ先を集中した。

かれらは共産党を悪意に満ちた言葉で冒とくし、「共産党はいかなる監視も受けるだけの資格がない」と騒ぎだして、共産党を一種のクラブのような「団体」に、たんなる「思想的な同盟」に転落させることを要求し、その役割と機能を全面的に拒否した。

「二千語」の筆者たちは、社会主義に反対する気がいじみた騒ぎをおこして、社会主義の勝利をめざす労働者階級と人民のすべてのたたいの組織者である共産党にむけて攻撃のほこ先を集中した。

かれらは共産党を悪意に満ちた言葉で冒とくし、「共産党はいかなる監視も受けるだけの資格がない」と騒ぎだして、共産党を一種のクラブのような「団体」に、たんなる「思想的な同盟」に転落させることを要求し、その役割と機能を全面的に拒否した。

「二千語」の筆者たちは、社会主義に反対する気がいじみた騒ぎをおこして、社会主義の勝利をめざす労働者階級と人民のすべてのたたいの組織者である共産党にむけて攻撃のほこ先を集中した。

かれらは共産党を悪意に満ちた言葉で冒とくし、「共産党はいかなる監視も受けるだけの資格がない」と騒ぎだして、共産党を一種のクラブのような「団体」に、たんなる「思想的な同盟」に転落させることを要求し、その役割と機能を全面的に拒否した。

れには大統領のスボダも参加して花輪をおくった。通信報道によると、五月三〇日、チェコスロバキア共産党中央委員会総会は「現情勢にたいする評価、中央委員会機関の活動に関する総括、党の今後の戦術的行動ならびにチェコスロバキア共産党大会の準備」問題を討議して「自由化計画」をいっそう積極的におしすすめる、以前の党活動家にたいする党的制裁を加えることにたいする対策を講じたという。

こうした環境のもとでこんにちチェコスロバキアは多くの新たな「政治組織」が結成されたり、改組されはじめた。

一九四八年に共産党と協同した「社会民主党」の反動的な反動分子らがこの党を再建するための準備委員会を組織し、五月一八日には「カン」なる名称をもった「非共産主義的な政治勢力」を代表した新しい団体が組織された。

また以前に解散された学生青年運動の組織である「ソコール」なる団体が再建され、一九四八年に「チェコスロバキア少年団」に統合された「ユナク」なる少年団組織もふたたび分離してできた。

のみならず、釈放された犯罪者をもうらした「クラブ二二一」なる団体も組織されたが、この組織はいま全国各地とアメリカ、カナダなど国外にまで支部をもっているという。

事態がこうであるにもかかわらず、チェコスロバキア共産党中央委員会や政府がこれを收拾する措置をとったものはない。

ドゥプチェクは六月一八日に地方労働組合代表者会議でおこなった演説で「共産党も、国家も労働組合を指導することを望んだり、指導する意向をもっていない」「労働組合に関する政策の作成と内容があなたがたの手中に握られている」「ストが管理当局に圧力を加える労働者の最後の手段となることを認める」との

「二千語」の宣言は、帝国主義者に操縦されているこの国の反革命分子がチェコスロバキアの労働者階級と人民が血潮でかちとった社会主義制度をくつがえし、搾取と抑圧、貧困と無権利が支配する暗黒の社会——資本主義社会を復活させようとする凶悪な闘争目標を定式化した反革命的行動綱領であった。

「二千語」の筆者たちは、チェコスロバキアの労働者階級と人民が自国の社会主義制度を創設し、社会主義を建設してきた過去二〇年間の全過程を「人民の精神状態を危険にした憂うつな時期」とえがきだし、さらにそこには「貧困と衰退」以外には「なにも残っていない」と毒舌をはいた。

「二千語」の筆者たちは、社会主義に反対する気がいじみた騒ぎをおこして、社会主義の勝利をめざす労働者階級と人民のすべてのたたいの組織者である共産党にむけて攻撃のほこ先を集中した。

かれらは共産党を悪意に満ちた言葉で冒とくし、「共産党はいかなる監視も受けるだけの資格がない」と騒ぎだして、共産党を一種のクラブのような「団体」に、たんなる「思想的な同盟」に転落させることを要求し、その役割と機能を全面的に拒否した。

「二千語」の筆者たちは、社会主義に反対する気がいじみた騒ぎをおこして、社会主義の勝利をめざす労働者階級と人民のすべてのたたいの組織者である共産党にむけて攻撃のほこ先を集中した。

かれらは共産党を悪意に満ちた言葉で冒とくし、「共産党はいかなる監視も受けるだけの資格がない」と騒ぎだして、共産党を一種のクラブのような「団体」に、たんなる「思想的な同盟」に転落させることを要求し、その役割と機能を全面的に拒否した。

「二千語」の筆者たちは、社会主義に反対する気がいじみた騒ぎをおこして、社会主義の勝利をめざす労働者階級と人民のすべてのたたいの組織者である共産党にむけて攻撃のほこ先を集中した。

かれらは共産党を悪意に満ちた言葉で冒とくし、「共産党はいかなる監視も受けるだけの資格がない」と騒ぎだして、共産党を一種のクラブのような「団体」に、たんなる「思想的な同盟」に転落させることを要求し、その役割と機能を全面的に拒否した。

「二千語」の筆者たちは、社会主義に反対する気がいじみた騒ぎをおこして、社会主義の勝利をめざす労働者階級と人民のすべてのたたいの組織者である共産党にむけて攻撃のほこ先を集中した。

かれらは共産党を悪意に満ちた言葉で冒とくし、「共産党はいかなる監視も受けるだけの資格がない」と騒ぎだして、共産党を一種のクラブのような「団体」に、たんなる「思想的な同盟」に転落させることを要求し、その役割と機能を全面的に拒否した。

「二千語」の筆者たちは、社会主義に反対する気がいじみた騒ぎをおこして、社会主義の勝利をめざす労働者階級と人民のすべてのたたいの組織者である共産党にむけて攻撃のほこ先を集中した。



「二千語」の訴えでこの反革命分子は「将来のきたるべき時期は決定的な時期」であり、この時期には「各自が自身の決心に従って行動することを要求し」ているとのべ、共産党と社会主義制度に反対する行動に移るよう唱えた。

そればかりでなく、中央と地方の新聞、雑誌、ラジオ、テレビなど出版報道機関を奪い取って反共宣伝を強化すること、自分らの反革命的な要求によく応じない党幹部と国家活動家たちに反対してスト、デモ、サボタージュをするよう扇動した。

さらに「中央政治機関からはなにも期待できない」とのべて、いわゆる「独自の市民委員会とコミッションを創設」して自身の要求を実現するようにしなければならぬと訴えた。

そして、「二千語」の筆者たちは、チェコスロバキアで年若い人民主権をその揺籃のなかで殺し、チェコスロバキアを資本主義の道に導こうとするところを第二次大戦直後の時期と同じ「機会」がふたたびきたと騒ぎだした。

チェコスロバキア共産党中央委員会幹部会をはじめから終りまで社会主義と人民の革命偉業にたいする卑劣で悪意にみちた中傷と反革命への扇動で貫かれた「二千語」が発表されるや、その立場を表明し、この声明作成者と支持者たちの「善意を疑う根拠はない」といった。

ドップチェクは去る七月二十七日、テレビ演説で「われわれはわれわれがすでに出版した道からただの一步も退かず、終始一貫最後までつらぬく義務をもっていく」とのべた。

ドップチェクとその支持者は社会主義諸国との同盟関係をよめるいっぽうで、西側帝国主義、とくにアメリカ帝国主義と西ドイツ報復主義者に接近している。

われわれは、チェコスロバキアで反革命分子のしゅん動が表面化しはじめたその日から、それを鋭く見まもってきた。

チェコスロバキアで社会主義的獲得物を抹殺し、国を資本主義復活の道に復帰させようとする反革命勢力の策動は、今年にはいっていわゆるあらたな「民主化」路線が採られたのと時をおなじくして公然化しはじめた。

周知のように、今年一月に開かれたチェコスロバキア共産党中央委員会総会では、「高度に発達した民主的に発達した社会主義社会を創設する」問題が提起され、新しい「民主化路線」が採られ、党および国家生活全般にわたってそれを実行しはじめた。

「民主化」「自由化」の看板のもとに、共産党の指導的役割を拒み、国家の中央集権的指導を拒み、階級闘争を否認する声が公然とひろめられた。出版物、放送、テレビにたいする国家の検閲制が廃止されたのはじめ、政治・社会生活にたいする党と国家機関の指導と統制を骨抜きにする一連の「決定」がなされた。反動どもを鎮圧した内務機関の措置にたいする反撃が開始され、ブルジョア共和国時代の反動支配者をたたえる行事がおこなわれ、反革命的行動により処刑された連中にたいするいわゆる「名誉回復」がいっそう広範におこなわれた。これは事実上、反革命に道をひらいたものであった。

### 各国の党の見解

反革命分子は、公然と頭をもたげて社会主義制度を中傷し誹謗し、共産党を非難し、資本主義の復活をさわぎだした。反社会主義的宣伝がこの国の出版物、放送およびテレビをつうじておこるおこるおこるおこる。反革命分子のしゅん動はとくに四月のチェコスロバキア共産党中央委員会総会で、共産党のいわゆる「行動綱領」が採られた後、いっそう公然化している。この「行動綱領」は、「新しい民主的国家的政治指導

去る七月九日、首相チェルニークは「チェコスロバキアは西ドイツとの友好・協力を心から望む」とのべ、西側帝国主義者との関係の改善を主張した。

ニューヨーク州知事ロックフェラーはチェコスロバキアでの反革命的「民主化」騒動にたいして、いわゆる「鉄のカーテンに破れた歴史上最大の破裂口」といってよろこびながら、「チェコスロバキア政府の努力を歓迎する」とまくしたてた。

アメリカ帝国主義は、チェコスロバキアに貿易「特惠制度」を適用すると同時に、第二次世界大戦以前にアメリカ銀行に預金しておいたチェコスロバキア人の保険金を返還することに決定し、西ドイツが委員長になっているヨーロッパ共同市場理事会はチェコスロバキアに小麦の輸出補助金を支払うことに決定した。

ドップチェクとその支持者は相ついでアメリカ支配層を引き連れて密談をもった。すでにアメリカ上院議員クレイボン・ペルとベルがチェコスロバキアにのりこんでおり、最近ではマンズフィールドがやってきて国民議会議長スモルコフスキーと「両国の関係を正常化」することについて密談をこらした。

ドップチェクとその支持者たちは西ドイツとの国境に設けられた地雷線と鉄条網を解体してしまつた。各報道によると、海外に亡命した反革命分子や破壊分子がチェコスロバキアに大々的に集結し、チェコスロバキアにはアメリカ中央情報局と西ドイツのスパイの指揮センターまで設けられた。

最近チェコスロバキアの各地域では、アメリカ帝国主義者が社会主義制度を転覆しようと策動しているチェコスロバキアの反革命分子に提供した多くのアメリカ製武器と弾薬が相ついで発見された。

外国の報道によると、八月二〇日、チェコスロバキアと西ドイツの国境地帯にあるチェコの都市ヘフを通「制度」の確立というスローガンのもとに、党の指導的役割を全面的に骨抜きにし、プロレタリア独裁を損ねることによって資本主義復活のために条件をつくつてやる反マルクス主義的、反革命的な文書である。

この文書は、労働者階級の党の階級的性格を否認し、党をたんなるクラブに転化させることを目的にしている。のみならず「行動綱領」は統一戦線体である国民戦線を党の上におき、党をそれに解消させることをねらつており、国家機関や大衆団体にたいする党の直接的指導を公然と拒んでいる。

また「行動綱領」の反マルクス主義の本質と有害性はとくに、チェコスロバキアで「労働者階級の独裁国家はその歴史的使命を果たした」とのべてすべての社会的集団とすべての人びとに一律に保障する「完全な自由」と「純粋民主主義」を唱えていることにも集中的にあらわれている。

こんにち、地球上に帝国主義がまだ残っており、とりわけかれらが滅びゆく自分らの境遇からの出路を侵略政策と戦争政策の強化にみいだそうと狂奔し、社会主義諸国にたいする不断の攻撃を強行しているきびしい情勢のもとで、そして、対内的にも敵対階級の残存分子がまだ生きており、また人びとの思想意識から資本主義的要素が完全に掃き除けないでいる条件のもとで、いわゆる「プロレタリア独裁の使命を終息」させ、すべての社会集団、すべての人びとにたいする「完全な自由」と「純粋民主主義」を「実施」することについての方案は、事実上、反革命分子をかばい、人民大衆の階級的自覚をマヒさせ、敵の前で武装解除させようとする試みにすぎない。

「行動綱領」で有罪判決をうけた反革命分子のいわゆる「名誉回復」を促進し、出版物と放送が反国家的宣伝をおこなうのを助ました事実、この「行動綱

つて「西ドイツのナンバーをつけた自動車が増えるようにチェコスロバキアにだれか入れておけ」と、これは三〇年前ミュンヘン協定が締結されたのち、ヒトラー・ナチス軍隊がチェコスロバキアに侵入した当時を連想させたという。

八月二一日、タス声明はソ連、ブルガリア、ハンガリー、ドイツ民主共和国、ポーランドの軍隊が、武力援助をふくむ緊急な援助を提供してくれるようにとのチェコスロバキアの党と国家活動家の要請を受け、チェコスロバキアでの社会主義獲得物を守り、ヨーロッパ社会主義諸国の安全を保障する目的でチェコスロバキアの領土にはいったと報道した。

## チェコスロバキアの事態の歴史的教訓

一九六八年八月二三日

### 「労働新聞」論説

いま、チェコスロバキアの事態はひじょうに重大である。この国でさいきんおきていすすべての事態は、アメリカ帝国主義をかしらとする帝国主義者と共謀している反革命勢力の悪らつなしゅん動により、この国の人民の社会主義の事業にとって重大な危険がうまれていることをしめしている。

帝国主義の侵略と破壊策動に反対し、社会主義・共産主義建設を促進するための共同闘争でチェコスロバキア人民と緊密な国際主義的きずなで結ばれているわ

「二千語宣言」で反革命分子は、社会主義と共産党にたいする露骨な敵対感情を示し、悪意にみちたあらゆる中傷・誹謗をならべたてたばかりでなく、共産党と社会主義政権に反対する行動へ移ることをおこつてらによびかけた。

かれらは、チェコスロバキアで「自由化」の発展に期待を表明しつづ、「将来のきたるべき時期は決定的時期」であり、この時期には「各自が自身の決心に従って行動することを要求」していると扇動した。

のみならず、かれらは中央と地方の新聞と雑誌、ラジオ、テレビなど出版報道機関を奪い取って反共宣伝を強化し、スト、デモ、サボタージュを断行し、それから「独自の市民委員会とコミッションを創設」して自分たちの要求を実現するにたいしたかうべきであるとして扇動した。

これは、事実上、社会主義政権をくつがえし、反動的ブルジョア政権をうちたてるための反革命的進出を訴えたものである。

ところが、社会主義と人民の革命事業にたいする卑劣で悪意にみちた中傷・誹謗と反革命への扇動で一貫しているこの「二千語宣言」の訴えにたいする賛辞と支持が、この国の一連の出版物、ラジオ、テレビで流されておこり、はては党と国家の一部の指導的活動家までがそれにはたいする支持を公然と表明している。

のみならず、釈放された犯罪者で構成された「クラブ二三」なる反動団体をはじめ種々の反共的、反革命的団体が組織され、活動している。

チェコスロバキアの反動は、社会主義制度の転覆を目的に社会主義の陣地を占領してからつぎの陣地を占領するためのスローガンと要求をつぎつぎに提起した。

かれらは労働者階級の中核からなる民兵隊を党の指導から切りはなし、すすんではかれらが掌握するか、廃止しようとしている。また青年組織を分裂させ、かれらの影響下に青年をひきまわっている。

ここに、チェコスロバキアでは反革命勢力のしゅん動によって、人民の社会主義事業にきわめて重大な危険がうまれていた。とくに、見すごすことのできないのは、チェコスロバキアでの反革命勢力の策動がアメリカ帝国主義と西ドイツ軍国主義者をはじめ帝国主義者にあやつられておこなわれていることである。

いま、チェコスロバキアに生じている事態と関連してアメリカ帝国主義者と西ドイツ軍国主義者、それによつて前に革命を裏切り、アメリカ帝国主義の召使に転落したユーゴスラビアのチトー一味はひじょうによるこんで、チェコスロバキアの反社会主義分子を陰に陽に積極的にはげましている。

革命の汚らわしい背信者チトーはさいきん、チェコスロバキアを直接訪問し、ユーゴスラビアはチェコスロバキアでの「民主化」課題を熱烈に歓迎し、支持すると騒ぎだて、この国の反革命勢力をばげますためにあらゆる策動をつくした。こうすることによつて、チトーは社会主義陣営と世界革命勢力を内部から切りくずすためのアメリカ帝国主義の策動で、かれが別動隊の役割を果たしていることをいま一度はつきりとさらけだした。

アメリカ支配者はチェコスロバキアでの「民主化」

騒動を歓迎し、チェコスロバキアに各種の「特惠制度」を適用している。報道によればチェコスロバキアにはアメリカ中央情報局と西ドイツのスパイの指揮センターが設けられ、この国の各地域からアメリカ製の兵器が発見されている。

このものをも危険におとし入れざるをえなくなるといふことは、歴史の経験がしめす厳然たる教訓である。

一方、チェコスロバキア当局者は、社会主義諸国との同盟関係を弱め、アメリカ帝国主義と西ドイツ報復主義者に接近していった。

チェコスロバキアのこんなちの事態は、この新しい深刻な教訓を国際共産主義運動にあたえていっている。

西ドイツと隣接しているチェコスロバキアの国境に設けられた地雷源と鉄条網がとりのぞかれ、メーデーのデモでアメリカ帝国主義の国旗をもつて「アメリカ万歳」を叫びさえた。

さいきん、国際共産主義運動内で修正主義が台頭していらい、チェコスロバキアでは修正主義がひきつづき党および国家の政策として実施され、それは社会生活全般にひどい結果をもたらすようになった。

これらすべての事実は、チェコスロバキア人民の社会主義の獲得物を台なしにし、チェコスロバキアを資本主義の道にひきもどそうと試みている反革命分子の策動が、社会主義諸国を各個撃破しようとなえまなく面策している帝国主義者の策動と密接に関連していることをものがたつていっている。

国際共産主義運動の経験が確証しているように、階級闘争とプロレタリアート独裁を堅持し、社会主義建設にたいする党の指導を保障し、人民大衆にたいする思想活動を強化することをはじめ社会主義革命と社会主義建設にかんするマルクス・レーニン主義の一般の原則を守ることは、それぞれの社会主義国の党においてまげることのできない確固たる鉄則である。

それではなぜここに、チェコスロバキアで労働者階級の革命事業と血でかちとつた社会主義制度を危険にさらす重大な事態が起きるようになったのか、それはけつして偶然の現象でも、突発的な事態でもない。

勝利した社会主義制度を守り、つよめ、発展させていくことができるかどうか、社会主義・共産主義建設の成功の遂行を保障していくことができるかどうかは、すべてそれぞれの社会主義国の党がどのようにこの原則を堅持し、正しく実現していくことができるかどうかにかかっている。

チェコスロバキアでのすべての事態は、この国で実施されてきた修正主義的政策がもたらした当然の帰結である。

したがって、真に革命的立場を守り、人民をマルクス・レーニン主義の道にそつて社会主義・共産主義事業の勝利へと正しく導いていくことをねがう党は、例外なくこの原則に無条件に忠実でなければならぬ。

思想活動、これは社会主義・共産主義建設でおのの革命的党の前に提起されるもつとも重要な任務のひとつである。

とくに世界革命が完遂されず、帝国主義が残っている条件のもとで、主権を掌握した労働者階級の党が人民大衆を政治的、思想的にしつかりと武装させる問題はひじょうに重要で、しかも慎重な問題として提起される。

ただ労働者階級をはじめ広範な大衆を確固たる労働者階級の意識と革命思想で不断に教育してこそ、帝国主義者の強まる思想攻勢とさまざまな敵対的なブルジョア思想の浸透を効果的に防ぐことができ、かれらを革命と建設に力強くふるいたたせることができる。したがって、敵対的思想の浸透とあらわれに反対する思想闘争と大衆を教育し改造する思想活動は、一瞬といえども中断されたり、よわめられたりしてはならない。しかし、これまでチェコスロバキアでは、このことに当然の関心が払われなかった。

古い思想の残りかずに反対する闘争と思想活動は無視され、放棄された。

ブルジョア思想の毒素の浸透は、多くの人がとを思想的に墮落させ、国と革命の利益より自分一人の安逸と享楽を追求する利己主義を極度に助長し、とりわけ階級性をぬきさり、事物と現象を革命的にみ、判断することができないところまで墮落させた。

ひきさせたことから招かれた直接的な結果である。

思想活動の放棄は、それ自身が反動的ブルジョア思想の浸透に門を開放することであり、その前に大衆を思想的に無防備の状態におくことを意味する。

その結果、少なからぬ人びとがどれが革命的なもので、どれが反革命的なブルジョア毒素であるのか、どれが社会主義的なもので、どれが反社会主義的なものであるのかを見分けることができなくなり、敵と味方をはつきり見分けることができなくなった。

まさに人民大衆の階級の自覚と革命性をまひさせ、骨抜きにし、帝国主義にたいする誤った幻想をうみだして革命の隊列を政治的、思想的にきりくずすことに、修正主義の一貫した目的があるのである。

チェコスロバキアで実施されてきた修正主義的政策は、とくに階級闘争を放棄し、プロレタリアート独裁を拒むところに集中的にあらわれた。

階級闘争とプロレタリアート独裁を拒むことは修正主義の反マルクス主義的、反革命の本質をなすものである。

「社会主義のもとでも階級闘争がつけられなければならない」といふことは、社会主義のもとにおける階級闘争を否認する者は修正主義者であり、革命をやるうとしない者である。社会主義建設が進められれば進められるほど、プロレタリアート独裁を弱体化させるのではなく、引つづきつよめなければならず、階級闘争もつづけなければならぬ。

こうして、ブルジョアの影響が社会生活にひろがるにしたがって、敵対的思想を足がかりに反革命分子が内部で再びしゅん動するようになり、人民の政治思想生活に由々しい害毒が及ぶようになった。

修正主義はけつきよく革命をしようとしなないその反動的な本性から、階級闘争とプロレタリアート独裁に必死になって反対するのである。

したがって、プロレタリアート独裁を強化し、その機能をあらゆる面から高めることによつてはじめて、あらゆる階級の反抗を徹底的に鎮圧することができるのであって、社会主義制度をしつかりと守り、社会主義・共産主義建設を成功裏におこなうことができるのである。

争を放棄したりプロレタリアート独裁をよわめたりしなくてはならないのである。

ところが、チェコスロバキアではいわゆる「民主化」と「自由化」の看板のもとにプロレタリアート独裁に反対する公然たる策動がおこなわれている。チェコスロバキアの「民主化」と「自由化」の提唱者は、プロレタリアート独裁に反対しつつ、歴史的に反革命分子と日和見主義がそうであったように、あたかもプロレタリアート独裁が民主主義を「抹殺」したかのようになりにくくしげに非難し、社会主義に「人道主義」と「奥深い民主主義」を付与する、という口実をもうけている。

しかし、どのような口実と奇弁をもつても「民主化」「自由化」の反動的な正体をかくすことはできない。

チェコスロバキアで「民主化」「自由化」のスローガンのもとにくりひろげられているのは、実質的には人民内務機関をはじめ階級の敵を鎮圧する使命をもつたプロレタリアート独裁機関にたいする悪意に満ちた中傷や攻撃であつて、国家社会秩序を混乱させ、なんの階級の原則もなしに、反動であるかなにものであるかを問わず、勝手気ままに騒ぎ立て、自分勝手に行動する無政府状態を復活させようとする策動である。ここでも明白なように、いわゆる「民主化」「自由化」などは、各種のブルジョア的要素と敵対的勢力の復活を保障する「自由」であり、反動らの反革命、反社会主義的進出の「自由」である。

これは、本質的な、ブルジョア制度を復活させ、資本主義の道にもどっていく「自由」と「民主主義」である。結局、これはブルジョアの自由、ブルジョアの民主主義がいかなるものでもない。

真の民主主義、革命的民主主義は、あらゆるブルジョアの自由および民主主義とは根本的に異なる。社会主義陣営は、全世界の労働者階級が百余年にわたる血みどろの闘争をつうじて勝ちとった貴い獲得物である。

金日成同志はつぎのように教えている。

「社会主義陣営と国際共産主義運動は、こんにち、人類の歴史の発展を規定する決定的な要因である。それは帝国主義とすべての反動勢力に対抗しているわれわれの時代のもつとも強力な革命勢力である。統一した強力な社会主義陣営と国際共産主義運動の存在は、帝国主義者の侵略と戦争政策をおさえ、世界人民の革命闘争を上げますものである」。

社会主義陣営を擁護し守ることは、個々の社会主義国とすべての共産主義者の神聖な義務であり、世界革命の終局的勝利のための重要な裏付けである。

社会主義陣営を守り、個々の国の社会主義的獲得物をまもろうとするならば、かならず階級闘争の武器をしつかりと握つてプロレタリアート独裁をあらゆる面から強化しなければならぬ。プロレタリアート独裁を強化し、社会主義制度を強化し、発展させるうえで、最も重要なことは、思想革命を強力におし進めて、全勤労働者を共産主義思想で教育し改造することである。

金日成同志はつぎのように教えている。

「すべての大衆を教育し改造する活動は、人びとの意識の領域においても資本主義を終局的になくし、人民大衆を昔からうけついできたあらゆる古いものから完全に解放する深刻な思想革命である。これは労働者階級が政権を握つた後に解決しなければならぬ最も困難で、時日を要する活動である」。

思想革命は、社会主義制度が勝利した後、共産主義へ移行する時期のプロレタリアート独裁の基本的な任務であり、階級闘争の主な形態である。社会主義制度

主義のもとで、真の民主主義はプロレタリアート独裁にもとづく民主主義がいかにないし、またありえない。

プロレタリアート独裁は、少数搾取階級と人民の敵にたいしては徹底的に独裁を実施し、労働者階級をはじめ広範な人民大衆には最大限の民主主義を保障する最高形態の民主主義である。自由もまた革命を超越した自由などありえない。

党の指導を拒否し、プロレタリアート独裁を拒否する「自由」は、勤労大衆を抑圧、搾取し少数搾取階級だけがよく生活するためのブルジョアジーの「自由」である。また、革命も知らず、人民大衆をも知らず、ただ無制限の個人的享楽だけを追求するような自由は、自由というものではない。それは放任にすぎない。

いかなる「自由化」とか「民主化」とかの看板をかげようとも、階級敵にたいする民主主義の実施を要求し、無原則な自由をとねえるような民主主義や自由は、徹頭徹尾、反動的であり、反社会主義的なものである。

あらゆる人民の敵、反社会主義勢力にたいする断固とした、徹底した独裁を実施することなしには、けつして人民にたいする真の自由と民主主義を保障することはできない。

プロレタリアート独裁は、社会主義の敵、人民の敵にたいする独裁を前提とする民主主義であり、これらの敵に反対する闘争をおして徹底的に実現される。

まさに、プロレタリアート独裁による民主主義だけが、絶対多数の人民のための、人民全体の利益を擁護し代表する真の民主主義である。だからこそ、社会主義のもとで、真の民主主義を実現するには、あらゆる敵対勢力に反対する階級闘争を徹底的におしすすめて、プロレタリアート独裁を強化し、その機能と役割をた

が勝利した後には資本主義の残りかすがもつとも多く残っている分野は、人びとの意識分野であり、古い思想の残りかすは資本主義の最後の拠点である。帝国主義者と反動はこれを温床にしてくさりきつたブルジョア思想の毒素をまきちらし、反革命的策動を強行する。社会主義の物質的、技術的土台をいくらしつかりきざしあげたとしても、人びとの意識のなかに残っている資本主義の残りかすをとりぞかすには、社会主義制度を強固にすることも、敵の侵害からこの制度を守ることもできず、共産主義へ進むこともできない。

思想革命を力よくくりひろげ、個人主義、利己主義、自由主義など、ブルジョア思想の残りかすをなくし、すべての勤労働者を共産主義思想でしつかりと武装してはじめて、ブルジョア思想の毒素の侵入を防ぎ、社会主義、共産主義を成功裏に建設することができ、反動勢力の地盤を終局的に除去し、社会主義・共産主義の完全な勝利を保障することができる。

人びとの思想的自覚からはじまって、思想改造の完成で終わるのは、社会主義・共産主義革命の法則である。

もし、この法則を無視したり、これに違反したりするときは、社会主義革命で勝利することができないし、社会主義的獲得物をまもこともできない。

歴史的事実がしめしているように、修正主義にそまらば、思想革命を放棄して「自由化」の方向にすむなら、ブルジョア思想の残りかすをなくすことができなだけでなく、ブルジョア思想の毒素の侵入を防ぐこともできない。そしてくさりきつたブルジョア思想がひろがり、人びとの革命意識をまひさせ、かれらを腐敗墮落させる。

これは、結局、反動への道、資本主義復活への道を開くものであり、社会主義的獲得物を危険におとしめるものである。

えず高めなければならない。

全世界の労働者階級と共産主義者は、チェコスロバキアの事態から深刻な教訓をくみとらなければならない。

こんにち、国際舞台では、社会主義と帝国主義、革命勢力と反革命勢力のあいだに激烈な闘争がくりひろげられている。帝国主義が存在し、搾取階級とその残存分子が存在するから、共産主義者は、けつして階級闘争の武器をしまうことはできないし、いさかかもプロレタリアート独裁を弱めることはできない。

マルクス・レーニン主義の革命の本質はまさにそれが階級闘争とプロレタリアート独裁に関する学説であることにある。

階級闘争とプロレタリアート独裁、これは、労働者階級の手の中に握られたもつとも威力のある武器であり、社会主義、共産主義の事業の勝利のための必須の要求である。

労働者階級は、ただ、階級闘争とプロレタリアート独裁によつてだけ社会主義革命で勝利することができ、社会主義的獲得物を固守し、社会主義と共産主義を建設することができる。

帝国主義、とくにアメリカ帝国主義は、世界革命の第一の闘争対象であり、社会主義のもつとも凶悪な敵である。

金日成同志が教えているように、こんにちアメリカ帝国主義はアジア、アフリカ、ラテンアメリカの革命をしようとしている国にたいしては武力で侵略し、修正主義にそまつた国にたいしてはそれを利用して、内部から切りくずす政策をとつて、社会主義諸国を各個撃破しようとする悪らつに策動している。

こうした条件のもとですべての社会主義国は、共同で社会主義陣営を守らなければならない。自己の社会主義的獲得物を警戒心をもつてまもらなければならない。

社会主義的獲得物をまもるのに、いま一つの重要な問題は、革命伝統を継承発展させることである。修正主義者は、革命事業を投げ捨てるにあつて、例外なく革命的伝統を拒否する道に進む。かれらは、革命の先烈が搾取者と抑圧者、侵略者との血みどろのたたかひをつうじて革命の事業を成就した来歴ある革命の時代を、「暗黒の時代」にえがきだし、それを指導した革命の領袖たちと指導者たちをあくどく誹謗し中傷している。

これは結局、人びとのなかで革命にたいするほこりと革命的情熱をまひさせるものであり、革命の獲得物の貴さを傷つけるものであり、党を交節させて革命の代を絶つてしまうものであり、革命を放棄して反革命に道をきりひろくものである。

革命的伝統を拒否することは、これ以外のなものでもない。それゆえ、革命的伝統をまもることが、革命の事業をうけついで最後までやりとげるための不可欠の条件となる。

思想革命をすべての事業に優先させて全社会を絶えず革命化し、革命的伝統をまもり、継承発展させることは、わが党の確固たる方針である。

わが党はこれまでもそうであつたように、これから階級闘争とプロレタリアート独裁の武器をときすまとして、全社会をたえず労働者階級化、革命化していくであろうし、修正主義、教条主義、事大主義、ブルジョア思想、封建思想などあらゆる反動思想に徹底的に反対し、マルクス・レーニン主義の純潔性と革命性を腫のようにまもるであろう。

こんにち、われわれは革命的嵐の時代、全世界で社会主義が勝利し、帝国主義が滅亡する世界史的転換期に生きている。帝国主義者とその手先がどんなにがあがこうとも絶対に革命の歯車を逆転させることはできないし、自分らの西山落日の運命を救うことはできない。

い。  
資本主義はすでに自分の時代を生き終えた。未来はただ共産主義にのみ属する。紆余曲折はあつても、社会主義・共産主義はかならず全世界で勝利し、帝国主義とあらゆる反動派は終局的に滅亡するであろう。

## ドイツ共産党中央委員 会の声明(要旨)

一九六八年八月

われわれ共産党員は、社会主義に忠実に、自己の社会主義国家をまもり、社会主義の経済と民主主義を完成し、そのためにはすべての反社会主義的、反動的、反革命的企図に対抗する用意のあるチェコスロバキアの労働者、知識人との間に連帯感をもっている。かれらはこの重大な情勢のもとに、社会主義諸国兄弟党に援助を求めてきた。その活動と社会主義諸国の軍事援助によって、チェコスロバキア社会主義国家をすべての外部からの攻撃とすべての国内における転覆の企図から守るのに必要な前提条件が生み出される。これは社会主義と平和、世界労働者階級の利益、社会進歩をはかり、帝国主義と反動に反対する闘争にとって測り知れない奉仕であることが証明された。

このことは、帝国主義の敗北と社会主義勢力、反帝勢力の強化を意味する。報復主義者とネオ・ナチスト、連邦共和国の支配層とその政策には、重大な一撃

が加えられたわけである。ドイツ民主共和国をもふくめてワルシャワ条約により団結した諸国は、いかなる帝国主義国にも、一国を社会主義共同体からもぎはなすことを許さないだろう。社会主義はすでに世界最強の勢力であつて、もはや逆行させることはできない。チェコスロバキアの事態をきっかけに新しい反共熱の波をおおろうとする連邦政府と連邦議会諸政党と大資本に従属する新聞の企ては、かれら自身の権力、暴力政治をおおいかすためのものにすぎない。われわれは、すべての労働組合員と社会民主党員、労働し勉強する青年、経営の労働者、すべての勤労者に訴える。ボン諸党の反共主義者に迷わされるな、と。考えていただきたいのは、現在チェコスロバキアの友人と自称する人びとは、非常事態法で支配することをのぞみ、自己の利潤を増すために諸君に共同決定権を与えることを拒否し、新しい社会的負担を諸君に課しているのと同じ連中だということである。

〔ノイエス・ドイッチェラント〕八月二日

## ノルウェー共産党幹部 会の声明

一九六八年八月二三日

チエルナとブラチスラバでの会談のあとで、チェコスロバキアでいい方向に発展するという期待が生じたが、この期待は、ワルシャワ条約の五ヶ国が、この国

にたいして、軍事侵入をおこなったというニュースを受けとったときに、うちくたかれた。  
ノルウェー共産党は、一連の声明で、すべての共産党が、自分でその政策を決定する完全に自主的な権利をもつ必要があるということを、すでに早くから強調した。また、わたしたちは、諸国民の主権を擁護し、他国民の内閣問題に干渉するあらゆる企みを非難してきた。  
この根本的な立場は、現在生じつつある情勢にもあてはまるものである。  
チェコスロバキアへの外国軍隊の侵入は、この国の主権への介入であり、チェコスロバキアと他の社会主義諸国にもつとも重大な悪い結果をもたらすであろう。この軍事行動は、社会主義諸国間の関係に適用されなければならない諸原則のもつとも重大な違反である。わたしたちは、それゆえ、チェコスロバキアの領土にあるすべての外国軍隊を撤退させることを要求する。

チェコスロバキアの勤労人民は、自分自身の社会主義的発展の道を決定しなければならない。現在生じている条件のもとで、この課題を解決することは、ずっと困難になった。チェコスロバキアの共産党員は、現在、全世界の共産党があたえることができる支持をさらにいちだんと必要としている。

それゆえ、この情勢のもとで、わたしたちは、チェコスロバキアの労働者階級、その共産党、その合法的に選出された指導部を支持するものである。

## フランス共産党の声明

一九六八年八月二二日

チェコスロバキアにきわめて重大な出来事がおこっている。ソ連、ブルガリア、ポーランド、ハンガリー、ドイツ民主共和国の軍隊が今夜半チェコスロバキアの全領土内に侵入した。

チエルナとブラチスラバの両会議と、その会議の結果に強い満足をおぼえていたフランス共産党政治局は、チェコスロバキアへの軍事介入におどろきと遺憾の意を表明する。

最近、フランス共産党中央委員会は、共産党間に生じた問題は、各国の主権、各党の自由な決定の尊重にもとづくと同時にプロレタリア国際会議の精神にもとづいて、二党間、多党間の会合の友好的討論をつうじて検討され解決されるべきだと考えていることを明らかにした。

わが党はチェコスロバキアの現実のいくつつかの局面に不安を表明してきたが、同様に、社会主義の獲得物を維持し拡大するために反社会主義分子をとりしめることはチェコスロバキア共産党の権限に属することであることを確認した。

フランス共産党はこの方向にそってひきつづきたたかい、政治局や中央委員会の決定においても党書記長

の訪問活動においても、ソ連共産党とチェコスロバキア共産党にたいして外部からのいっさいの軍事介入にわが党が反対であることを知らせてきた。

政治局は臨時中央委員会の開催を決定する。

一九六八年八月二二日、一〇時、パリ

フランス共産党政治局

〔ユマニテ〕八月二二日

## フランス共産党中央委員 会のコミュニケ

一九六八年八月二二日

フランス共産党中央委員会は、ジャック・デュークロを議長として、昨日〔二二日〕パリで会議をひらき、チェコスロバキアへの軍事介入によって生じた情勢にかんするワルデク・ロシュの報告をきいた。討論のうち、中央委員会は、つぎに発表する決議を全員一致採択した。

フランス共産党中央委員会は、一九六八年八月二二日、特別会議をひらき、チェコスロバキアへのソ連、ブルガリア、ポーランド、ハンガリー、ドイツ民主共和国の軍事介入によって生じた情勢を検討した。

中央委員会は、政治局を代表してワルデク・ロシュ同志が提出した報告を承認した。

このところ、わが党は、チェコスロバキアにおける情勢の若干の側面にたいする憂慮をかくしたことはな

かった。社会主義的民主主義を発展させ、党と国家の活動のスタイルと方法を改善するためのチェコスロバキア共産党の正しい努力を利用して、社会主義に敵対する勢力は、その活動を展開させてきた。これらの分子の行動は、必要なすべての政治的反撃をうけなかった。世界の反動、とくに報復主義的で膨張主義的な西ドイツの支配層は、チェコスロバキアを他の社会主義諸国と団結させている同盟の弱体化をあてにしていることをかくしはしなかった。この同盟は、チェコスロバキア人民および社会主義諸国の安全とヨーロッパの平和の保障となっている。

わたしたちの党は、四月一九日の中央委員会にたいして、また、とくにフランス共産党書記長とチェコスロバキア共産党指導部との会談にさいしてチェコスロバキアの兄弟党にたいして、その憂慮をあきらかにした。  
わが党は、チエルナとブラチスラバの会談の結果をひじょうに満足をもって歓迎した。わが党は、帝国主義に反対し、社会主義をめざす闘争の当面の諸問題について、ソ連、チェコスロバキア、ポーランド、ブルガリア、ハンガリー、ドイツ民主共和国の共産党のあいだで諒解にたつたことを歓迎した。ブラチスラバ会議は、平等、民族独立、相互援助、連帯にもとづいて社会主義諸国の協力を強化するうえで、新しい、繁栄した、民主的な社会の建設においてこれら諸国が新しい成功をおさめるうえで、有利な条件をつくりだした。

わが党は、これまでたえずとりあげてきたように、各国共産党間に生ずる諸問題は、二党間あるいは多党間の会談での友好的な討論によって、各国の主権、各党の自由な決定を尊重し、プロレタリア国際主義の精神で検討され解決されるべきであると考える。

わが党は、各国共産党が、その政策、その行動形



態、その闘争方法を、マルクス・レーニン主義にもとづく完全な独立のもとで、自分たちが闘争をおこなう具体的な条件、自国の労働者階級と人民の利益、世界の民主運動、革命運動の利益を考慮に入れて決定すべきであるという原則を断固守っている。

したがって、わが党は、兄弟党の内部問題にたいするあらゆる干渉に反対する。

一九六〇年の八ヶ国共産党・労働者党の声明で規定されているこれらの原則にもとづいて、フランス共産党は一連の措置をとった。すなわち、ソ連共産党指導部およびチェコスロバキア共産党指導部の会談、ヨーロッパ共産党・労働者党会議をひらくという提案がそれである。わが党は、関連諸党に外部からのあらゆる軍事介入に反対であることを、はっきり知らせた。

それゆえ、中央委員会は、一九六八年八月二日の政治局声明を確認し、チェコスロバキアへの軍事介入を非難する。国際的義務を考慮に入れて、自分自身のなかに、チェコスロバキアの労働者階級と人民のなかに、社会主義諸国とすべての兄弟党の支持のなかに、チェコスロバキアにおける社会主義を擁護し、発展させるのに必要な力を見出すのは、チェコスロバキア共産党の問題である。

フランス共産党は、国際共産主義運動の統一、すべての共産党、労働者党との連帯と協力の関係、とくにソ連共産党とずっと統一してきた兄弟的な友好の結びつきを強化する努力をゆるめぬ。

同時に、フランス共産党は、平和、独立、民主主義、社会主義の民族的政策をめざす闘争を断固としてつづけていくであろう。この政策の目標、手段、条件は、その大会、とくに第一八回大会で決定されている。

フランスと世界における社会主義の敵は、この事件

国——ブルガリア、ハンガリー、ドイツ民主共和国、ポーランド——の軍隊がチェコスロバキアの領土に進駐した。

(ハノイVNA、八月二日)

## モロッコ社会主義解放党 アリ・ヤタ書記長の声明

一九六八年八月二四日

われわれは、ブラチスラバでソ連、チェコスロバキア社会主義共和国、ポーランド人民共和国、ドイツ民主共和国、ブルガリア人民共和国、ハンガリー人民共和国の共産党と政府の首脳級代表団の間で到達した同意を歓迎した。

このような同意は、帝国主義者の脅威および反革命の危険に直面して、関係諸党がしめした警戒心と責任感と同時に、われわれがたいせつにしている進歩的、反帝国主義的な人民の神聖な原則にもとづいて、諸国と諸国人民と党の主権および自主性を尊重して、兄弟的精神で情勢に対処する関係諸党の配慮とを証明した。

したがって、ワルシャワ条約国の軍隊がチェコスロバキアに進出したことを知ったときのわれわれのおどろきと苦悶も大きなものであった。

われわれは、モロッコ人民と進歩的国際世論の広大な部分がつまっている驚きと憂慮の念をともにする。わ

を利用して、かならず反共反ソのたくらみや挑発をおこなうであろうが、わが党は、全共産党員、全労働者、民主主義者にこれとたたかうようよびかけるものである。

一九六八年八月二日

(「ユマニテ」八月二三日)

## フランス共産党政治局 の声明

一九六八年八月二五日

ソ連指導者と、チェコスロバキア共和国大統領に率いられるチェコスロバキア指導者の代表団との話し合いがモスクワでおこなわれている。

フランス共産党政治局は、この話し合いがチェコスロバキアへの軍事介入によってつくりだされた重大な情勢の、積極的な政治的解決に到達することを、つよく希望するものである。

積極的解決をつうじて、なによりもまず、チェコスロバキア政府と共産党の主権およびその国際的責務にもとづくチェコスロバキア情勢の正常化を内容とする協定——それは介入軍隊の撤退を含む——を、政治局はのぞむものである。

フランス共産党政治局

一九六八年八月二五日

(「ユマニテ」八月二六日)

われわれは、チェコスロバキア人民とその労働者階級と共産党にたいし全面的に連帯と同情を表明し、かれらが直面している深刻な危機を急速に克服することをのぞんでいる。

社会主義を建設した最初の国であり、はかり知れぬ犠牲によってファシストの蛮行から人類を救出した国であり、自由と進歩のための諸国人民の闘争をつねに支持してきたし、また現在、アメリカの侵略を失敗させるために英雄的ベトナム人民を支援し、帝国主義・シオニストの侵略に反対するアラブ諸国人民を効果的に支持しているソ連は、すべての人民の忠実な同盟者、すべての正義の事業の擁護者、平和のとりであり、それはかわらない。

したがって、ソ連にたいして、「侵略者」とか「帝国主義者」という非難をおこなっていることについては強く遺憾の意を表明せざるをえない。われわれは、帝国主義者があらゆる種類の反動勢力、シオニストらや自由と進歩のその他の敵どもが、社会主義の権威を失墜させ、社会主義陣営を瓦解させ、人民の権利の否定者と資本主義的搾取者に有利なような力関係を確立するために、世界中で物知り顔に組織しているカンパニアにたいし、わが同胞たちに警戒するようよびかけらる。

われわれは、帝国主義者と反革命勢力のきたない計画を実現させないために介入しなければならぬと考えた社会主義諸国の憂慮を理解するものである。

しかし、かれらが訴えている正当性はわれわれを満足させるものではない。

われわれは、帝国主義の敵がこの新しい情勢の逆流を利用して、とくにベトナム、近東、キューバ、ドイツなど地球上の熱点で、あらたな陰謀をたくらみ、かれらの地位を強化し、失った地位を回復しようとしていることを懸念している。

## タス通信社の声明を報道したベトナム民主共和国VNAの前文

一九六八年八月二一日

今年の一月以来、チェコスロバキアの反革命勢力は社会主義に敵対する諸活動を強化し、同国の革命の成果を重大な危機におとしめ、社会主義陣営の一員であるチェコスロバキア社会主義共和国の制度と国家機構を危険にさらしてきた。

最近ブラチスラバでソ連、チェコスロバキア、ポーランド、ブルガリア、ドイツ民主共和国、ハンガリーの党、国家指導者の会議がひらかれ、ヨーロッパの社会主義同盟国の連帯と統一の精神を確認し、帝国主義の陰謀と破壊活動、反革命分子および社会主義に反対し、チェコスロバキア社会主義制度と国家の破壊をたくらむ者の敵対活動にたいする断固たる反対を言明した共同声明を発表した。

最近、チェコスロバキア社会主義に反対するこれらの反革命分子は、敵対活動をおこなない、つよめさせた。このため、チェコスロバキア共産党とチェコスロバキア社会主義共和国政府の志操堅固なメンバーは、ソ連その他の同盟国の軍隊に、チェコスロバキア社会主義制度と国家の守りを援助するよう要請せざるをえなくなった。

この気高い目的のため、今早朝、ソ連その他の同盟

われわれは、人類が第三次世界戦争の恐怖におとし入れられるのを許してはならない。

われわれは、軍事介入が、チェコスロバキアにおいて新しい経験として進行させられ、民族的諸条件によりよく合致し、また以前の指導者の無能力と失敗を非難したチェコスロバキア共産党がみずから決定しておこなっている社会主義建設の困難な諸問題の解決をばみはしないかと懸念している。

重要なことは、チェコスロバキア共産党、労働者階級、人民にかれら自身で自分の問題を解決するようにし、そのために兄弟的で平和的な、そして独立の原則を尊重するようあらゆる援助をあたえることである。

したがって、ワルシャワ条約国の軍隊ができるだけ短期間にチェコスロバキアを撤退し、それが相互の安全のためのチェコスロバキアと社会主義共同体との関係の弛緩を意味するのではなく、強化させるようにしなければならぬ。

このようにして、帝国主義反対、諸国人民の獲得物の防衛、世界平和擁護、進歩と社会主義をめざす前進のための戦線をかためることができるだろう。

このようにして、主権と独立を尊重し、プロレタリア国際主義に合致し、平等と兄弟的協力を基礎とした国際的関係をかため、発展させることができるだろう。

# ルーマニア共産党中央委員会、国家評議会、政府のコミユニケ

一九六八年八月二二日

八月二二日、ルーマニア共産党中央委員会、ルーマニア社会主義共和国国家評議会および政府の合同会議がおこなわれた。

会議には、中央委員会、国家評議会および政府のメンバーのほかに党地方委員会第一書記、労働組合、共産主義青年同盟、婦人団体その他の社会団体や大衆団体の指導者、中央紙の編集長、党と国家諸機関の責任者が参加した。

ニコラエ・チャウシェスク同志が、とくにチェコスロバキア社会主義共和国の一部社会主義国軍隊が導入された結果生じた情勢についてつたえ、ルーマニア共産党中央委員会常任幹部会と執行委員会がこれに関連して到達した、中央委員会の結論についてのべた。

中央委員会、国家評議会および閣僚会議は、こうした行為に一致してふかい憂慮を表明し、それが兄弟的社会主義国の民族主権、自由と独立、社会主義国間の基礎である諸原則、国際的諸権利の承認という一致して定められた基準の明らかな侵犯であると指摘した。社会主義チェコスロバキアの軍事的占領というこの行為を正当化することはけつてできない。チェコスロバキア共産党と人民の内部問題への干渉、チェコ

スロバキアへの軍事的介入は、社会主義世界体制、国際共産主義運動と労働運動、世界における社会主義の権威、平和の事業にたいする打撃である。わが国の党と政府、全人民は、チェコスロバキアへの軍事的介入による重大な結果を掃する唯一の道は、五ヵ国軍隊をすみやかに撤退させ、チェコスロバキア人民がその内部問題を、外部からのいかなる干渉もなしに、みずから解決することができるような条件を保障することである、との確信を表明する。党・政府および全人民は、この点でチェコスロバキアの兄弟的人民とチェコスロバキア共産党との全面的な連帯を表明し、労働者階級、農民、知識人、共産党とその指導部、国家の指導機関がチェコスロバキア社会主義社会を前進させるすべての問題をりっぱに解決するとの確信を表明する。

ルーマニア共産党中央委員会、国家評議会および閣僚会議は、中央委員会常任幹部会と執行委員会の国家間の関係の発展、独立、主権、内政不干渉、完全な平等と相互尊重などの諸原則をめざし、社会主義諸国、共産党、労働者党、全反帝勢力の統一の基礎の強化をめざした活動を一致して承認した。

またルーマニア人民の平和的な創造的労働、社会主義建設、祖国の独立と民族主権を確保するために中央委員会常任幹部会と執行委員会が提案した諸措置を一致して承認した。

明八月二二日に大国民議会特別会議を招集することを決定した。

〔スクンテヤ〕八月二二日

はまた、すべての大陸でますます多くの支持者を得、もつとも広範な層の世界の世論を動員し励ましている切実な要求なのである。

こうした状況のなかで、社会主義諸国の最高の義務は、これらの理想を生命あるものとし、平和と友好と相互尊重のなかで生きることを願っている諸国民の熱望を実際に具体化する確信をいただき、生き生きとした模範となることである。社会主義諸国と共産党および労働者党の使命は、自由と民族の独立をめざすたかいたの前進に身を置き、われわれの時代のこのような熱烈な理想の旗手となり、すべての諸国民をこのたかいたに、すなわち巨大な世界の反帝国主義戦線に動員することだ、とわれわれは考える。この目標を達成するための客観的基礎は、社会主義諸国の社会制度の一致、共通のマルクス・レーニン主義思想および共産主義運動、労働運動全体に共通する最高の利益と理想である。

ルーマニア社会主義共和国大国民議会は、社会主義の国際的威信、世界の舞台における社会主義諸国の権威、および全世界における共産主義思想の影響力にあって、社会主義諸国間の関係上のこれらの諸原則に違反し、ある社会主義国の国内問題にたいする干渉という非難されるべき手段を用いること以上に有害なものはない、という自己の確信を表明するものである。そうした手段に訴えることは、国際共産主義運動、労働運動によってひさしく非難され、すべての社会主義国からそのつど罪悪とされてきたが、ましてや、社会と民族の解放およびマルクス、エンゲルス、レーニンの思想の勝利をめざす兄弟国にたいする武力干渉と領土の軍事占領——すべての国の革命勢力のたかいたに、もつとも重大な損害をおよぼす——にいたっては、なほさらのことである。

社会主義諸国の運命にたいして責任を負い、人民の社

# ルーマニアの外交政策の基本原則にかんするルーマニア社会主義共和国大国民議会の宣言

一九六八年八月二二日

一九六八年八月二二日に特別会議を開いた大国民議会は、社会主義五ヵ国軍隊のチェコスロバキア社会主義共和国領内への進入によって生まれた情勢にともない、社会体制のいかに問わず、社会主義諸国間、世界のすべての国家間の関係にかんするルーマニアの原則的立場を、わが国の全人民と国際世論にたいして明らかにすることが必要であると考える。

党およびルーマニア国家の外交政策全体は、社会主義諸国間の友好と協力、世界の社会主義体制の統一、一部社会主義国間の関係に生まれている困難と誤解を克服するための方法の発見、国際共産主義運動、労働運動の団結の強化などの大目的を、完全な責任をもつて最優先させ、これに考慮をばらうことに貫かれている。わが国がおこなっている国際活動は、ルーマニア共産党とルーマニア社会主義共和国政府が、深い国際主義の精神に勇気づけられ、すべての社会主義諸国、すべての共産党と労働者党、および、帝国主義に反対して民主主義と社会進歩、自由と民族の独立ならびに世界平和のためにたたかっているあらゆる勢力とのあいだの兄弟的友好関係を重要視していることを、十分に証明している。

社会主義の事業と革命の利益とが、いつ危険にさらされているか、いつさらされていなければならぬかを決定し、他の社会主義国の政治的、軍事的またはその他の援助を、いつ要請することができるか、あるいはできないかを決定することができるのは、党および国家の選出された機関だけである。これらの機関を無視し、その意志をかえりみず頭越しに行動し、一部のグループや、個人から提供される一方的な、底意のある情報にもとづいてある社会主義国内の情勢を判断して、その結果として行動することは、社会主義国の人民とその国の実権をにぎる兄弟の共産党の主権という神聖な原則を足下に踏みにじり、社会主義諸国間の関係と諸国民のあいだの協力と友好の事業にとって、危険きわまる独断という状況を生み出すことを意味する。

各党間および各国人民のあいだの友好協力関係を強化することは、他の党または他の社会主義国の内部事情についての、それぞれの国のなかにおける世論にかんする、きわめて正確で客観的な情報を十分豊富に確保することと、密接な関係をもっている。このような基礎のうえにたつてこそ、はじめて諸国民は他の社会主義国の真実を知ることができるし、このようにしてはじめて、社会主義諸国間および共産党、労働者党のあいだの友好と協力の発展に役だてることができる。

社会主義諸国間に生じた意見の相違を解決するもつとも合理的で効果的な方法が、それぞれの党および国家の指導部のあいだの相互尊重と相互信頼を基礎とする同志的話し合いであり、辛抱よくて根気のよい真剣な努力によって、党のあいだの不一致をとりのぞき、社会主義国間の同志的で国際主義的な協力関係を保障するような、相互にうけいれられる解決法をみつたすことであることは、政治上の現実と実生活がこれを立証してきた。われわれは、外部から集められた情報

## 各国の党の見解

今日、拘束されない力をもって国際的に自己を主張している諸国民の何よりも大きい願望が、外部からの干渉なしに自己の意志と利益にしたがって、みずから自己の運命を決定する権利を得ることであり、自由と民族の独立をかちとってこれを守り、それぞれの国民の主権を強化することであることは周知のことである。この理想は、すべての革命勢力といたるころの広範な人民大衆のたかいたのなかに流れており、それ

大国民議会は、ルーマニア全国民とまったく同じように、社会主義制度をとる国々との同志的協力を発展させることを、とくに重視するものである。経済相互援助会議加盟諸国——これにはルーマニアも積極的に参加している——間およびすべての社会主義諸国間の経済、政治、科学および文化にかんする多面的な協力は、各国の個々の前進をはやめるとともに、全世界における社会主義体制全体の力量と威信を強化することに役だっている。

このような協力、諸国の軍事的ならびに政治的同盟の強化、諸国の統一と団結の強化、現存する意見の相違の掃などの実現に成功するための基本的条件——それらにたいして、わが党と国家が、従来からも現在も支持を表明しつづけている条件——は、マルクス・レーニン主義の原則とプロレタリア国際主義を基礎として、すなわち、すべての国の独立と主権の尊重、権利の平等と内部問題にたいする不干渉、互恵と同志的援助のうえに関係をうちたてることである。これこそが、社会主義諸国の統一にたいしてのなめ石、世界の社会主義体制を強化するうえでもつともききしめられた要求をあらわし、社会主義制度と共産主義体制への前進を左右すると同時に、その運命をみずから手にゆだねた諸国民の理想、すべての諸国民の社会的および民族的正義の理想の達成をも左右する基本的要因を意味する。

にもついで、兄弟党が社会主義国にたいして、その党と国家の指導部の頭越しにレットテルをはりつける常習的なやり方に、断固として声を大にして反対する。そのようなやり方は、諸党間および社会主義諸国間の関係を毒し、兄弟的な協力を妨げずにはおかない。それゆえにわれわれは、そのような慣行を完全かつ永久になくするよう行動しなければならぬ。それらは、諸党間および諸国間の関係がその基礎としていたる諸原則と、マルクス・レーニン主義の精神にとつては無縁のもので、それらを今後とも実生活と党活動のうえで容認することは、マルクス・レーニン主義の原則にたいする侵犯を許すことを意味する。わが党は、世界社会主義体制と国際共産主義運動、労働運動の実生活のなかで、マルクスとレーニンが考えたとおりのマルクス・レーニン主義の共産主義の諸原則、すなわち、諸民族の多面的繁栄への展望を保障するわれわれの無敵の權威の確立に貢献するため、あらゆることをなすべく断固として決意している。

それと同時に、われわれは、いかなるばあいにも、意見の相違——それは、社会主義建設、共産主義運動および国際情勢にかんするあれこれの問題に関連して社会主義諸国間に発生する可能性がある——を国家間の関係の段階にまで影響させ、そのために経済的、政治的その他なんらかの種類の圧力をかけるようなことになつてはならないと考える。

ルーマニア社会主義共和国大国民議会、党、政府およびルーマニア全人民は、もつぱら社会主義的国際主義の原則にもついで社会主義諸国との友好協力関係のなかで行動し、各国人民が自国の運命を決定し社会主義建設の具体的形態を選択する、だれもが手をふれることのできない権利を守るために断固たたくべく、決意を固めていることを宣言する。マルクス・レーニン主義の全般的な教えをそれぞれの国の具体的

条件に独自のやり方で適用し、社会主義社会を建設する実践的方法とその内外政策を確立することは、それぞれの共産党ないし社会主義国だけがもつ権限である。これを論議の対象にしたり社会主義国の内部問題に介入したりすることはできないし、また、そのようなことがあつてはならない。

ルーマニアは、兄弟的社会主義諸国との政治的ならびに軍事的同盟にたいする自国の完全な忠誠と、それらの条文を順守する固い決意とを確認し、これを、帝国主義の侵略に対抗して各社会主義国を防衛し、社会主義体制全体の国防力を強化し、世界の平和を守るための保障であると認める。

大国民議会は、友好善隣の古い伝統と国際主義的連帯関係によつて結ばれたソ連人民とのあいだの同志的友好関係を発展させ、ユーゴスラビア、ブルガリア、ハンガリー、チェコスロバキア、ポーランド、ドイツ民主共和国——ドイツの労働者農民の最初の社会主義国——、アルバニアなどの他の隣接社会主義諸国、中華人民共和国、ベトナム民主共和国、朝鮮民主主義人民共和国、モンゴルなどのアジアの社会主義諸国、およびアメリカ大陸における最初の社会主義国キューバとのあいだの同盟と永続的友好を拡大強化したいという、ルーマニア人民の願いを表明するものである。ルーマニア社会主義共和国大国民議会は、ソビエト社会主義共和国連邦最高会議、他の兄弟諸国の国会、および、すべての兄弟的社会主義諸国の政府と共産主義諸党にむかつて、社会主義体制内部の関係上の国際主義の原則を断固として推進し、それらはいかなる形の侵犯をも、また、人民の自由、民族独立および主権のどんな種類の縮小をも許さないために、あらゆることをなすよう厳粛によびかける。こうしてこそ、われわれは諸国民の信頼にこたえ、全人類の信頼と期待とを裏切らないことを証明することができる。

の組織としてしか、これを考えることができない。したがつて、条約の名のもとに企てられるどんな行為、条約の庇護のもとにおこなわれるいかなる軍事行動といえども——条約自体が規定しているように——すべての加盟国の協議と全員一致の共同決定の結果でなければならぬ。こうした規程に反する措置は、機構としてのワルシャワ条約とすべての加盟国を、けつして拘束することはできない。

ワルシャワ条約の精神によれば、加盟諸国は、帝国主義者のどんな侵略にさいしても、たがいに助けあふべき義務をもっている。民主主義の原則、憲法上の規程および条約の規定そのものにしたがつて、軍事上の援助を要請したり共同の軍事行動への参加を決定したりすることは、それぞれの国の合法的な機関だけがおこなう仕事である。それらの機関だけがそのような重大問題について決定をくだすことができるのである。

社会主義諸国の実生活のなかでひじょうに重要性をもっているのは、レーニンがのべた外交上の原則——国民全体の意志と関心を発散させる、開放的で十分民主的な人民の外交という——を實現することであつて、解放されてみずからの運命の主人公となつた人民には、国家のすべての国際活動、および、それぞれの国が約束している政治上および軍事上の条約や協定から生じるすべての義務について、情報をあたえられてこれらをよく知る権利がある。

大国民議会は、ルーマニアを他の国々に結びつけるすべての条約は、定められたとおりの形で国家の最高機関の承認をうけるべきであるし、また、他の国々にとの軍事協力にかなしてわが国の人民が負うどんな義務も、わが国の領土上における同盟国軍隊の駐留にかなする条項も、わが社会主義国の国家権力の最高機関である議会の明白な決定の結果だけに限られるものと考える。国家の公約のすべてが人民の最高の意志、

国際間の実生活が展開されるなかでは、緊張と侵略の政策を追求し、陰謀とクーデタ、諸国民の独立にたいする攻撃をたくらみ、軍隊をかりたてて世界に戦争の温床をつくりだし、これを維持している現代帝国主義の活動のために、諸国民の増大する革命的利益が特別の危険におびやかされているありさまが、はつきりと浮彫りになつてきている。このような状況のもとでは、社会主義諸国の国防力の確保と諸国の共同闘争とは、これら諸国の共産党と労働者党、政府と国家の最高機関の神聖な義務であり、自国の人民と世界の労働者階級および平和勢力にたいする、もつとも責任の重い義務である。

これらの目的にそつと、北大西洋条約機構(NATO)の侵略的ブロックがつくられたあと、ワルシャワ条約機構が設置され、ルーマニアもその創設に参加した。わが国は、祖国の平穩と安全を守る国防力と軍隊の強化にたいする固い決心を、条約に加盟する他の社会主義諸国の軍隊にたいする軍事的協力を発展させ、条約加盟国として自国が負っている義務を一貫して遂行してきたし、現在も遂行している。われわれは、NATOのブロックが存在するがぎり、ワルシャワ条約機構はこれを維持する必要があると考える。

それと同時に、ルーマニアは、ワルシャワ条約機構が外部からの侵略、すなわち帝国主義の攻撃にたいして、社会主義諸国を防衛する道具としてだけ創設されたものであることを、とくにつよく強調する。これがその機構の唯一の存在理由だつたし、現在および将来もそうでなければならぬ。どんな理由のためであらうと、いかなるばあい、いかなる形のものであると、ある社会主義国にたいする軍事行動のためにワルシャワ条約機構を利用したり、これに訴えたりすることはけつしてできない。

ワルシャワ条約は、平等な権利をもつ社会主義諸国

この精神で行動することにより、われわれは自国の人民と全世界の未来にたいする義務を果たしていることになるのである。

ルーマニアは、全般的軍縮に到達するため、そして何よりもまず、人類の生存そのものにとつての危険である原子兵器の掃蕩を、できるかぎり短期間に達成するために、人びとが断固としてたたかわなければならぬと考える。諸国民が熱核戦争の危険にたいする恐怖なしに暮らすことができるためには、これらの兵器が禁止されなければならない。われわれは人類のこの切実な要求を達成するためあらゆることをしなければならぬ。

ルーマニアは、緊張の緩和および世界の平和と安全の確保をめざし、国連諸機関のすべての活動に積極的に参加し、この組織の憲章に含まれている原則が實行されることに、とくに注意をはらっている。

大国民議会は、世界のすべての国々に、この組織のなかで国際生活の改善のために貢献できるように、われわれが国連の普遍性を達成しなければならぬと考える。国連憲章とその目的にしたがえば、この組織は、組織に加入している国の独立と主権が犯されたばあいや、一國が外国の武力干渉の対象となつたばあいや、必要な措置をとるべき義務をもっている。世界のすべての国民の主権と独立とを尊重することは、もつとも国際的な義務である。

大国民議会は、ルーマニア共産党とわが国の政府の国際主義的外交政策および外交活動にたいする完全な賛意を表明し、社会主義諸国ならびに共産党および労働者党のあいだの緊張を解消し、社会主義諸国と兄弟的共産主義諸党の統一を強化するための、党と政府のたいむない努力を支持する。大国民議会は、本年八月二日にひらかれたルーマニア共産党中央委員会、国家評議会および閣僚会議の合同会議の結論、ならび

に、この会議のさいに確認された、社会主義諸国の関係がいま経験しているこの難局の克服に、わが国が寄与するための措置を完全に是認する。大国民議会はまた、チェコスロバキアの内部問題にたいする干渉と、チェコスロバキアにたいする五ヶ国の軍事介入にたいする不承認を表明するとともに、チェコスロバキア人民にたいする軍事介入にともなってもたらされた危機を原則的に解決するためには、あらたなねばりづよい努力が必要であるという確信を表明する。社会主義と平和の最高の利益が、理性と理解と同志的精神に訴えられることを要求している。国際主義的協力の原則を勝利させ、チェコスロバキアとの関係のうえにもたらされた危機を分別をもって解決する前提をつくりだし、社会主義諸国間の関係を改善するための措置をとるには、まだおそすぎはしない。

すでに生まれている紛争を終わらせるただ一つの道は、すべての外国軍隊がチェコスロバキア社会主義共和国の領土から遅滞なく撤退し、兄弟のチェコスロバキア人民、党、およびチェコスロバキアの合法政府が、外部からのいかなる干渉もなしに、みずからの国内問題を解決することができるような条件をつくりだすことである。チェコスロバキアの法律で定められた党機関と憲法上の国家機関とが、経済、政治および社会生活を指導する活動をおこなうことができ、したがって、それらの機関だけがチェコスロバキアの現在の危機の解決方法を討議することが、きわめて重要である。大国民議会は、兄弟のチェコスロバキア人民、この国の共産党と政府、および合法かつ憲法的に選出された諸機関の、チェコスロバキア社会主義を進展させるといふ国内問題をりっぱに解決し、生じた困難を克服して社会主義と共産主義の道にこれらの祖国を確実に前進させる能力にたいする、われわれの全面的な信頼を表明する。

このところ、大国民議会は、すべての勤労人民、労働者階級、農民、知識人および全人民にむかって、党と政府が立案した国家の多面的な発展計画を履行し、社会主義建設の巨大な任務を履行し、経済、科学、文化および芸術を前進させ、大衆の生活水準とわが社会主義国家の発展の水準をひきあげる党の政策を履行するために、これらの努力を倍加するようよびかけている。

大国民議会は、党、政府および国家の最高機関の、国の内外政策の立案、実行および国事の解決にすべての国民を積極的に参加させ、社会主義的ヒューマニズムにしたがって各人の個性が多彩に実現され、各個人の精力や技術や能力を社会と社会主義の利益になるよう発展させることを保障する、社会主義的民主主義の原則をわれわれの社会生活全体の基礎として、社会主義建設の事業をさらに高い段階にひきあげるために、あらゆることをする固い決意をここにきかざして表明する。われわれは、わが国の人民が、これらの任務を履行するうへでいかなる努力もおしむことなく、その戦列を党と国家の指導部の周囲にますます強く結集し、われわれの革命の利益と国家の独立と主権を守るだろう、というわれわれの確信を表明する。国家の主権と独立は、ルーマニア人民が、共産党を先頭として、曲折に富んだ歴史の歩みの果てに、はげしいたかいと犠牲によってかちとった貴重な財産である。

だからこそ、党と政府の推進している政策が、民族のいかにかわからず、すべての働く人びととわが社会主義の全国民によって信頼とかがりない献身をもつてうけいられ、かれらの基本的な望みと願い、今日の世代だけでなく明日の世代をもふくめて、わが祖国の最高の利益を忠実にあらわすものと考えられているのである。こうした政策をたゆみなく実行することにより、ルーマニア人民は、社会主義のわが祖国に

たいするかれらの神聖な義務だけでなく、世界の革命的反帝戦線の積極的な国際主義的分遣隊としての義務、ならびに、社会主義諸国の統一、すべての国民の協力と友好、および全世界の平和と安全保障という大目的にたいする義務をも遂行しているのである。

〔スクンテヤ〕八月二三日

## ルーマニア共産党中央委員会の前で開かれた集会でのチャウシェスク書記長の演説

一九六八年八月二二日

親愛な同志諸君、

親愛なルーマニア市民諸君、

兄弟国チェコスロバキアの人民とヨーロッパ情勢にこの困難な瞬間にあつて、わたしは、中央委員会、国家評議会、政府を代表してみなさんに挨拶し、わが祖国の平和的的社会主義建設を保障するルーマニア人民の決意にたいする全面的な信頼を表明したい。

社会主義五ヶ国軍隊のチェコスロバキア進入は、大きな誤りであり、ヨーロッパの平和と世界における社会主義の運命にこの重大な危険である。(拍手、叫び)

諸国民が民族独立を守り、権利の平等をめざすたにかいにたちあがっている今日の世界で、ある社会主義国が、また社会主義諸国が他国の自由と独立を侵害動を是認する共産主義者は、どこにもみあたらず、チェコスロバキア人民が、またどの国の人民もかれらの願いのままに社会主義社会を建設できるよう、すべての共産主義者が、自由の促進とマルクス・レーニン主義の諸原則の発展のための声をあげることを確信している。

われわれは、チェコスロバキア人民が、平静のうちに活動できるよう、外国軍隊のチェコスロバキア進入によってつくりだされたこの事態のもっともすみやかな解決の方法の発見に寄与するため、全力と全責任をもって行動することを決意している。われわれは対立を除去し、社会主義諸国、共産党の統一を強化するため、他の社会主義国、他の共産党、労働者党とともに行動することをかたく決意している。われわれはこのようにして、わが国民の利益、全世界の社会主義の利益に奉仕できると確信している。(拍手)

われわれは、祖国の市民に、党と国家の指導者および完全な統一を示しているわが共産党を全面的に信頼し、冷静にかつ断固として行動するよう要請する。わが社会主義社会の発展のためのプログラムの実現を保障するため、一人ひとり、その活動の場で努力を十倍にしなければならない。同志諸君、準備しよう、いかなる瞬間にもわが社会主義祖国ルーマニアを守るため。(拍手、歓呼、ながい叫び)

われわれは、首都の全市民の今夕の熱烈な意志表示を、また、祖国の全住民のわれわれにたいする信頼を、わが党の政策にたいし、支持している諸君の関心を感謝する。わが祖国の社会主義の勝利のために、諸君の健康と活動の成功を祈る。(拍手、叫び) 諸君、諸君は、われわれが事態のなりゆきをひきつづき知らせることを確信して、活動にもどらねばならない。

同志諸君さようなら！ (ながい拍手、叫び)

〔スクンテヤ〕八月二三日

するということは、考えられないことである。兄弟の社会主義国の内政への軍事干渉の思想を片時たりとも許すようなような正当化もありえず、どのような理由も承認できない。(拍手、熱烈ながい叫び)

先週チェコスロバキアを訪問したわが党の国家代表団は、チェコスロバキア人民、チェコスロバキア共産党、チェコスロバキア労働者階級、老人、婦人、青年が一致して、過去からうけついで否定的な状態を正常化し、同国の社会主義の勝利を保障するために努力している党および国家指導部を支持していることを確認した。(拍手)

社会主義建設の道の選択の問題は、それぞれの党、それぞれの国、それぞれの人民の問題である。他国に社会主義が建設されるべき方法についてはなにものも忠告者、指導者としてふるまうことはできない。われわれは、社会主義諸国、共産党間の関係を真にマルクス・レーニン主義の基礎のうえにおくため、他国あるいは他党の内政にたいする干渉に完全に終止符をうつべきだと主張するものである。(熱烈な拍手、ながい叫び)

中央委員会、閣僚会議、国家評議会がとることを決定した諸措置は、われわれが社会主義諸国、世界のすべての国との関係を、独立と民族主権の尊重、完全に平等な権利、内政不干渉のうえにきざす方法と解している方法を精密にした宣言を大国民議会で提出することを含んでいる。われわれの願いは、これらの関係をマルクス、エンゲルス、レーニンの思想の勝利、共産主義の勝利に寄与し、マルクス・レーニン主義的協力のうえにきざすことである。(拍手、熱烈ながい叫び)

われわれは、今日より、わが社会主義祖国の独立の擁護者である労働者、農民、知識人からなる武装愛国組織を編成することを決定した。(熱烈な拍手、叫び)

われわれは、わが国民がその革命の成果を守り、平和な労働、社会主義祖国の独立と安全保障を確保するものにするため、みずからの武装部隊をもつことを望むものである。(拍手、熱烈ながい叫び)

われわれは、民族の相違にかかわらず、人民に、すべての働く人びとにおおっているわれわれの義務にもとづいて行動を開始する。われわれのすべて、ルーマニア人、マジヤール人、ドイツ人、その他の民族の人びとは、わが祖国に共産主義を建設するという同じ運命と同じ熱望をもっている。われわれは、この理想の実現を保障することを一致して決意している。(拍手、ながい叫び)

チェコスロバキアには反革命の危険があったと言われた。おそらく、明日は、だれかがここにも、この集会にも、反革命の傾向があらわれたと言おうだろう。われわれはかれらのすべてに答える、全ルーマニア人民は何人にもわが祖国の領土を侵すことを許さない。

(嵐のような拍手、ながい叫び) みたまえ、同志諸君、ここにはわれわれの中央委員会、国家評議会、政府全部がある。われわれ一人ひとり、社会主義を建設し、革命の成果と国の独立を守るため人民に忠実に奉仕することを決意している。(拍手、叫び)

ここにいるわれわれの多くは、投獄と死に直面したところのある共産主義者であり、反ファシストである。しかし、われわれは、かつして労働者階級、わが国民の利益を裏切らなかつた。同志諸君、ルーマニア市民の諸君、われわれがけつして祖国を裏切らないことを信じよ、われわれはだんじてわが国民の利益を裏切らないだろう。(拍手、歓呼、叫び)

われわれは、各国の共産党、労働者党が、革命運動史におけるこの恥すべき瞬間をもっともすみやかにおわらせるといふ決意の方法を知っていると確信する。われわれは、チェコスロバキアにたいするこの軍事行



# IV ハンガリー反革命事件について

(歴史的文献)

## ハンガリー社会主義労働者党へのメッセージ

一九五七年一月二日

日本共産党中央委員会

アメリカ帝国主義は、わが日本を支配し、さらに世界を支配するために、わが美しい祖国の全土に七〇〇ちかい軍事基地をつくっています。そして戦後一一年の長い間、わが国の売国的反動勢力と結託して、わが労働者階級と全国民を搾取し抑圧してきました。しかし、労働者階級と勤労人民は、アメリカと日本の反動勢力の支配と搾取に反対し、平和、独立、民主主義をまもるために、今日まで、果敢にたたかいつづけてきました。

したがって、わが勤労人民の多くは、アメリカ帝国主義が、きわめて残忍で、陰険であり、帝国主義的野望をたつためには手段をえらばないということをよく知っております。ですから、ハンガリーにおいて、反革命暴動がおこされたとき、われわれは、それがエジプトにたいする公然たる武力侵略とまったく同じく、アメリカを先頭とする帝国主義者とハンガリーのファシストどもの陰謀であり、社会主義政権をたおして、ファシスト政権をうちたて、戦争の基地をつくらうとしているものであることを見破ったのであります。同時に、われわれは、あらゆる困難にうちかかって、その陰謀と攻撃を粉砕して、勝利されたハンガリー

社会主義労働者党とハンガリー人民のたたかひの苦しみをも、勝利の喜びをも、身をもって理解することができますのであります。

われわれは、ハンガリー人民の英雄的な奮闘とソヴェト同盟の適切な援助が、ハンガリーにおける社会主義を防衛し、世界の平和を守るうえで決定的な役割りを果たしたと信じております。もし、エジプトにたいする攻撃で帝国主義者が勝利していたならば、もし、ハンガリーにたいする攻撃で帝国主義者が勝利していたならば、狂暴な帝国主義者はそこを足場にして世界の全人民のうえにおそいかかり、第三次世界大戦の危険はいっそう増大していったであらうでしょう。われわれは、ハンガリー社会主義労働者党とハンガリー人民の、苦難にみちたたたかひとその勝利にたいして、心からの敬意を表するものであります。

ハンガリーにおける情勢と、党と人民の勝利の経験は、われわれを限りなくはげましており、また、貴い教訓をわれわれに与えました。そのひとつは、帝国主義者はけっしてやすやすとは、その権力を労働者階級の手にわたさないし、たとえ一度は手渡すことをよぎなくさせられたとしても、たえずその隙をうかがっ

## ハンガリー人民の勝利とプロレタリア国際主義

一九五六年一月六日

「アカハタ」主張

ハンガリーにおける反革命の支配の危険、資本主義体制復活の企図は阻止された。新しく成立したハンガリー革命労働政府はソビエトの援助のもとに、ハンガリー人民のちからで社会主義的成果をほうむり去らうとした反革命分子の陰謀を粉砕した。残酷なテロルでハンガリー労働者階級の先進分子を抹殺しようとしたくらんだ反動グループの残党は鎮圧され、武装解除されている。社会主義的成果をまもるために全力を結集せよとの新政府のよびかけはハンガリーの労働者階級と愛国者との間に大きな反響をよび、ハンガリー人民は新政府の周囲に結集して、社会主義の事業と民族の独立、人民民主主義をまもりぬこうとする力はつよまりつつある。

ハンガリーの事件の発展は複雑な経過をとった。人民民主主義と社会主義体制の基礎の上に立って、そのなかにある欠陥をすべて完全にのぞき去らうとするハンガリー人民の正しい要求から始まった大衆運動に、大衆の不满を利用してこれを人民民主主義の廃止、資本主義復活の軌道にみちびこうとする反動分子の活動がいりまじり、帝国主義者の援助を受けた反革命分子がテロルを發展させて、ナジ政府を混乱におとしつけ、その行動を左右して反革命の完全な勝利にみちびこうとする重大な危険が生まれるにいたったのである。ナジ首相は、はじめは社会主義の事業に忠誠を誓ったが、反革命分子の活動をおさえる力がなく、これ

を自由に發展させたばかりか、ついにはみずから社会主義と民族独立の原則を侵犯して帝国主義勢力の干渉をもとめるところまで転落するにいたった。

ナジ政府の事実上の崩壊、帝国主義者のろくな援助を受けた反動分子の荒れくるうテロルによって、混乱の極にたつたハンガリーを反革命の危険から救うために、ナジ政府を脱退したカダル書記以下の勤労者党幹部が新革命政府を組織し、社会主義的成果をまもり、反革命を粉砕するために適切な手段をとったことは、ハンガリー労働者階級と人民の利益に正しくこたえたものである。新革命政府はハンガリーを社会主義の偉大な理想を実現させる道に前進させようとかたく決意しているハンガリー人民の力に基礎をおいている。

ハンガリー新政府と人民の人民民主主義体制をまもり、祖国の真の自由と独立をまもろうとするたたかいは疑いもなく、全社会主義諸国ばかりでなく、全世界の労働者階級、勤労者の熱烈な支持を受けるであろう。

反革命の危険を粉砕したハンガリー人民の勝利はソヴェトの援助によつてえられた。アメリカをはじめ各国の帝国主義者、日本の商業新聞は、これを「ソ連のハンガリー武力制圧」であり、「内政干渉」であると非難をくわえている。だがかれらはこんどハンガリーの革命勢力に気狂いじみた攻撃を加えた反革命分

て、あらゆる残酷な攻撃を加えてくるということであり、したがって、われわれは一刻も革命的警戒心をゆるめず、党の団結を固め、人民との結びつきをいっそう強めなければならないということであり、また、もうひとつの教訓は、プロレタリアートの国際連帯性が、いまこそますますその重要性をまわしてきたということであり、したがって、われわれは排外主義や民族主義などのあやまった思想と行動を双葉のうちから克服して、マルクス・レーニン主義の思想、プロレタリア国際主義の思想で党を武装するとともに、各国の党相互間の友好的批判と協力をいっそう強めて、その国際的団結を、より強固にしなければならぬということであり、日本共産党は、これらの教訓から学んで、アメリカと独占資本を中心とする国内の反動勢力の反人民的政策を粉砕し、わが国の政治を平和共存と完全な独立の方向へかえさせるために、全力をつくしてたたかうつもりであります。

親愛なるハンガリー社会主義労働者党の同志のみなさん、

マルクス・レーニン主義の旗のもとに固く団結し、世界平和と社会主義勝利のために、ともに奮闘しましょう。

ハンガリー社会主義労働者党とハンガリー人民に光あれ！

マルクス・レーニン主義の旗のもとに！  
一九五七年一月二日

日本共産党中央委員会

子に帝国主義者がおしみなく資金をあたえ、亡命反動政客や、武装反革命分子をオーストリアから送りこんだ事実については、口をぬぐって沈黙をまもっている。アメリカ政府が東欧社会主義諸国の転覆を公然と主張し、破壊活動のために一億ドルの資金を供給しているのは有名な事実である。宣伝文気球やラジオ放送、流言卑語作戦、反動地下運動の組織などの長期の破壊活動の結果が、こんどのハンガリー反革命分子の暴行となって実をむすんだ。この反革命分子はハンガリーの党と政府の過去のあやまりを利用して、愛国、独立、自由のスローガンをかけ、自由の闘士の仮面にかくれて勤労者をひきつけようとしているが、その中核は革命前のファシスト政権、ホルティ政権の徒党であり、ハンガリー民族の独立と自由の裏切者としての悪名たかい歴史の持主である。かれらの社会主義への敵意、資本主義の復活の企図は、はやくも、人民のものとなった企業の旧資本家への補償、土地の旧地主への返還などの要求をもちだそうとしていることにはあらわれていた。社会主義ハンガリーこそ民族と自由を守り、ハンガリーを繁栄と幸福の道に向わせることができる。

反革命分子と帝国主義者が結合して拡大したハンガリーの流血の事件と反革命支配の危機にたいして、ハンガリーの社会主義的成果と人民民主主義体制をまもるためにできるだけの援助を与えることは世界労働者階級の重要な責務であり、社会主義国家が援助を与えることは当然である。それは社会主義の利益になるばかりでなく平和と独立、民主主義の事業のための利益である。

ワルシャワ条約にもとづいて与えられたハンガリー人民にたいするソヴェト軍の援助は、このプロレタリアートの利益にこたえた崇高なプロレタリア国際主義のあらわれである。反革命の脅威をうち破り、ハンガ

リーの社会主義事業を救い、人民ハンガリーの独立と自由をまもるためにたたかっていたハンガリーの勤労者とソヴェト軍にたいして、日本の労働者階級は連帯の意

志を表明せずにはいられない。それは労働者階級の解放の道をまもったものである。

## ハンガリー社会主義労働者党全国協議会（一九五七年六月二七～二九日）における「政治情勢と党の任務についての中央委員会の報告」から

# 十月反革命と中央委員会の政治路線

ヤノシ・カダル

われわれの党会議は、すでに合意をみているように一月にとられた断固たる措置と昨年一月以来中央委員会がおこなってきた政治路線を確認し承認しなければならぬ。この会議は、規約草案と党の指導機関を補強するための諸提案を討議し確認しなければならぬ。これらの措置は、われわれの党会議の任務と考えられるべきものである。

これらの任務を成功裏に解決しながら、われわれは党内に一時的におこったものすべてに終止符をうつであらうし、党大会が開かれるまでに正常な党生活の条件を確立するであらう。

反革命暴動は、党、人民そして全国にきわめて重大な打撃をあたえた。深刻な打撃に加えて、この重大な打撃は、たとえそれが高価なものであったにせよ、もし正しく利用されるならば、社会主義建設の道にそってより急速に、より成功裏にすすむ可能性をわれわれに提供することになる経験と教訓を党と人民にあたえた。

を正しく利用し、労働者階級、人民の力を結集し、一九四五年から一九四八年にかけて、ふたたび一步労働者と農民の国家、プロレタリア独裁を建設した。党は、権力をめざす闘争の時期に多くの偉大な闘争をたたかい、また権力がちとられ、完全に発展したあとの時期にも多くの偉大な闘争をたたかった。これらの偉大なたたかいは、いつも勝利した。党は、土地改革の実施、工業の国有化、重工業の発展、農村の社会主義的改革の開始という闘争を指導した。党は、これらの偉大な社会的目的を堅持しながら、その政治闘争をたたかった。大衆を獲得し人民にたいするブルジョアジーの影響をつねに弱めていくという政治闘争の道具を使って、国の解放後、ハンガリーにあったブルジョア政党的活動家を政治舞台から敗退させた。政治闘争のその後の段階で、わが党は、社会民主党の誠実な大衆と指導部のもっともよい同志と協力して、最終的に、ハンガリー労働者階級の偉大な歴史的事業である労働者階級の統一、二つの労働者階級の統一のためにたたかい、勝利に導びいたのである。これは、プロレタリア独裁、労働者と農民の国家の完全な建設と政治権力の獲得を完成した。

それゆえに、われわれは、一九一八年以後、すなわちハンガリー労働者階級の革命的前進党があった時以来、党の目的の基本的方向は明白な、そして正しいものであったし、この道にそって前進する偉大な成果を記録したということが出来る。

## 一九四九年から一九五三年までの偉大な成功と誤り

一九四九年から一九五三年の期間は、もっとよく分析しなければならぬ。わが党の歴史のこの時期は、まず第一に大きな積極的な成果によって特徴づけられ

反革命暴動の教訓に関連して、国内国外で、敵が、党と共産主義は危機にある、マルクス・レーニン主義は古くなったといっていることに注意すべきである。反革命攻撃の事実、ハンガリーにおいていちばん最初にまさに反対のこと、すなわち共産主義の強さとマルクス・レーニン主義の正しさを証明している。反革命攻撃は、例外なしに、一世記をへたマルクス主義の教えのすべての点の正しさを証明した。百年前マルクスによって提起されたテーゼであるブルジョアジーと労働者階級の和解することのできない矛盾は、十月に爆発的な力をもってその姿をあらわした。レーニンは、修正主義者その他の小ブルジョア分子が、「純粋民主主義」とか自由を要求してプロレタリア権力に攻撃を加えた時のソ連共産党の一九一七年当時の闘争のなかで、これらの要求は、現在の条件のなかではプロレタリア権力によって鎮圧されたブルジョアジーの要求であることを指摘した。レーニンのこれらの結論は、われわれの場合にもまったく同様にその正しさが

る。しかし、一九四九年以降に否定的な側面が成果とともに、拡大しはじめたことをつけ加えなければならぬ。わが党とわれわれ自身の活動をみる時、われわれは、否定的な側面が、権力を完全に獲得した後にはあらわれたということ、——たぶん、最初は指導部の実践活動のなかに、しかし最終的には、党活動一般のなかにあらわれ——それが、実際には、どのような大きな障害にぶつかることもなく進行しえた時期にあらわれたということ、はつきり認識しなければならぬ。同志諸君、われわれは、われわれの経験にもとづいて、個々の共産主義者にとっての正当な教えは、労働者階級の革命的政党的全体にとってよいことであると信じている。権力の獲得は、党と個々の共産主義者とを重大な試練にたせた。なぜなら、もしわれわれが、一九四五年から一九四九年のあいだに党がおこなった闘争をふりかえってみるならば、われわれは、それについてのよい思い出だけをもっている。この時期には、党は、政治的な説得によって勤労人民の信頼と支持を獲得した。そして残された諸問題を解決することが可能であった。なぜなら党は、すでに成功的に任務を遂行していたからである。その後、権力がわれわれの手にはいったとき、うぬぼれが進行しはじめた。権力は、偉大な力であるだけでなく、党と個々の共産主義者にとって危険をひめているものであるということが証明された。

うぬぼれと独断は、権力獲得後の党にとつてきわめて重大な危機となりうる。わたしは、なんの誇張もなく、これは、われわれにとつての偉大な教訓の一つであり、十月の事件でとくにあきらかとなったということ、ができてと信じている。なぜなら指導的な地位にいる同志、また下級機関で働く同志にも、権力獲得以後、幻想が広まりはじめたからである。これらの同志は、われわれが、警察、検事局、裁判所、軍隊等々と

証明された。ソ連共産党二〇回大会のいくつかのきわめて重要な結論が、十月の事件によって同様に証明された。二〇回大会で、一連の事態の分析とともに、帝国主義の冒険的政策、経済問題の優先性、そして集団指導の重要性の分析がおこなわれた。そして、これらの諸問題にかんする結論は、わが国でおこった重大な事件の経過によって同様に証明された。同時に、近年中国の諸同志によってひきだされた人民内部の矛盾、人民と人民の敵との矛盾に関連した、またいかにして、どのような状態のもので非敵対的矛盾が敵対的矛盾に転化するかを指摘した理論的諸結論の正しさが証明された。

マルクス・レーニン主義の助けをかり、個人的な偏見をすてて、わが国でおこった事件の根本的な問題を検討することが、この党会議の任務である。

## 党創立以来の党活動の基本的方向は正しかった

十月の事件を正しく評価するためには、われわれは過去をふりかえり事態をみることが絶対に必要である。十月に敵は、ハンガリー労働者階級の革命的党を葬った。周知のように、ハンガリー労働者階級の革命的党は一九一八年、まず第一に労働者階級を結集し、貧農と広範な人民大衆一般を結集した。人民の先頭に立つてすすむ党は、一九一九年、ブルジョア権力を打倒し、ハンガリー労働者階級の最初の光榮あるプロレタリア独裁をめざした。党は、偏向をとまないながらも確固たる決意をもって二五年間ホルティのファシズムにたいし地下から闘争した。ハンガリー労働者階級の党は、ソ連軍の愛国的解放闘争によってヒトラー・ファシズムとホルティのファシズムが敗北したことによってかちとられた解放後の喜ぶべき歴史的条件

いう権力の道具をコントロールできるとすれば、他の言葉で表現すれば、もし、敵を「造作なく処分する」ことができるならば、日常の活動のなかで大衆を獲得するということは、もはや重要なことではなくなったと考えた。わたしは、これが誤りの最初の根元であると考えている。もしこのような観点が党活動全体のなかで、多かれ少なかれ優勢を占めるようなことがなかつたならば、権力の獲得が、重大な誤りの一時期をつくりだすようなことはなかったであらう。もし、われわれが、そのかわりに、大衆のすべての質問に答えなければならなかった一九四五年から一九四八年にわれわれがやったと同じように、勤労大衆、とくに労働者の党活動にたいする意見と評価に首尾一貫した注意をむけていたならば、このようなことは排除できたであらう。巨大な工業の進歩が、一九四九年から一九五三年のあいだになしとげられた。同時に、農村の社会主義的変革の開始と文化革命の分野で大きな成果がおさめられた。しかし、これらのすばらしい成果は、個人崇拜とそこからおこる誤り、法の侵犯、組織上の誤り、労働者階級と農民との関係における不健全な傾向をともなった。中央委員会が——すなわち党自身が、そしてそのことがきわめて重要な点なのであるが、一九五三年六月にその当時党の実践活動で発見された誤りを暴露した。

中央委員会自身が個人崇拜によってひきおこされた害を指摘し、集団指導と党生活のレーニン主義的基準の回復、法の侵犯をとりのぞくこと、組織上の誤りの訂正、そして労働者階級の生活水準の改善に注意を払うことを呼びかけた。それゆえに党中央委員会は、その時に支配的であった状態を正しく分析し、すべての根本的な誤りを暴露し、これらを、いかにしてただしていくか、その道を正しく示した。一九五三年六月の決議についてのこのきわめて重要な事実をふりかえ

つてみるいくつかの理由がある。党は誤りをただすことからはじめなければならない、それは、誤まりを率直に認め、その根元を明らかにすることによっておこなわれなければならない、そのなかで党と人民の権力の權威が高まるであろうとのべて、その分析をおおえている。これは、絶対に正しかった。しかし、誤りを正すことをはじめるとの最初から、誤まった手段がとられた。分析に関連したところで、イムレ・ナジ一派が、一九五三年六月に、党の誤まりに気づき、それを暴露したという主張をふくむ敵によってなされた宣伝には、真実のひとかけらもないことをつくくわえておかなければならない。この事実を強調しておくことは、きわめて必要である。なぜなら、イムレ・ナジ一派は、誤りの暴露についてまったくにもしなかったからである。

決議を執行するうえで二つの極端な誤りがあった。第一には、イムレ・ナジに、誤りの訂正について高い重要な役割があたえられたことである。あとで明らかになったように、イムレ・ナジは、まったくこの役割に適していなかった。かれは、党と人民の権力の權威を回復して高めることを目的としなかった。反対に、かれは、党と人民の権力をいっそう弱めることをめざした。この事実、かれの最初の行動から明らかで、とてあつたが、それは、もつとも不幸なことであつたといわなければならない。党生活の正しい実践として以前おこなわれていたように党の中央委員会が党によって暴露された誤りを党員と人民に語り、その誤りをただすための必要な措置について語ったのではなかった。そうではなく、その当時、首相であつたイムレ・ナジが議会で、党の誤りを国家の観点から、党の基準についてはなにも語らず、また党によって誤りが暴露されたという事実についても一言も語らず、党の誤りについて批判したのである。この最初の行動は、くり

かえしていうが、不幸なことであり、それにともなつて、その後の混乱がおこつたのである。

正しい分析を首尾よく遂行していくうえで第二の障害になつたのは、——そしてこのこともかならずのべておかなければならないことだが——ラコシ同志にひきいられる一部の同志たちは、必要な時期に必要な範囲でかれらの過去の誤りと絶縁することができなかつたか、あるいはその意志がなかつたということである。それゆえに、事態は、イムレ・ナジとその政治的友人たちが、一方で、一九五三年に暴露された誤りの急速な、たゞしい、大胆な克服と完全に矛盾する政治目的を追求し、他方で、ラコシ同志と若干の同志が、かれら自身の誤りに目を向けることに抵抗するというなかで発展していった。これらすべての要因が、党と国家の活動における誤りを正すために党の力を動員することを不可能にした。それゆえに、シグザグと急変が、一九五三年六月から一九五六年七月のあいだ、党の政治路線にあらわれたのである。

### 誤りの訂正をおくらせることは、以前の誤りよりもより大きな害をもたらす

極端な変化は、はかりしれない破壊的な作用をもたらした。仕事の成功は、もちろん、まず政治路線が正しいか、わるいかによつてきまるものである。しかし、正しい政治路線にそつた事件でさえ、このような極端な変化は、大衆にはかりしれない害をもたらすものである。このことを理解するのは、むずかしいことではない。党員とハンガリーの一般的な世論が、一九五三年六月まで、わが党中央委員会と党一般について高い評価と広い信頼をよせていたことを、われわれはよく知っている。世論は、成果のみではなく、活動に

いる。党員と人民は、すべての環境のもとでこのことを理解したし、いまでも理解している。活動のなかに誤りはおこる。重大な誤りがおこる場合もある。しかし、かれらは、指導者が、全世界で認められ、またよく知られた古い、めづらしくもない誤りをくりかえしたならば、その指導者を、けつして理解しないだろうし、忘れないであろう。このような実践は、党指導部と国の指導者の權威を破壊する。だから、わたしは、誤りを正すために三年間おこなわれてきた論争は、一九五三年に暴露された誤りより以上に、党と大衆の關係に大きな害をもたらしたといいたい。

この結果、党員とわが国の勤労人民の大きな部分が一九五六年の春、深く進行する正当なうらみを発展させた。国内における階級敵と国際帝国主義は、巧妙にそしてたくみに誤りの是正がおくれていること、またこの点で三年のあいだに、かなり増大した大衆の正当な怒りを利用した。これらが、中央委員会の一九五六年七月決議がおこなわれた当時、支配的であつた情勢である。

ハンガリー反革命事件について  
中央委員会の決議は、党と国全体の生活に転換点となりうるものであつた。これは、正しい決議であつた。この正しい評価は、われわれの現在の闘争においても、きわめて重要なものであるが、この中央委員会の七月決議は、われわれに、正常な方法で、党、国と人民の生活における欠陥と誤りを正し、除去する一つひとつの政治的条件を確立した。諸君はこの決議を知っているの、細部にたちいる必要はないと思う。しかし、われわれは、この決議が、それを決定した中央委員会のみならず、おおぜいの党員と非党員によつても積極的に評価されたということを指摘しなければならぬ。わたしは、七月決議に関連して開かれた大衆集会や会議を、いま諸君が思い出すようともめる。わたしは、ここにいてすべての人びとが、何がおこつた

かを正確に覚えていと思う。中央委員会はその時わたしを、たとえバグダドに派遣した。わたしは、党員と非党員を含めて一万八〇〇〇人の勤労者が、サルゴタリヤンの中央広場に集まつたのを思い出す。ここでは、党の実践活動の初期におきたすべての誤りについて語られたが、中央委員会の七月決議が、正常な手段によつて誤りを正すための条件をもたらしたということにも言及された。同志諸君、人民は七月決議を歓声をもつて迎えたといはしい。大衆集会が、約三週間にわたつて開かれた。大衆は、決議に接し、七月決議の実行を援助するため最善をつくすというかれらの意志を表明した。これは、昨年八月の初旬に支配した政治情勢であつた。ある程度、敵は困惑した。おそらく、諸君は、中央委員会七月総会以後二、三週間のあいだ、この三年間のうちはじめてイムレ・ナジやその他に関連した乱暴な臆測、うわさ、あるいは新しい要求がなかつたことを思い出すであろう。敵は困惑した。あきらかに、敵は、もし党が、たとえば一年間、中央委員会の七月決議の路線にしたがひ、誤りを正し党と人民の権力の權威を高める方向でしっかりと活動するならば、深刻な政治的打撃をうけるであろうということを認め、敵もまた情勢をくわしく研究した。敵は、もしそのようなことがおこつたら、かれらは、ハンガリーではたいした仕事にはならないということを知つていた。敵は、そのために党とわが国の人民が正常な方法で誤りを正し、また積極的な成果を守り維持するのを妨害するために攻撃と猛襲に勢力を集めた。これが、かれらが攻撃をしかけた理由であつた。かれらは、もし中央委員会の七月決議が一日々々実行されていったならば、そして党の權威が傾かなかつたら、また不満が勤労人民のなかに増大していかなかつたら、事態は、逆になり、敵はその基礎を失うであろうということを知つていた。

おいて誤りがあつたことを知つた時、疑いもなく驚いた。しかし、いくらか低下したとはいえ、この信頼の基礎を保持しながら、もし党内外の世論が、党は誤りを暴露し、その克服のための必要な方法をみいだすことができる政治的、道徳的力をもつていて、ということを確認していたならば、仕事をにつけることは可能であつたであろう。なぜなら、党にたいする信頼は、誤りを訂正することから生ずる諸結果とともに、拡大したであろうからである。そして最後に、中央委員会の權威は、党員の前で高まり、党の權威は、非党員大衆のなかで高まつたであろうからである。大衆のなかに存在した信頼は、一九五三年の誤りの暴露のあとでさえ、人民は、中央委員会の分析に同意し、自分自身の仕事の分野で以前おこなされた誤りを、新しい路線にそつて、正していくことを開始しはじめていたということを示していた。一方、このような時によくあるように、地すべりがおこつた。ある人びとは、党の新しい路線を、あまりにも遠くまでおしすすめようとする誤りをおかした。しかし、党員と非党員の人民一般は、新しい路線を受け入れ、それにしたがつて活動しようとしていた。しかし、かれらがこの発展の一定の段階に到達した時、突然、党の政治路線は結局、正しくなく、従来の方針に実際にはもどらなければならないということを知らされたのである。これは、第二の衝撃であつた。かれらは、やつと新しい決議を理解し、その実行に着手した矢先に、党の政治路線は正しくないとわられたのである。この影響は、不幸なものであつた。一九五三年六月に暴露されたように、計画化、法の順守、農民政策などでおこなされた一定の誤りが、党と国と人民に重大な損害を、あきらかにもたらした。しかし、わたしは、これらの誤りを訂正するなかでおこなわれたことは、はじめの誤りよりも十倍も有害なものであつたといつてさしつかえないだろうと思つて

これは、修正主義者をさばく問題の観点から、きわめて重要な政治問題である。アメリカ帝国主義やホルティ・ファシストたちは、ハンガリー人民共和国を絞め殺し、破壊しようとしたことをかくしはしなかつた。しかし、イムレ・ナジ修正主義者らは、誤りを正すことだけを要求しているのだといつた。もし、それが真実なら、なぜ、かれらは敵の陣地にたゞ足を踏みこませ、ハンガリー人民共和国と党にたいする反革命軍事暴動をはじめのを助けるかわりに、中央委員会の七月決定を支持しなかつたのだろうか。これは、かなり重要な一つの事実である。

### 反革命攻撃にさいしての党の立場

一〇月二三日から一二月四日にかけての時期についてのべなければならぬ。それは、党と人民の権力にとつて後退と敗北という危機的時期であつた。帝国主義者、ホルティ・ファシスト、復活したブルジョア政党的右翼の指導者と右翼社会民主主義者が、党を攻撃した。不幸にして、党と人民の権力にたいして攻撃するかれらに誤つて導びかれた青年——学生と学生以外の青年——と混乱した勤労人民が、反革命を支持しているとは意識せずに加わつた。しかし行動によつて、かれらは、実際に反革命を支持した。党と人民の権力にたいし、強力な攻撃が展開された。中央委員会は、しかし、党指導部内に裏切りがなければ、これらの勢力は党と人民の権力を乗りこえるような力とならなかつたであろうと信じている。イムレ・ナジ、ロソンジ、ドナスその他の反逆行爲により、われわれは、とりでのなかに包圍される立場におきかえられ、その間、かれらは敵と共謀して、最終的に敵に門戸を開いた。

イムレ・ナジは、一〇月二三日の夜から二四日に





かった。かれらは、もちろん外からあらゆる種類の圧力をもちこんだ。ゲオルギ・ルカーチ同志は、五分ごとに、ある大学で、かれらが集まって、電話をまったり、もしわれわれが新しい共産党を組織するよう決定しなければ、かれらは、われわれを除外して別の共産党をつくるだろうと、われわれを悩ました。われわれは、結局決定に同意するまで一日半のあいだ討論した。

中立とワルシャワ条約の問題についても同じような投票がおこなわれた。ドビ同志は議会で、このことについてすでにのべていた。これもまた、まる一日討論された。われわれは、政府がブダペストのソ連大使館と問題を討議するまでに、どんな状態のもとでも決定を阻止するため——決定は単純多数でおこなわれる——まる一日たたかった。くりかえしているが、これがどのように事態がすすんだかということである。

なぜ、わたしはここで、これらのことについてのべているのだろうか。中央委員会の決定は、二三日の夜、イムレ・ナジが共産主義者をやめ、敵に降服したことを知り得なかったという事実によって正当化しようものではない。われわれがあとでこなした決定は、その決定がおこなわれた状態からいって遂行しようものではない。しかし、わたしは、諸君が事件を知り、その後おこなったことを理解するためその時支配的であった実際の状態を知らなければならぬと思う。党、政府、閣議の指導部内に、事態のなりゆきは、人民共和国を救う方向ではなく、その破壊にむかっていることに気づいたいく人かの人びとがいた。そして、公然たる白色テロが開始され、共産主義者を虐殺し始める時がきたのである。決裂をこれ以上のばすことができない時がきたのである。われわれが、もつと早く決裂していかなかったことは残念であるということをつけくわえておかなければならない。

わが党にとって決裂は一月一日におこった。わたしは、一月二日あるいは三日には、まだわたしの名前が政府名簿にのっていたが、一月一日、イムレ・

ナジとその追従者とすべての接触をきった。そのころ、かれらは、ながい間、わたしをさがした。ミュンニヒ同志とその他の同志が、わたしをさがしたようにした。一月二日、われわれは、直接的に、あるいは間接的にソ連の同志、他の人民民主主義諸国の指導者、国際労働者階級運動の指導者と交渉をはじめ、反革命にたいする闘争が課している諸問題を検討し、ハンガリー人民共和国にどのような支援をあたえることができるかをたずねた。交渉は二日にはじめられ、三日に決定がおこなわれた。そして攻撃は時をむだにしないために一月四日にはじまった。なぜなら一日一日何百という勇敢な共産主義者と忠実なハンガリーの愛国者が生命を失っていたからである。この決定に達した時のわれわれの目的は、武器をもって反革命を粉砕し、人民共和国の諸秩序を回復することであった。われわれは、わが国の内部問題にたいする帝国主義者の干渉に先んじなければならなかった。なぜなら帝国主義の手先は、公然とブダペストを歩きまわり、あれくるっていたからである。イギリスの大使館付武官やその他のハンガリーの問題に干渉した。ブダペストのアメリカ公使館は、暴動に奉仕する二つの放送局を設置した。またもし、宣伝の必要があれば、「自由ヨーロッパ」放送その他敵意あるいくつかのラジオ放送に数分以内に、ハンガリーで起きたすべてのことが知らされた。これも、また阻止しなければならなかった。そして明らかに党をあらたに組織しなければならなかった。なぜなら党なしに人民共和国の事業は防衛できないからである。これが、われわれの目的であった。

### ハンガリー社会主義労働者党の プロレタリア独裁をめざす闘争

これらの目的を実現するためには、イムレ・ナジ裏切者一派を当然葬り去った新しい党指導部の組織化が要求された。またイムレ・ナジ裏切者一派を葬り去った新しい政府を樹立する必要があった。この問題は、

いは農村青年同盟だけがあるよりははるかによいという前提から出発した。なぜならば、これらの組織が、その隊列に青年をひき入れたとしても、だれも、かれらがブルジョアによって導かれているのか、プロレタリアによって導かれているのか、またかれらが社会主義革命を支持しているのか、反革命を支持しているのか、わからないからである。われわれが、この提案をした時、青年のなかで活動している五、六名のわれわれの指導的な同志は、この点にかなる意見でほとんど二つによって青年をより速ぎけてしまおうのではないかと懸念があった。

同志諸君、わたしがこれらの問題に言及するのは、われわれは党会議への信頼と支持を必要とするからである。われわれはなにを正しくおこなわなかったか、なにを正す必要があるかを諸君がわれわれに語ってほしいと思う。しかし、われわれが、あゆんだ総路線が正しかったかどうか、たとえば、一月一日にわれわれが敵と取引しない、われわれは裏切者と交渉しない、だから大衆はわれわれを支持してくれるであろうと同志たちに語ったことが、正しく答えたことになったのかどうかということについて、われわれは、確信を得る必要がある、またそれらが望ましいと思う。(拍手) 青年同盟に申しあげれば、事件はわれわれの正しさを証明したと信じている。その当時、懸念をもっていた若い同志の恐れた、平静にもどった。かれらは、青年が共産主義同盟によって「おどかされる」かもしれないが、結局はそう恐れていないということがわかつている。

この種の問題のなかで、きわめて重要な問題であるが、われわれが指導部のなかに教条主義とセクト主義的誤りに責任をもつものとして世論にもわれわれにも知られている以前の指導部の同志をいれなかったという事実である。われわれは個人的に、これらすべての人びとがまじめな人びとであり共産主義者であると考

あなたがたが別の方法で知っているように、その党の指導部の組織化が大会の規約に厳格にしたがっておこなわれなかったということを、あらためて諸君に知らせ、ふたたび討議しなければならない問題である。党規約は神聖な偉大なものである。しかし同志諸君、わたしは、党規約もまた社会主義革命の事業をまもるために存在しているものと信じている。その当時、党規約がないとはいえず党指導部を組織することが正しいか、あるいは正しくないかを判断するのは、諸君の仕事である。われわれは、ここで、政府の組織の正しさを別個の問題としてとりあげているのではない。なぜならば、われわれはこの問題を、国の法秩序の回復の最後の行為として議会に提起し、ハンガリー人民の代表によって、たった一票の反対もなく承認されたからである。党指導部と新しい政府の樹立はもろろん仕事のはじまりを意味するだけである。われわれの政治路線は、社会主義に忠実なハンガリー労働者階級と全ハンガリー労働人民に支持をよびかけており、同様にソ連、社会主義陣営、他の兄弟の共産党、労働者党からのプロレタリア国際主義にもとづく支持をもとめた。なぜなら、われわれは、われわれの原則に立脚しており、人民の権力のために人民とともにたたかたい、国際プロレタリアートの連帯とともに国際帝国主義に反対してたたかうという目的から出発していたからである。

この期間党と政府の指導部で働いていた人びとのグループについて率直に申しあげたい。またそのグループが活動していた環境について率直にのべたい。誤解のないようにしなければならぬ。われわれがおこなったことがすべて完全であり誤りのないものであったというような幻想をわれわれはもっていない。指導部で活動しているわれわれは、どこでわれわれは誤ったか、どこでわれわれはおくれたか、どの点でもっと事態を改善できたはずであるかということはいちばん知っている。われわれが活動した環境についてふれようとしているのは、わたしには別の目的が心にあるか

えている。ある人びとは、まもなくかれらの古い望みをとりのぞくことができるだろう。ある人びとは、もう早くないかもしれない。われわれの立場は、われわれをはじめは右に、それから左にむきさせる危険をさけるため、現在の党の指導部に古い誤りに責任をもつ個人やグループがあつてはならないということであった。これらの同志が、この問題について自分の意見をのべる必要がある。それはとくに最近、さまざまな理由でいろいろな問題に不満をもっている。若干の同志は、むろん会議で公然とはなく他人との会話のなかで、現在の指導部を非難して、前指導部は遠ざけられているとべているからである。かれらによれば、これは党にとって利益にならないらしい。われわれは、事態の現在進行している道が党にとってよいものであると確信している。同志諸君、それがよいのは、わたしはあえてここで確信をもって申しあげるが、いま指導部で活動している同志は、そのポストをさがし求めた人ではないからである。これらの人びとは、良心にしたがい、共産主義者になった以上、真に共産主義者として自分を証明すべき時がきたことを感じ任務をひきうけた人びとである。われわれは安易にわれわれの職務を引き受けたのではない。われわれの職務を遂行することを共産主義者としてのわれわれの義務であると感じたからである。そして、わたしたちは時がきて、もし党内で「おまえたちは、正しく活動してない、お前たちはしりぞいた方がよい」といわれるならば、われわれは自分のポストにしがみつこうとは思わないということをつけくわえていっておきたいと思う。このことを諸君が知っておく方がよいと思う。ことに指導部にいる人びとは、権力を求めた友人たちではない。これらの人びとは、活動が再組織された時、権力のために一定の人びとを排除したのではない。われわれの事業の利益を考慮したためであった。そして、もし諸君がこのことに同意されるなら、党は将来もこのように導びかれなければならない。

### ハンガリー反革命事件について

らである。多くの人びとは、情勢が一般的におさまり、党活動が正常にもどりはじめた最近、われわれをすどく批判している。たとえば、一月のわれわれの措置の一つは、正しくなかった、二月に「ネッブ・サバドサグ」などによくない論文があらわれたり、などとわがわがしている。かれらが指摘しているように、事実、解決を必要としている問題、今日にいたるも解決されていない問題がある。しかし同志諸君、われわれは、どのようにしてわれわれの勢力を結集したのかというを見つめなければならない。身近かにいるものなからわれわれの勢力を結集したのである。健在していた者すべてに、いっしょにゆこう、同志よ、われわれはしなければならぬ仕事があることだ。われわれは、一月一日、われわれの中央委員会の最初の会議をひらいた。その時出席したのは全部で二三名であった。わたしは想い出すところによれば、四名が——かれらはまったく誠実に行動したと思つてよいのだが——この中央委員会の会議で、つぎのような提案をおこなった。ユーゴスラビア大使館でイムレ・ナジ一派と交渉をはじめよう、そしてかれらと同意に達しよう、なぜならわれわれの基礎は、弱すぎるからだという提案であった。イムレ・ナジが独立した農民党をつくることを許し、わが国にハンガリー社会主義労働者党とイムレ・ナジに導かれる一種の農民党という二つの政党の存在を認める考えが、また提起された。

事態はどのように進行したかを示す他の例をだそう。われわれは二月に青年共産主義同盟が必要であるという考えをだした。古い世代であるわれわれがこの提案をおこなった。われわれはその時、青年共産主義同盟を設立するために青年のなかですごい闘争をしなければならぬ立場にあつたことを知っていた。しかし、われわれは、同盟員数が多くても少くても、共産主義の原理に同意するならば青年共産主義同盟があつた方が、ただ青年の組織として大学、高等学校校

## 基本的な成果、それは、われわれが反革命を粉砕し生活が正常化したことである

われわれが、中央委員会の政治路線を確認し承認することをこの党会議に期待している時、われわれは、この路線が理論的概念によって構成されているものではないことを指摘しなければならぬ。問題は、困難な事態のもとで実践的につくりだされた政治路線であるということである。そして、この路線の正しさと弱点は、検討され審判をうけるであろう。これが、わたくしにわれわれの成果について率直にのべなければならぬ理由である。

成果に関連した決定的な事実は、反革命勢力が武装闘争によって粉砕されたか、害のないものになったか、裁判にふせられたか、国外に追放されたか、あるいは結局、地下にもぐらされたかということである。しかし事実は、事実である。反革命は現在、ハンガリーで力をもっていない。これが基本的な要因である。国家権力、人民の権力の諸機関、議会、閣議、行政機関、各省、工業、商業の管理、武装勢力、軍隊、国内の保安勢力は、新しく組織されたか、軍隊の場合のように隊列が計画にたがって補充されている。かつての国家保安警察員であっても、兵隊、警官、あるいはいわゆる市民共産主義者であったとしても、反革命にたいする党の闘争のなかで武装闘争に結集しハンガリー人民政権を武器でもった同志たちは、われわれの尊敬をうける偉大な価値を有する人びとであるということ、なんらちゅうちゅうすることなくいかなければならない。労働者民兵が、現在の公共の安全と秩序、国家武装勢力のきわめて重要な要因であるということもまたのべられなければならない。労働者民兵を組織した同志たちは、武器をもつてみずからすすんで、社会主義の成果を守った。労働者民兵は、同等の権利をもったハンガリー人民共和国の武装勢力の一部である。

り、ハンガリー人民共和国の武装勢力は現在、軍隊、内務省の武装勢力と労働者民兵からなっている。

生産を回復する面でも成果がおさめられた。ハンガリーの国民経済は、あとでのべるように一定の欠陥から解放されていないとはいえ、全体として回復した。われわれは社会主義工業と商業を防御した。農業の社会主義セクターは、集団農場の場合、それは弱められ、あるいは不完全であるにしても、生きつづけ活気づいている。とくに、集団農場が反革命の圧力をうけていた状態のなかで強制をうけずに成功的に反革命のあらしに抵抗したことは特記されなければならない。このような状態のなかで集団農場は動揺しなかった。解放されていた一〇〇以上の集団農場が再建された。しかも中央の機関は、集団農場が、国家と党に援助をもとめる正当な権利をもっているにもかかわらず援助をあたえることができない状態のなかである。文化、公共教育、科学その他の研究所がわが国の生活のなかに回復したことを成果のなかにつけくわえることができる。ウイーンの新報「デル・アベンド」は、「太陽がしずみ、ハンガリー人民共和国は生存をやめるであろう」と一〇月三十一日号の論文に書いた。われわれは、太陽がしずみ、それから多くの時間がたつたが、ハンガリー人民共和国はやはりここにありたいことをいまだもどんだことがあってもいい。それはいま存在しているし、反革命攻撃のあらしのなかで、きたえられた。実際、ある面では、攻撃の直前の時期よりいまの方が強くなった。われわれが、よく活動すれば、より強くなるであろう。そしてその時、われわれの人民の権力にたいしてこのような反革命攻撃を組織することは不可能になるであろう。

ハンガリー労働者階級とハンガリー人民のすぐれた戦闘的武器である党の再建は、当然、成果のなかにいられるべきものである。六月一日現在、三万六〇〇〇人の党員がいることは周知のところである。三万六〇〇〇人の党員のうち五七％は労働者であり、全党員の三〇％は生産に従事する労働者で構成され、一

六・七％が農民である。それゆえ、党の社会的構成は健全なものとみなすことができる。たった三ヵ月前に発足した組織である青年共産主義同盟は、六月十五日現在、一万人以上の同盟員をもっている。党と青年組織の再建について語る時、われわれは、ここでまた、「自由ヨーロッパ」放送が、その一月の放送のひとりで、皮肉に「党はどこにあるのか」といったことを思い出さす。われわれは、一月一日のこの質問について、「自由ヨーロッパ」放送、国内の反動と国際帝国主義にたいし答えることができる。党はここにある、とわれわれは答えることができる。ハンガリー労働者階級の革命的政党は、生きており、その機能を完成しつづつある。それは、労働者階級、全人民を指導している。それは、人民共和国を守り、社会主義社会建設の偉大なすばらしい事業を指導している。(嵐のような拍手、党万歳の叫び声。われわれが歩んできた道にかなする一連の問題をしめくくるにあたって、われわれは、成果はつきりの点に帰するものであることを強調しなければならない。

一、党の一貫したマルクス・レーニン主義的路线と、党が非党員を指導しているという事実。  
二、労働者階級と労働大衆の支持。  
三、ソ連、社会主義陣営、国際労働運動の国際主義的支持。

同志諸君、これをもって、中央委員会の政治路線に基礎をあたえようとしたわたしの報告の一部を終りたいと思う。わたしは、この政治路線について意見をのべ、政治路線から落ちていたかもしれない側面を追加し、またそれを承認することによって政治路線を強化するため発言したいと思われ人びとの意見を求める。諸君がこの路線に賛成するかどうか、また支持する用意があるかどうかわれわれに語ってもらいたい。(ハンガリー社会主義労働者党中央委員会発行「インフォメーション・プレティン」一九五七年八月号より。なお、この報告の後半部分「党の現在の立場と任務」は省略しました)

# V その他の他の研究資料

## チェコスロバキア

### 共産党規約草案

(抜すい)

チェコスロバキア共産党は、祖国に社会主義および共産主義の綱領的目的を実現し、人間の完全解放のための諸条件をつくりだすために結集した進歩的で政治的に積極的なあらゆる社会階層の構成員の自発的な同盟である。

党は、社会主義社会の人道主義と民主主義は、人間の物質的、文化的、倫理的必要をみたし、人間の個性を全面的に発揮するための可能性を開発することであると考える。

チェコスロバキア共産党は、マルクス・レーニン主義の科学的な理論と方法から出発して行動する。社会科学の最新の認識と社会的実践との結合にもとづいて、その創造的応用と発展のために努力する。世界における社会主義勢力と資本主義勢力の間の階級的敵対の客観的な存在から出発して、党はブルジョア・イデオロギーのあらゆる形態にたいして一貫してたたかう。

チェコスロバキア共産党は、わが人民の民族的、民

主主義的、革命的伝統と革命的労働運動の進歩的伝統をうけついでいる。党は、搾取階級の打倒と社会主義建設に勤労人民をみちびいた。党は社会主義の基本的価値の一貫した護り手である。社会主義社会のいっそうの発展に努力するにあたって、わが諸民族の生活の具体的条件から出発し、かれらのなかに社会主義祖国の一員であるという意識を育てる。党は国際共産主義運動、革命運動の不可分の構成部分である。党は、わが国の具体的条件において創造的方法で、共産党、労働者党、とくにソ連共産党の経験を利用する。プロレタリア国際主義と社会主義的愛国主義の諸原則にもとづいて、ソ連人民、社会主義諸国民、およびすべての国の働く者とのチェコスロバキア人民の兄弟的関係と協力を強化する。帝国主義にたいする闘争で、社会主義運動、革命運動、民族解放運動、平和運動を支持する。

共産党は、社会主義社会ですべての階級と社会階層の進歩的で長期的な利益を現現することを目的とする。党は、社会の共産主義的編成を歴史的使命および自己の利益とする労働者階級が、社会主義および科学技術革命の過程の中心的社会勢力であるということから出発する。農民および知識人とかく同盟した労働者階級は、それゆえに、共産主義社会への社会主義的社会的発展全体の不可欠の支えである。この場合、この階級自身は階級的敵対の消滅後に変化し、その社会的役割を果す形態もまた変化する。この歴史的役割において、労働者階級は他にかわられることはできない。共産党はすべての社会階層と青年に依拠して行動する。

政治的、社会的諸関係の制度における指導的かつ統合的勢力としての党は、科学的分析にもとづいて社会

主義社会発展の綱領と構想を完成し、その遂行のために働く者を組織する。

代表機関の行動の民主主義的諸原則とすべての人に対するその責任を支持し、それが人民の真の代表者となつて、人民の社会主義的業績をまもり、社会主義的合法性を厳守するように努力する。

国民戦線を、決定された社会主義綱領遂行の共同参加と共同責任の上にもとづいて、勤労者の社会団体と他の諸政党との協力の基礎と考える。チェコスロバキア共産党は、たえまない思想的、政治的イニシヤチブと政治組織者の行動にもとづいて、国民戦線における自己の指導的、政治的役割をたえず新たにす。党はその力が人民およびその生活と必要との密接な結びつきにあることを自覚している。それゆえに、自己の行動によってたえず人民の信頼と自発的な支持をもとめて、人民の統制にしたがう。

現在、社会的利益の統一と多様性の上にもとづいて、たえぬ階級矛盾のない、自由な、民主的に組織され、ひじょうに国際主義的な、社会的に公正な、労働の質と成績に応じて報酬を支払う社会としての社会主義の発展のために努力する。柔軟な経済制度をもち、生産力を集中的に発展させる工業的に発達した社会。その豊かな資源によって、りっぱな文化的生活と、人間の相互協力の同志的関係を可能にし、人間の個性の発展のための場を段階的に開く社会。党の最終目的は、階級のない共産主義社会を建設することである。そのため、党はたえず社会主義的生産関係および社会関係の発展と強化に努力する。社会主義的民主主義の発展と共産主義的人道主義の完成のために努力する。チェコスロバキア共産党はひじょうに人民的な党で

あり、進歩的、革命的、民族的伝統の息子として、チエコ人とスロバキア人のよりよい未来のために努力する。社会の統合者として、チエコスロバキア社会主義社会におけるチエコ民族、スロバキア民族、およびすべての民族の完全な平等と発展のために努力する。同時に、民族主義に反対してたたかい、社会主義的国際主義にもとづいて、わが諸民族の勤労者の間の兄弟的関係を深める。

党は、わが国における社会主義、民主主義、人権、自由、共産主義の人道的理念のための、わが諸民族のたたかひにおける前衛的使命を維持したいと考える。人民への奉仕と進歩のなかに、自己の中心使命を見いだしている。

### 第一章 党生活と党活動の基本原則

第一条 チエコスロバキア共産党は、民主主義的中央集権制にもとづいて活動を展開する。

民主主義的中央集権制とはつぎのことを意味する。科学の最新の認識に依拠する創造的マルクス・レーニン主義活動の成果としての党の綱領と政治路線の民主主義的創造。諸見解の対審と、共産党員および非党員のみならず提案の審議。

党員および下級組織機構の党政策の創造と実現への参加と、実践におけるその正しさの不断の検証。全党員に平等な、党政策にたいする見解を表明し、党の立場で自分の意見をまもり、提案をおこない、いかなる党員、組織、機関にたいしても批判できる機会均等。

党の指導機関と統制機関のすべての組織は、下部からの、役員の民主的な選挙、評価、統制によつてつくられなければならない。

党機関は定期的な会計報告をおこない、その選出組織にたいし、また、それをうづめて全党員にたいして、活動報告をおこなう。下級組織と機関は、その活動と党決定の実行について、上級機関に報告する。綱領的文書と上級機関の決定は、下級組織、機関お

に参加する。

(c) 党内および社会で、批判的、同志的關係の発展のために努力し、すべての働く者の民主主義的権利と自由を護る。

(d) 党内および市民生活において、正しくつぱらに行動する。

(e) 自分のマルクス・レーニン主義の知識を深め、それを社会主義社会の進歩的発展の成功のために利用する。

(f) 専門的知識と資質をのびし、党、市民、労働の義務を模範的に遂行することによつて、党の権威と活動能力を強化する。

(g) 定められた額の党費をおさめる。

(h) 自分の基礎組織にたいして、職場と居住地のあらゆる変化について報告する。

労働者、農民、職員、学者、芸術家、すべての市民に訴える

## 二 千 語

わが国民の生活は、まず戦争によつておびやかされた。ついで国民の精神的健全さと性格をおびやかす諸事件をもつた悪い時期がやつてきた。国民の大多数は、社会主義の綱領を期待もつてうけられた。しかし、その実施は、不適当な人びとにゆだねられた。かれらに政治家としての経験や実務的知識、哲学的教養が欠けていたとしても、かれらがもつ常識と節度をもつており、他人の意見に耳をかたむけることができ、次第に才能をそなえた人びとと交代していくことを認めていれば、それほど問題ではなかつたであろう。

よびすべての党員の義務である。

第三条 民主主義的中央集権制の精神にのっとり、少数は多数にしたがい、定められた決定を実行する。少数はつぎの権利をもつ。

(a) 自分の見解を明確にのべ、その記録を要求する。

(b) 自分の意見を保留し、実践における新しい認識と採択された決定の検証にもとづいて、党のそれらの組織または機関において、自分の見解の再審議を要求する。

少数意見者にたいしては、党の綱領と規約に原則的に対立しないかぎり、イデオロギー的手段によつてのみ働きかけることが許される。

規約の枠外の少数支持者の形成、独自の分派的規律をもつ党員集団の創設は許されない。

第三条 個人の手に権力が集中しすぎるのを防ぎ、停滞を克服し、党機関の新しい力の流入を確保するために、選挙と選挙にあつては、つぎの原則が適用される。

(a) 党、国家、公共の指導的職務を結合しないこと。これらの職務を、一人の人間に結合することは、個人の特権的地位を可能にし、その統制を弱める。

(b) 一人の人間に、いくつかの重要な党の職務を集中しないための条件をつくりだすこと。

(c) 基礎組織を例外として、役員は同じ機関に、二年の選挙期間では最高三回連続、四年の選挙期間では二回連続して選出されることができない。例外的な場合には、機関内の任期を一任期延長することができ、例外は、会議または大会の議員の三分の二の多数によつて承認されなければならない。

### 第二章 党員

第一条 党の綱領と規約を認め、政治的大衆活動への参加と社会主義社会発展への参加を希望し、一定の党組織で積極的に活動する決意をもち、党費をおさめる、一八歳以上のチエコスロバキア社会主義共和国

戦後共産党は人民の大きな信頼をえたが、次第にその信頼を公共機関におきかえ、そのために党がえたのは公共機関ばかりで、そのほかにはなにもなかった。われわれはこういふわねなければならず、われわれのほかの共産党員たちもこのことを知っており、この結果にたいするかれらの失望は、その他の人びとの失望と同様にひじょうに大きかつた。指導部の誤まつた方針は、党を各政党、イデオロギー同盟から権力組織に転化させた。それは権勢欲のつよいエゴイストや非難すべき臆病者、やましい人びとにとつてひじょうに魅力的なものになった。これらの人びとが党に流入したことが党の性格と行動に影響をあたえた。党は、現代世界に適應できるようにたえず党をかえていくこうとして、正直な人びとに、恥ずべき行為をせざるに影響をおよぼすことができるような状況にはなかつた。共産党員の多くは、このような堕落とたかつたが、そのおもむくところをどうすることもできなかった。

共産党内の状態は、国家内に同様の状態をおこさせるモデルであつたし、原因ともなつた。党が国家と結びついたために、党が行政権力から離れていることの利点を失う結果になつた。国家と経済組織の活動は、批判されることがなかつた。議会は審議を、政府は統治を、指導者たちは指導を忘れた。選挙も意義をもたず、法律は重みを失つた。われわれは、委員会に送つた代表を信頼できず、また信頼したとしても、なにも頼むことができなかった。かれらにはなにも言うことができなかったからである。さらに悪いことは、われわれがもはや相互に、ほとんど信頼できなくなつたことである。個人ならびに集団の信用はなくなつた。誠実さだけでは、どこにも通用しなくなつた。才能に依つた評価といふことを話しても無駄であつた。したがつて多くの人びとは関心を失ひ、自分自身のことと金のことだけに関心を払うようになった。人びとの間の関係は悪くなり、働くよるこびが失われた。要するに国民の精神的健全さと性格が脅かされる時期が国民のうえに訪れたのである。

の市民は党員となることができる。

第十九条 すべての党員は、党内では、性別、人種、国籍、出身社会、教育、職務、社会的地位に関係なく平等である。党員は、いかなる人種、社会的、民族による差別およびこのような意見やイデオロギーの普及ともあひない。

党員であることによつて、いかなる特権も利益も得ることはない。自覚的な規律は、功績や職務に関係なく、すべての共産党員にひとしく適用される。党員はつぎの権利をもつ。

(a) 党の綱領、規約、政治路線、戦術の創造と実践に参加する。

(b) 党の機関に選挙し、選挙され、また辞表を提出する。

(c) 党政策のすべての基本問題、党機関およびその党員の活動について知らされる。所属する組織と機関の活動についてのいかなる情報や文書も要求する。

(d) 党の会議と党出版物で、党、全党機関、および職務に関係なく全党員の活動にたいして、公開で批判的に自分の意見を發表する。

(e) 多数の意志を尊重し、遂行しながらも、自分の意見を保留し、新しい認識と採択された決定の実践における検証にもとづいて、党のそれぞれの組織または機関において、自分の見解の再審議を要求する。

(f) チエコスロバキア共産党大会にいたるまでの党機関にたいして、質問、忠告、提案を提出する。

(g) 自分の活動が評価され、本人について決定がおこなわれる党の組織と機関の会議に参加し、自分の活動と行動にたいしてとられる意見や忠告を知り、それにたいして自分の見解を主張する。党の問題で、チエコスロバキア共産党大会にいたるまでの党の機関にたいして訴える。

党員は、つぎの義務をもつ。

(a) 党および他の組織で積極的に政治活動をおこない、党政策を貫徹し、そのために市民を獲得する。

(b) 党規約をまもり、党決定を遂行し、党員会議

こんちのちの状態については、われわれすべてに責任がある。われわれのなかでも共産主義者のそれはさらに大きい。しかし、おもな責任は、無制限の権力の一部、あるいは道具となつた人びとにある。それは、党機関の助けによつて、プラハから各地区、各地域にいたるまで配置されている一部の頑固なグループの権力であつた。この機関は、人が何をし、何をしてはならないかを決め、協同組合農民にかわつて協同組合を、労働者にかわつて工場を、市民にかわつて国民委員会を運営した。どの組織も実際にはその組織の成員のものではなく、共産党でさえ例外ではなかつた。これらの支配者の主な犯罪と最大の欺瞞は、自分たちの勝手な行為を労働者階級の意志としておしつけたことである。もしわれわれがこの欺瞞を信じようとするならば、わが国経済の沈滞の責任、無実の人びとにたいする罪悪の責任、これらのすべてについて書くことを妨げた検閲制度実施の責任を労働者に負わせ、また誤まつた投資の責任、貿易停滞の責任、住宅難の責任を労働者に負わせなければならなくなるだろう。理性的な人なら、だれも労働者にこんな責任があるとは信じていない。われわれはみな、とくに一人ひとりの労働者は、労働者が実質的にはなにも決定権をもつていないことを知っている。労働者の役員たちに、賛成投票させていたのはだれか他のものであつた。労働者の多くは、自分たちが主権者だと思つていたにもかかわらず、実際に労働者の名において支配していたのは、とくに訓練された党機関および国家機関の指導者層であつた。かれらは事実上、打倒された階級にとつてかわり、かれら自身があらたな支配者となつたのである。しかし、公正にいうならば、かれらの一部は、この悪い役割にずつと前から気づいていた。いまではわれわれは、かれらが不正をただし、誤まりをあらため、党員と市民に決定権をかえし、官僚機関の権限と定数を制限していることから、それがだれであるかを知っている。かれらは、われわれとともに、党員のなかにある時代おくれの見解に反対している。しかし、指導



的人びとの多くは、変革に反対し、いまだに重きをなしている。かれらは、いまだに権力手段をもっている。とくにだれにもとめられることなく、かげで権力手段を使える地方や市民のなかでとくにそうである。

今年のはじめに、われわれは、民主化の再生過程にある。それは共産党内ではじまった。われわれは、このことをいかなければならないし、もはやここからなにも良いことを期待してはならない。われわれのなかにいる非共産党員たちもこのことを知っている。もちろんこの過程がほかで始まりえなかったというところをつけ加えておく必要がある。まる二〇年間、共産党員だけが政治生活らしい生活をするのができたのであり、共産主義者の批判だけが事柄にそったものであったのであり、共産党内の反対派だけが敵対者と接触する特権をもっていたのだから。したがって、民主的な共産党員がインシヤチブと努力は、不平等な立場におかれていた非共産党員にたいして党全体の負っている債務にたいする決済すべきでない。だから共産党に感謝する必要があるが、自分ならびに国民の名譽を救う最後の機会を利用しよう。再生過程は、とくに新しいものはなにももたらしていない。それは思想やアイデアをうみだしつづけるが、その多くはわれわれの社会主義の誤りよりも古いものであり、その他は表面的な過程のもつとにうまれ、つづつ前に表明するべきものであったが、抑圧されていたのである。われわれはこの思想がいまや真実の力によって勝利しつつあるなどという幻想をいだくのはやめよう。これらの勝利をきめたのは、旧指導部の弱さであった。それは明らかで、だれもそれを妨げなかった二〇年にわたる支配によってつづつ弱体化すべきものであった。それは明らかに、この制度の基礎とイデオロギーのなかにすでに潜在していたあらゆる悪い要素が完全な形をとるまで成熟すべきものであった。したがって、われわれは、作家や学生をあいだからおこった批判を過大評価してはいない。社会的変革の根源は経済である。正当

な言葉は、すでに正当にできあがっている条件のもとでいわれてはじめて意義をもつ。正当にできあがっている条件とは、残念ながらわが国では、われわれの全体としての貧困、ある種の政治家がわれわれの犠牲において静かに平和に名声を失っていった旧支配体制の完全な崩壊と解すべきである。だから真理は勝利するのではなく、ほかのものすべてがぬぐいさられたときに、あとに残るだけである！ だから国民の勝利を祝う理由などはなく、あらたな希望をもつ理由があるだけである。

われわれは、この希望の瞬間に諸君によびかける。しかしこの希望は、たえず脅かされている。われわれの多くが発言できるに信じていない人びとが大勢いる。だが、われわれは信じている人びとが大勢いる。人間的なものにするという自己の意図をわれわれはあくまでなげなければならぬ、ということに明らかになった。でない、旧勢力の報復はきびしいものとなった。われわれは、いまのところ、ただ待つだけであつた人びとに主として訴える。きたるべき時期は、長年にわたって決定的な時期になるだろう。きたるべき時期は、古い習慣どおりにすべてを放棄したくなくお祭りや休暇の時期である。しかし、賭けてもよい、どの敵も夏の休暇をさしひかえ、義務のある人びとを動員し、もういまから静かなクリスマスに準備しようとするだろう！ それに反応するよう努力しよう。いつもだれか上部の人に唯一の理解と唯一の解釈と唯一の単純な結論をあたえてもらおう。といった不可能な要求を放棄しよう。各人が自分の結論をくだし、自ら責任をとるべきである。共同の一致した結論は、討論をつうじてはじめて発見可能であり、そのためには、言論の自由が必要である。それは、今年われわれが民主的に獲得した唯一のものである。しかし、われわれは、今後、独自のインシヤチブと独自の決意をもつてすすまなければならない。

まずわれわれは、共産党員なしに、あるいはかれらに反対して、何らかの民主主義の再生が可能だという意見がでてきたばあいに、それに反対するだろう。それは正しくないし、不合理である。共産主義者は、整備された組織をもっており、そのなかで進歩派を支持する必要がある。かれらは経験ある指導者を持ち、決定権をもにぎっている。しかし、かれらの行動綱領が公衆に提示されている。それは最大の不平等をさいしよに調整する綱領でもあり、他のだれもそのような具体的綱領をもっていない。各地区、各地域の住民にそれの行動綱領を提示するよう要求すべきである。そうすれば、きわめてありふれた、つづつとまえから期待されていた正しい活動が突然問題になる。チェコスロバキア共産党は、新中央委員会を選出する大会を準備して、新中央委員会が現中央委員会よりもいっそうよくなるように要請しよう。こんにち共産党が、その指導的立場を力に依拠させるのでなく、人民の信頼に依拠させたいといっているとするれば、げんざいすでに地方および地区の会議に代議員として送っている人びとを信頼できるかぎりにおいてこれを信じよう。さいきん、民主化の前進がとまった、と不安を感じている人びとがいて。この感情は、部分的には激動による疲れのあらわれであり、部分的には、一連のおどろくべき暴露、高官の辞任、かつたない大胆な発言の魅惑などが過去のものになってしまったなどの事実に対応するものである。しかし諸勢力のたまたまの、ある程度かけにたくれただけで、法律の内容と表現法、実際の措置をめぐっておこなわれている。そのほか、われわれは、新しい人びと——閣僚、検事、議長、書記たちに仕事を時間を与えなければならない。かれらには、それを有益にするか、無駄にするか、いずれにしてもこの時間を要求する権利がある。そのほか中央政治機関ではこんにち、それ以上のものを期待することはできない。同時にこれらの機関は、不本意ながらも、おどろくべき美徳を發揮したのである。こんどの民主主義の実際の内容は、企業がどうなる

か、企業内がどうなるにかかっている。われわれの全討議をつうじて、結局は、経営者たちがわれわれを支配している。われわれは、立派な経営者をつつだし、適所に配置しなければならぬ。たしかに、先進国にくらべれば、われわれはみな収入は悪く、一部のものはもっと悪い。われわれは、金をもつと多く要求することはできる、それは印刷することができ、それによって価値がさがってしまうだろう。むしろわれわれは、企業責任者や議長にたいし、なにをいくらで生産したいのか、だれにいくらでそれを売り、どれだけもうけ、そのうちのいくらかを生産の近代化のためにつぎこみ、いくらかを配分したいのかを説明するよう求めたい。新聞には、一見退屈そうな見出しで、民主化あるいは有利な地位をめぐるきわめて激しい闘争があらたに反映している。労働者は、企業家として、だれを経営および企業評議会に選出するかをきめることによつて、このたかいたかに参加することができ、また従業員としてかれらは、指導者にふさわしい、有能で誠実な人物を、党籍とは関係なく、労働組合の諸機関に選ぶことによつて、自分たちのためにもっとも有益なことができる。

げんざい現中央政治機関にこれ以上のものを望むことができないとすれば、地区および地域でより多くの成果をあげる必要がある。自己の権力を悪用し、公共の財産に損害をあたえた人びと、不誠実にあるいは残酷にふるまった人びとの退陣を要求しよう。かれらを退陣させる方法を考える必要がある。たとえば、公然たる批判、決議、デモ、職場の示威班、餞別舞会、ストライキ、ボイコットなどである。しかし、アレクサ

ンドル・ドップチュクにたいして同じ方法が用いられるのを防ぐため不法な卑劣な、かつ乱暴な手段は拒否する。われわれは無礼な手紙を書くことに反対であり、それが一般的になって、もしかれらの一人ひとりがこんどこのような手紙を受取るとしても、それはかれら自身が送ったものであると考えてもらってよいようにしなければならない。国民戦線の活動を復活せよ。国民委員会の公開会議を要求しよう。だれも知りたがらない問題にたいしては独自の市民委員会をつくらう。それは簡単である。数人の人が集まり、議長を選び、解決を要求し、だれにもおどしをゆるさないことである。公式見解の代弁者になっている地方および地域の新聞を、すべての積極的な政治勢力の演壇にかえよう。国民戦線の代表からなる編集委員会を設けるか、別の新聞をつくるかしよう。言論の自由を守る委員会をつくらう。自分たちの集会をもつときには、独自の警備班を組織しよう。変なニュースは、それをたしかめよう。関係機関に代表を送り、その回答を問うた上でもはりだそう。本場の犯罪行為を追及するかぎり、保安機関を支持しよう。われわれの意図は、無政府状態や全般的な不安をつくりだすことではない。隣人同士のアラソいはいさげよう、政治の問題では深入りしないようにしよう、スパイを摘発しよう。

共和国全体に夏の移動が活発になり、チェコ人とスロバキア人の国家的関係の調整に関心をよびおこしている。われわれは、連邦化を民族問題解決の方法とみなしているが、それは、民主化のためにとられた重要な措置の一つにすぎない。この措置はそれだけでは

発売中

- ☆チェコスロバキア情勢とイデオロギー問題 (八月上旬号)
- ☆二千語宣言にたいする見解/他八編
- ☆チェコスロバキア情勢をめぐって (八月下旬号)
- チェコスロバキア共産党五月総会でのドップチュク報告/他二編
- 定価各冊九〇円 十二

- 以下の各号にのっています。
- チェコスロバキア二月事件二〇周年 (三月上旬号)
- 二月事件二周年集会でのドップチュク第一書記の演説 (四月下旬号)
- 二月事件二周年集会でのドップチュク第一書記の報告と結語 (六月上旬号)
- チェコスロバキア共産党行動綱領 (全文) (六月下旬・七月上旬号)

中野 啓行 共産 党行 日央 共委



技術者、全市民へのわれわれの宣言を終わる。これは科学者たちの発意によって書かれたものである。署名は、賛成を完全にあつめたものではない。連絡できたかぎりの各種市民グループからなるモデルであるにすぎない。

〔リテラルニ・リステイ〕六月二十七日

タス通信、『プラウダ』が報道した

## チェコスロバキア共産 党中央委員、閣僚、議 員の一部グループのア ピール

チェコスロバキアの市民諸君、労働者、農民、勤労知識人諸君、男女諸君、青年諸君！ 政党政派、民族、宗教、社会的地位のちがいをこえて、わが社会主義祖国をたいせつにし、これをほんとうに祖国とする人びとのすべてに、諸君のすべてにむかって、われわれは、まさに国の運命がまらうとするこの瞬間によびかける。この瞬間は、われわれの歴史を規定し、われわれの社会主義と民主主義のこんごの発展を規定する基本的時点として、永久にのこるだろう。この瞬間に、われわれの問題となつてゐるのは、われわれの二〇年間の努力、われわれの犠牲、われわれの労働によつてたたかいた価値なのである。この瞬間には、すべてが賭けられているのだ。

われわれが諸君によびかける現在、われわれの社会主義制度の成果は、進歩的な措置を悪用しつゝある勢力

ようにし、公然と党機関、国家機関、軍、保安隊、検事局、裁判所、民兵に全面的な支持をあたえること――要するに事態を收拾することが、もっとも重要な任務だということが、一度ならず、とりわけ五月総会で強調されたのはそのためであった。

しかしながら、この寛大や忍耐、党による重大な政治問題の真に民主的な解決方法が、党の強さではなく、党の弱さをしめすものとみな極右勢力は、その活動をいちだんと強化した。周知のようにプラハでは、多数の自然発生的な集會がひらかれて、目にあまる非礼がおこなわれ、各種の分子が党に攻撃をくわえ、しばしば自分らの手でこれらの集會にひっぱりだしてきた黨員たちに侮辱をくわえる仕末であった。市の中心地で、民兵解散署名運動が公然とはじめられた。これらの自然発生的な街頭集會の討論で自説をのべようとする共産主義者は、粗暴なやり方で沈黙をしいられ、物理的暴力をくわえられたことも一度や二度ではなかった。「アウト・プラハ」工場で書簡に署名した人びとの多くは、解雇にいたるまでの恥ずべきやり方で迫害された。新聞雑誌の紙上では、遠まわしにせよ、もっと手のこんだ、他の方法で指導的役員たちをたいする中傷がつけられてゐる。この組織的な破壊活動は、この数日、最高潮に達した。プラハのチェコスロバキア共産党中央委員会書記局の建物に、右翼極端主義者の一団が公然の襲撃をかけたのであった。

つまり、極端主義勢力は党のよびかけに耳をかたむけるどころか、その破壊活動をいちだんと積極化し、なにがなんでも国内に衝突をひきおこそうとかがつてゐる。こういうわけで、わが党の代表たちも署名した、兄弟の六ヶ国共産党・労働者党のプラチスラバ宣言にもとづく義務に、公然と、系統的に違反する情勢が生じたのである。

男女の市民諸君！ いまや、わが国の働く人民がこ

力によって危険にさらされてゐる。これらの進歩的な措置は、チェコスロバキア共産党中央委員会一月総会で党自体がとりはじめ、それらしい真の民主主義、真のヒューマニズム、わが祖国のすべての誠実な市民にとつてたいせつな理想を実現するために党が真剣にすすめてきたものである。

党の提唱により、われわれは一月、わが国民の生活様式と思考様式に適するような、しかも社会と個人のあらゆる前途に結びつくような、社会主義の新しい性格の探求と発見の道にふみだした。党は過去の誤りを公然と批判した。党は、社会主義の人間の、民主的な性格をたしかに奇形化していた個人権力体制の時期とのあいだに、明確な一線を画した。すべての良心的な愛国者の積極的な参加と支持のもとに、党は、過去の誤りをただし、そして明るい、豊かな、幸福な生活の条件をわが祖国につくりだすというきわめて誠実な意図をもつて、はつきりと新しい時期にはいった。

わが国民がわが民主主義、ヒューマニズムとたたき結びつけて考へてきた基本的市民権は、ふたたび行動綱領の思想と進歩的精神のうちに回復された。われわれの社会主義が進展していく長い期間をみこしたこの綱領は、わが国民から空前の大衆的支持をうけた。

この一致した支持が、なによりもまず、われわれの新しい道の正しき、強き、魅力を確認した。この事実とは、とりわけ、一月以前のあらゆる欠陥にもかかわらず、社会主義の思想がわが国民のあいだに深く根をおろし、わが国民が社会主義をその本来的な生活環境とみなしていることを証明した。そして、わが国民が心から真実と公正をもとめる気持は、ほかならぬ一月総会でさだめられた先進的構想となつて現実にあつたのである。これらの構想によつて、社会は不健全な無関心の状態から救ひだされ、こうして、未利用の健全な創意の奔流をせきとめていた水門がすっかりひら

の二〇年間にくりあげたすべてのものが賭けられ、社会主義のすべての成果が賭けられてゐるのだ。われわれが一月にふみだした社会主義的民主主義の道だけでなく、社会主義の基礎そのもの、われわれの共和国も、危険にさらされてゐるのだ。

わが国民にたいする最大の責任を自覚し、真の愛国主義の感情、社会主義的国際連帯の感情にみちあふれ、自己の国際主義的義務を自覚するわれわれは、わが国の社会主義の将来、わが祖国のために、すべての愛国勢力を結集するインシヤチブをとつた。反動派が準備をととのえ、そしてリバン（一九三四年のリバンにおける戦闘をさす――編集者）の悲劇的な再現となるような、兄弟が殺しあう争ひの危険は、ソ連はじめ兄弟の社会主義諸国に援助をもとめる歴史的な決定をおこなふ必要に、われわれを直面させた。われわれの同盟諸国は、われわれの存亡が問題となつた一九四五年のばあいと同様に、この援助をあたえてくれた。

われわれはすべての市民に、われわれの同盟諸国の部隊を極力支持するようによびかける。反動的クーデタの危険が掃きさらされたら、同盟諸国の部隊はチェコスロバキアの領土からひきあげるだろう。いまチェコスロバキアの領土内にいる外国人はみな、こんごも、われわれの手あつてもなしをうけるだろう。かれらがわが国の法律にしたがうかぎり、かれらの安全と不可侵は完全に保障されるだろう。

わが国民、わが国の労働者階級、わが国の諸民族、国際労働者階級、世界共産主義運動にたいする心からの責任感にしたがうわれわれは、この重大な瞬間に、党の現実的に思考する中核のまわりに結集しよう共産主義の市民諸君によびかける。この中核は、社会主義と進歩、一月以後の新しい道の事業をたいせつにし、ソ連国民をはじめ兄弟諸国民との友好の事業をたいせつにするものである。

かれた。わが国民はこの試練をつうじて、みごとに耐えぬき、その高い成熟度をかきかえて証明した。

残念なことに、党の威信をきずつけ、社会を指導する党の政治的、道徳的権利に異論をとなえるための好機を多年のあいだ待っていた勢力は、その目的をのけるため、政治の舞台に積極的のりだすために、わが社会の探求および改造のこの時期につけこんだのであった。党内と党機関のある一定の勢力も、事実上、この右翼勢力に歩みより、それによつて、この一定勢力は党の原則と目的にそむき、プロレタリア国際主義の思想にそむくようになってしまった。この両勢力は結託して、われわれの政治的改革の合憲性の系統的破壊に力をそそぎ、一月の目的を実現しようとする党、国家機関の積極的な努力にたいする闘争に力を集中した。さしせまる危険に公然と注意をうながし、現実の情勢をその複雑な全体において見つめる勇氣をもつていた個々の役員たち（新しいチェコスロバキア共産党指導部の役員たちもふくむ）に泥をぬるため、これらの勢力は卑劣なカンパニアを組織した。それらは社会の秩序をみだし、民族主義の劣情をかきたてた。それらは、われわれのチェコスロバキア社会主義祖国を中傷し、わが国民、われわれの党、軍、公安機関の誠実な活動の中傷することもあえて辞さなかった。それらは、わが国の対外政策の変更を要求した。それらの卑劣なカンパニアは、とりわけワルシャワ条約軍の合同演習に関連させて、ソ連との同盟に攻撃をくわえ、また社会主義諸国との友好に攻撃をくわえるまでになった。

チェコスロバキア共産党、政府、国民戦線は、これにみるほどの忍耐、理解の態度をとりつづけた。

とはいへ、右翼的反社会主義勢力の計画をうちくたき、どんな誤つた措置によつても行動綱領の実現がおびやかされないようにし、極端論者ではなくて党の健全な進歩的中核が党のこんごの路線の問題を決定する

諸君の分別、成熟、政治的自覚を確信するわれわれは、諸君が、わが祖国のすべての誠実な市民、労働者、農民、知識人諸君が、男女、青年諸君が、国民戦線、軍勤務者、公安機関勤務者、共産黨員、非黨員の健全な勢力が、すべての誠実な人びとが、その具体的な行為、具体的な行動によつて、あらゆる反動勢力のいっその攻撃を――党の外部でも内部でも――阻止すべきことをよびかける。盲動、崩壊、無政府状態をゆるしてはならない、公安と秩序を維持しよう。

われわれは一月以前の政治のやり方を拒否する。われわれは、一月以前に恥をさらした方法へ復帰するような兆候をゆるさない。これらの方法は、わが国民の圧倒的多数から決定的な反撃をうけたものであり、党の指導的役割とわが国の勤労者の社会主義的獲得物を危険にさらし、実力行使による衝突の可能性を現実にはらむ事態が生まれるのを助長したものであった。それとは逆に、われわれは、一月の進歩的構想を擁護し、それを最後まで実現しようと考えてゐる。これらの構想は、真に現代的な、更生した、人間的な社会主義社会、すなわちマルクス・レーニン主義の創始者たちと十月革命の勝利後にこれを実現しはじめた人たちが考へてきた社会の建設に、われわれをみちびくものである。

われわれは、わが国の進歩的な民族的伝統にあくまでも忠実であり、これからも忠実であるだろう。これらの伝統は、共和国成立五〇周年とむすびつき、反ファシズム闘争の遺訓、民族の価値、民主主義の価値とむすびつき、スロバキアの民族復興の伝統、一九四五年のプラハ五月蜂起の伝統とむすびつき、一九四八年二月の革命的よびかけとむすびつきについて。「前進せよ、一歩も後退するな」。われわれは、われわれとソ連、その国民、社会主義世界共同体のすべての国民、平和、民主主義、進歩、社会主義のすべての勢力

との同盟関係、友好関係の兄弟的きずなを、ひとみのようにたいせつにしてくださう。これとの価値は、われわれの自主独立、民族的、国家的主権の保障をわれわれにあたえてくれる。もしこれらがなければ、われわれはまたもや、新しいミュンヘンの脅威と、一九三八年にそれをたぐらんだ連中と、正面からぶつかることになるだろう。チェコスロバキアは社会主義国として、社会主義共同体の不可分の構成部分としてのみ発展しうるのである。社会主義共同体の力と結束は、国際革命運動がいっそう発展するための基礎をつくりだす。もし社会主義陣営の力が弱まり、その結束がみだれるならば、そのたびに世界の革命的進歩と社会主義の事業は、想像もつかないほどの損害をうけるだろう。

尊敬する同志諸君、われわれは確信にみちて諸君にいう。われわれは行動をとるに、さしませる危険を阻止するだろう。われわれは力をあわせて、現在の難局をのりきり、わが祖国のため、現在と将来の世代のために、幸福な現在と将来を確保するだろう。

われわれは、シユマワ国境山地からティサ河畔チエリナまで、クルコノシエからドナウ河沿岸までの、すべての諸君によびかける。われわれが「民主主義」、「社会主義」の概念とむすびつけているすべてのものを、われわれはとつての問題として、今日の深刻さ、重大性を理解し、自分の責任を自覚し、われわれが当面もつべき団結、相互信頼を維持してもらいたい。われわれの指導的諸原則は、先見の明、秩序、進歩、社会主義の真理と展望、国家主権、結束した連帯などであり、こんごもそうであらう。

民主主義的社会主義的チェコスロバキア万歳！  
兄弟諸国の政府、共産党に援助をもとめたチェコスロバキア共産党中央委員、閣僚、国民議会議員の一部グループ

(八月二日付「ブラウダ」)

### チェコスロバキア共産党第一四回臨時大会の声明

われわれは、世界のすべての共産党・労働者党にたいし、とくにソ連、ポーランド、ブルガリア、ハンガリー、ドイツ民主共和国の党と人民にたいして、これらの国の軍隊がわが国を占領したことについて訴える。わが党は、一月に社会主義再生の道にふみだした。わが党は、わが国の発展段階の諸条件に応じて、その真に民主的、ヒューマニスティックな基礎を發展させることに着手し、主権と不干渉の原則が尊重され、いっさいの係争問題は話しあい解決されるものと確信している。わが党指導部は、一九六八年一月の間のすべての二党間会談や多党間会談にさいして、この点を出発点にしてきた。チェコスロバキア共産党中央委員会の行動綱領の内容となつてこの政策とその漸次的表現は、わが党の権威と党への支持をかつてなかつたかめた。この道を確保し、促進することが、準備が完了に近づいて第一四回臨時大会の目的になるはずであった。しかし、この大会の前夜にソ連、ポーランド、ハンガリー、ブルガリア、ドイツ民主共和国の軍隊が、合法的な政府と党の活動家の同意もえず、いかなる根拠もなしに、わが国民の意思に反して、わが国の領土を力づくで占領し、国内に不和反目をよびおこし、着手した道の継続を不可能にし、また徐々に不可能に近づいた。われわれが友人としてみなすことになつてきた諸国の軍隊が占領者として行動するといふにがい真実にわれわれは直面してい

る。合憲的なわが国家活動家と党の代表たちは、自分たちの機能をひきつづき遂行することができず、生じた情勢を正常な合法的なしかたで説明する可能性をもつていない。かれらはまた、マスコミ機関となんの接触ももつていない。有名な指導者たちは監禁されている。疑いもなくこうした行為は国際共産主義運動全体に破滅的な結果をもたらすであらう。わが国の人民とわが共産党は、こうしたことについて同意せず、それを拒否し、わが国に正常な生活の条件を回復するためには、この動機から、共産党員および全世論の要求と希望にもついで、地方および地区会議で正規に選ばれた第一四回臨時大会の定数以上の代議員が集つた。われわれは、諸君に緊急によびかけ、援助を要請する。われわれは、社会主義の道を自由に継続することができるとは、われわれの追求しているつぎの要求をなしとげることが必要である。

- 1 党、政府、国民議会、国民戦線およびチェコスロバキア共産党中央委員会の監視されているすべての代表を即時釈放し、同様に共和国大統領の機能遂行が妨げられないようにすること。
- 2 すべての市民的自由と権利をただちに回復させること。
- 3 占領軍のすみやかな撤退をただちに開始すること。

第一四回臨時大会は、正規に民主主義的に選ばれた代表以外に、党と政府のいかなる他の代表もみとめないことを声明する。わが国占領の悲劇的結果に注目しつつ、社会主義の事業のために同志諸君に要請する。われわれの正義の事業に政治的支援をあたえよ、わが国の諸措置に責任を負っている党の代表に自分の見解を表明しよう。共産党・労働者党会議の招集の好機に注目しよう。この会議にはわが党の代表も参加するであらう。この臨時大会でえらばれる代表とともに行動しよう。社会主義の人間の側面を防衛しよう！これがわれわれの共通の国際主義的責務である。

### 激動する世界 I

岡倉古志郎監・AA研究所編  
科学的な立場から、豊富な資料を駆使して、最近のアジア情勢を描きあげる。¥二八〇

### 激動する世界 II

岡倉古志郎監・AA研究所編  
新しい歴史を切りひらくアフリカ・ラテンアメリカ・中東諸国民の闘いを展望¥二八〇

### 国際通貨危機

桑野 仁著  
ゆらぐドルの支配、資本主義経済はどうなるか。国際通貨の危機を究明する。¥二八〇

### 日本の政党内閣

川端 治著  
ますます深刻化する生活不安の根源、自民党政治の歴史・機構・文化の危機を究明¥二四〇

### 現代に生きる宗教者の証言

宗教者平和協議会編 ¥三二〇  
宗教界の良心を代表する著名三十余氏が、宗派をこえて筆をとつた異色の書。

### 原爆ゆるすまじ

被爆者の手記編 ¥二四〇  
原爆投下から二〇年余たった今、生き残った被爆者たちは何を怒り、何を訴えるか。

### 若きマルクス

プロメテウスI・II・III・IV  
セレブリヤコフ著 西本昭治訳  
若きマルクスを描く長編小説  
1.2 ¥二八〇 3.4 ¥二六〇

### 青いノート

カザケービチ著 西本昭治訳  
十月革命の蜂起を目前に、緊張した生活を送るレーニン偉大な革命家を描く ¥二二〇

### プロレタリア文学運動

蔵原惟人・手塚英孝編  
プロレタリア文学運動に参加した人びとが語りつた貴重な歴史と思ひ出 ¥二四〇

### 石川啄木

加藤悌三著  
「明治の青年」啄木を、思想・文学、社会状況のあらゆる面から追求した名著 ¥二八〇

### あなたの音楽手帖

井上頼豊著  
あなたを感動させ、はげまし明日の糧となるよい音楽とは何か？すぐれた演奏家が語る ¥二八〇

### 演劇への道

小場瀬卓三編  
演劇とは何か、その歴史、戯曲、俳優、演出について各分野の第一人者が執筆した入門書 ¥二六〇



## 日本共産党重要論文集

- 1集(上) 一八八頁 二二〇円
- 1集(下) 二八八頁 二七〇円
- 2集 二五四頁 三三〇円
- 3集 二〇八頁 二四〇円
- 4集 二三八頁 二五〇円
- 5集 二三四頁 二五〇円
- 6集 二二六頁 二五〇円

## 修正主義者のいきつくところ

『日本のこえ』批判

B 6判 二二二頁 三六〇円

部分修正主義を支持し、党と人民を裏切った志賀、神山ら『日本のこえ』一派の言説を、系統的に、具体的に批判した論文集。『フルシチョフ解任と『日本のこえ』一派の運命』、『志賀義雄の『国際主義』』第六章からなる論文十九編。

## 反党修正主義と教条主義

B 6判 二九〇頁 三五〇円

本書におさめられた、左右の日和見主義とのたたかひの立場と歴史をあきらかにした論文、かれらの見解を全面的に批判した諸論文は日本共産党の自主独立の立場、二つの戦線での闘争の原則の正しさを具体的にしめす。

## 両翼の日和見主義とのたたかひ

B 6判 二七二頁 三三〇円

一九六七年に発表された『左』右の日和見主義を理論的政治的に批判した論文二十編を系統的に収録。極左・対外冒険分子の思想的退廃、反党修正主義の『左翼』的装いの醜態を突き、全体として両翼の日和見主義者の転落の現時点をあきらかにする。

## 挑発者 トロツキストの正体

B 6判 二〇〇頁 二四〇円

レーニン主義とトロツキズムの相違点を説明するとともに、学生運動、労働運動などの分野におけるトロツキストの策動、および極左日和見主義者との思想的、政治的野合の実態を暴露し、挑発者一掃のたたかひの方向をしめした論文集。

## 今日の毛沢東路線と日本共産党

B 6判 五六七頁 一、二〇〇円

極左日和見主義、大国主義的干渉と、それに盲従する国内の反党分子の言動にたいして、二〇数年來のたたかひのなかで、日本共産党が全面的に展開した批判、反論を問題別に系統的に収録。各分野の活動家や、先進的な人びとにとって欠かすことのできない文獻です。

日本共産党中央委員会出版部発行

日本共産党中央委員会機関紙経営局発売 東京代々木局区内 櫻替東京194897

編集人 世界政治資料編集委員会  
印刷兼発行人 亀田 東 伍  
発行所 日本共産党中央委員会

発売元 日本共産党中央委員会機関紙経営局  
東京都渋谷区手塚ヶ谷4の26の7  
電話 東京 (468) 61111代表  
伝 真 東京 194897

IBM 0756 定価120円(送料12円)